

五 四
 整理豫定圖(雛形第二號)ニハ前項第一號乃至第七號ニ掲ケタル事項ヲ示スヘシ
 整理確定圖(雛形第三號)ニハ第三項第一號乃至第七號ニ掲ケタル事項ノ外土地各筆ノ豫定番號
 及従前ノ土地ニ割當テタル換地ノ部分並其符號ヲ示シ之ニ換地説明書ヲ添付スヘシ
 換地説明書(様式第九號)ニハ整理確定圖ニ基ツキ従前ノ土地ト換地トヲ對照説明スヘシ
 第一號

道	池	原	牧	山	宅	畑	田	地	目	面	積	地	價	筆	數	一	筆	平均	面積
路	沼	野	場	林	地														

溝	畦	何	何	何	何	何	合	字	番	號	地	目	面	積	地	價	等	位	評	定	格	備	考	
渠	畔	々	々	々	々	々	計																	

第六號

合計	者有所			備考
	字番	住所氏名	代理人住所氏名	

一特別ノ價値用途アル土地、官用又ハ公用ニ供スル土地、工作物アル土地及訴訟ノ目的タル土地ハ備考欄ニ其旨ヲ記ス
 一必要アルトキ本號書式ニ面積又ハ地價ヲ記ス
 第七號

工作物ノ表示	者有所	
	住所氏名	住所氏名
字番		
工作物ノ在ル土地目		

第八號

第三權利者	權利ノ目的タル物ノ所在	住所氏名		登記ノ要領
		住所氏名	住所氏名	
土地番號	土地目字			

第三十四年告示
第一五三號
正以テ第九號改正

第九號

換地説明書

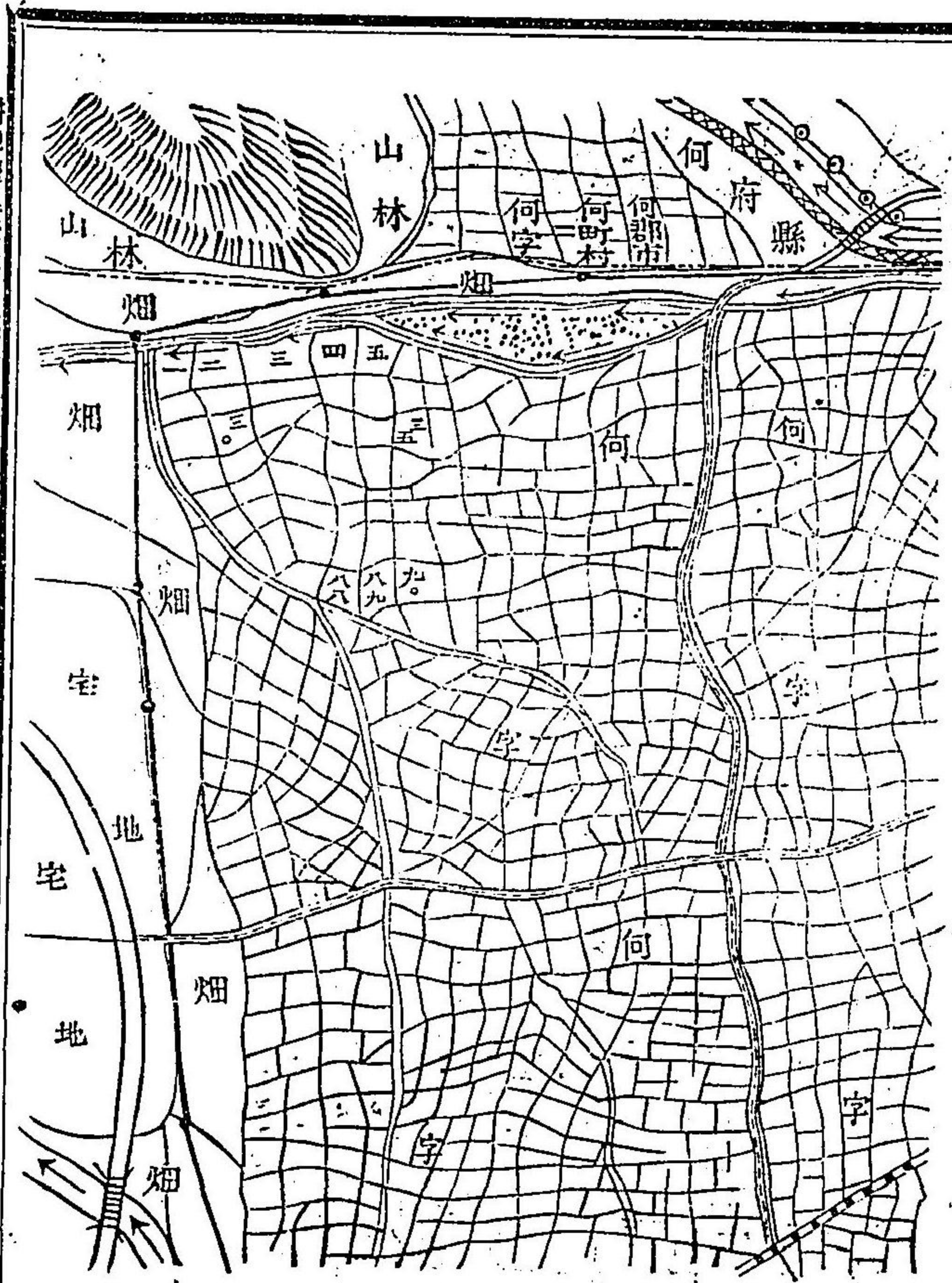
從前ノ土地		換		地	
字番號地目	面積	字番號地目	面積	換地區分	備考
江戸一番田	八畝步	江戸一番田	八畝步		
同 二番田	四畝十五步	同 二番田	一段步	二番二	
同 三番田	五畝十五步	同 二番田	一段步	三番二	
同 四番田	九畝十五步	同 三番田	一段步		
同 五番田	一段十五步	同 四番田	一段步		
同 六番田	二段步	同 五番田	一段步		
同 七番田	八畝步	同 六番田	一段步		
同 七番田	八畝步	同 七番田	一段步		
				北五畝步	地目及面積ノ差ニ對シ金若干ヲ徵收ス
				南四畝十五步	面積十五步ノ差ニ對シ金若干ヲ徵收ス
				北五畝十五步	面積十五步ノ差ニ對シ金若干ヲ交付ス

耕地整理法及同法施行規則ニ揭ケタル參加土地原簿、參加土地權利者名簿及圖面様式、雛形ノ件

第三十四年告示
第一五三號
以テ雛形改正

雛形第一號

何府縣何郡何市何町何村大字
何整理地區及之ニ鄰接スル土地現形圖雛形
縮尺何分ノ一



符號
區境界
小字界
府縣界
山
郡市界
鐵道
町村界
大字界
橋梁
堤塘

注意
一 縮尺ハ適宜トス
二 地圖及水路ハ色別ニシ左ノ例ニ依ルヘシ
山林ハ綠色
原野ハ鼠色
畑ハ黃色
宅地ハ褐色
水ハ藍色

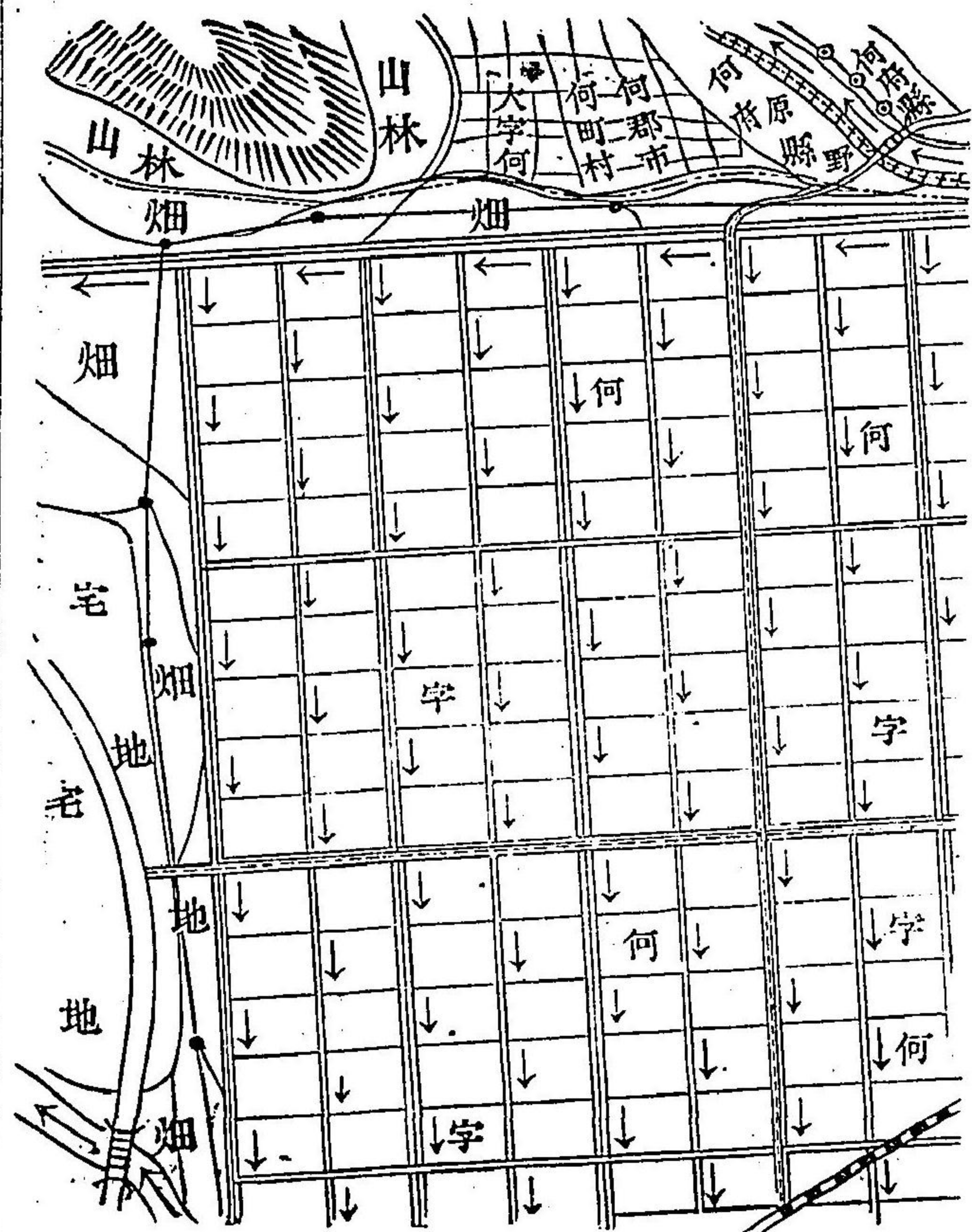
耕地整理法及同法施行規則ニ揭ケタル參加土地原簿、參加土地權利者名簿及圖面様式雛形ノ件

耕地整理法及同法施行規則ニ掲ケタル參加土地原簿參加土地權利者名簿及圖面様式雛形ノ件

雛形第二號

何府縣何郡何市何町村大字何整理豫定圖

縮尺何分ノ一

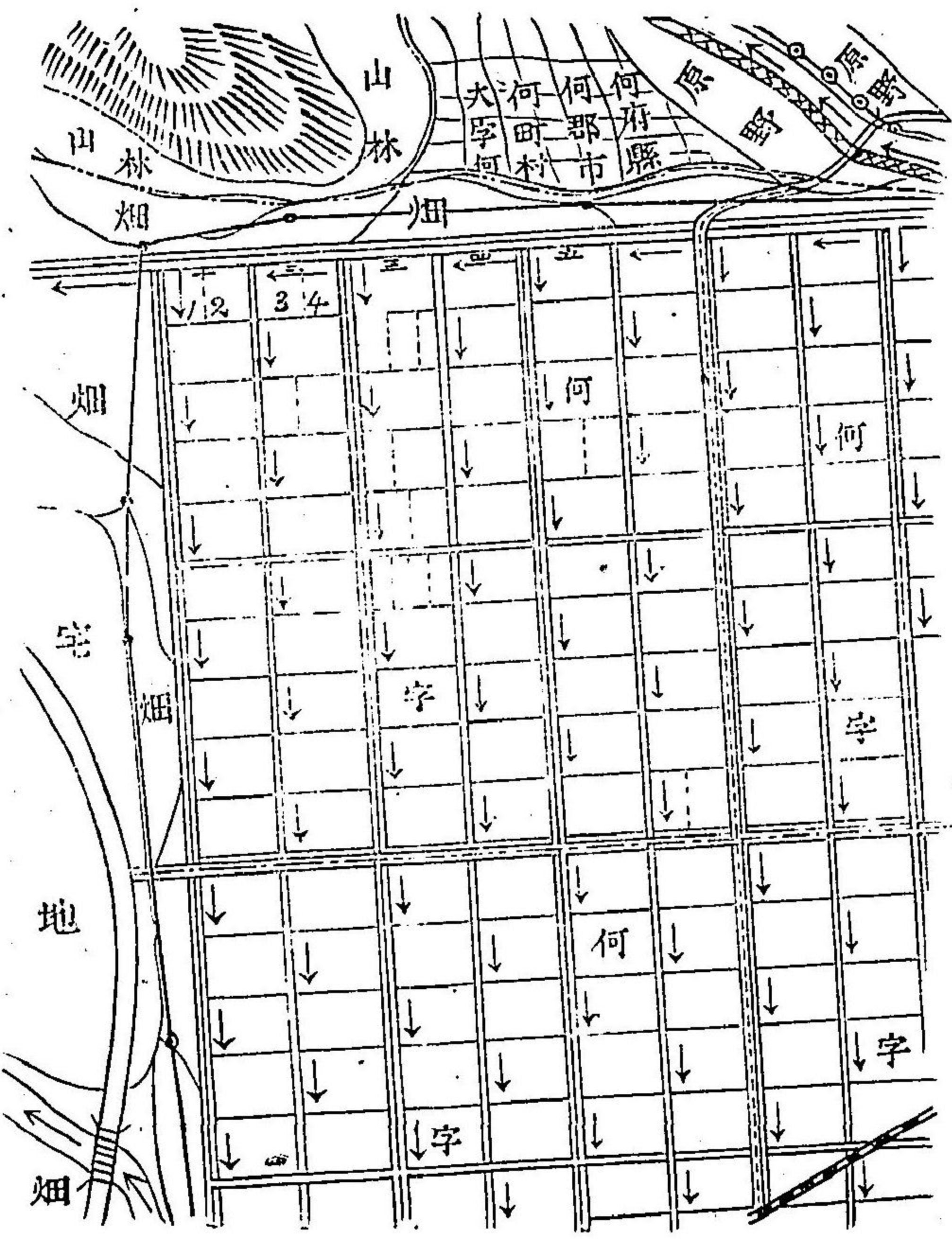


注意
符號及縮尺凡テ第一號ト同一ナルヘシ

雛形第三號

何府縣何郡何市何町村大字何整理確定圖

縮尺何分ノ一



注意
符號及縮尺凡テ第一號ト同一ナルヘシ

耕地整理法及同法施行規則ニ掲ケタル參加土地原簿參加土地權利者名簿及圖面様式ノ件

三十四年省令
第一〇號ヲ以テ
正第一條中改

○肥料取締法施行規則 明治三十四年五月二十一日
省令第五號

- 第一條 肥料ノ製造販賣ノ免許ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル願書ヲ主タル販賣所所在地ノ地方長官(東京府ハ警視 總監以下依之)ニ差出スヘシ
 - 一 製造場及ヒ販賣所ノ位置
 - 二 肥料ノ名稱
 - 三 原料ノ種類
 - 四 肥料ノ製造方法
- 肥料ノ販賣ノ免許ヲ受ケントスル者ハ販賣所ノ位置及ヒ肥料ノ名稱ヲ記載シタル願書ヲ主タル販賣所所在地ノ地方長官ニ差出スヘシ
- 免許ヲ受ケタル者ハ免許ノ日ヨリ二週間内ニ前二項ニ掲ケタル事項ヲ他ノ各販賣所所在地ノ地方長官ニ届出ヘシ
- 第一條ノ二 前條第一項及ヒ第二項ニ掲ケタル事項ヲ變更セントスルトキハ主タル販賣所所在地ノ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ
- 前項ノ認可ヲ受ケタルトキハ其認可ノ日ヨリ二週間内ニ其旨ヲ他ノ各販賣所所在地ノ地方長官ニ届出ヘシ
- 第二條 免許ヲ受ケタル者其氏名、住所ヲ變更シ又ハ其營業ヲ廢止シタルトキハ二週間内ニ其旨ヲ各販賣所所在地ノ地方長官ニ届出ヘシ相續ノ場合ニ於テモ亦同シ
- 第三條 左ノ肥料ヲ製造販賣シ又ハ輸入販賣スル者ハ保證票ニ肥料ノ名稱、肥料百分中ノ主成分量及ヒ自己ノ氏名、住所ヲ記載シ之ヲ肥料ノ各容器又ハ各箇ニ附スヘシ

全上ヲ以テ第
一條ノ二ヲ追
加シ第二條中
改正

全上ヲ以テ第
五條第六條中
改正

- 一 過磷酸石灰、重過磷酸石灰、沈澱磷酸石灰、硝酸鹽類、「アンモニヤ」鹽類、加里鹽類其他理化學的方法ニ依リ製造シタル肥料
 - 二 骨粉、骨炭末、骨灰、肉粉、血粉、「ドーマス」磷肥其他特ニ粉碎シタル肥料
 - 三 菜種油糞及ヒ綿實油糞
 - 四 前各號ノ肥料ヲ調合シ又ハ之ヲ以テ主タル材料トシタル肥料
- 前項ノ規定ハ容器ヲ變更又ハ改造シテ肥料ヲ販賣スル者ニ之ヲ準用ス保證票喪失シ又ハ著シク毀損シタル場合亦同シ
- 主成分量ハ窒素ニ在リテハ全窒素及ヒ硝酸性又ハ「アンモニヤ」性窒素ノ量トシ磷酸ニ在リテハ全磷酸水ニ溶解スル磷酸及ヒ枸橼酸「アンモニヤ」ニ溶解スル磷酸ノ量トス
- 第四條 前條第一項ニ掲ケサル肥料ト雖モ保證票ヲ附セシムルノ必要アリト認めタルトキハ地方長官ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ指定スルコトヲ得
 - 第五條 製造販賣又ハ販賣ヲ營業トスル者ハ各販賣所ニ帳簿ヲ備ヘ肥料ヲ讓渡ス毎ニ其名稱、數量及ヒ知レタル相手方ノ氏名、住所ヲ記載スヘシ
 - 前項ノ帳簿ハ之ニ最終ノ記載ヲ爲シタル日ヨリ二年間之ヲ保存スヘシ
 - 第六條 製造販賣又ハ輸入販賣ヲ營業トスル者ハ毎年一月三十一日マテニ各販賣所ニ於テ前年中ニ販賣シタル肥料ノ種類別ノ數量及ヒ價額ヲ其販賣所所在地ノ地方長官ニ届出ヘシ
 - 第七條 検査ノ爲メ必要ナル肥料ヲ採取セントスルトキハ製造販賣者又ハ販賣者ノ立會ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
 - 採取シタル肥料ハ二分シ之ヲ各別ノ容器ニ密封シ之ニ肥料ノ名稱、製造販賣者又ハ販賣者ノ氏名、採取ノ年月日及ヒ場所ヲ記載シ官吏及ヒ立會人之ニ記名封印スヘシ

同上ヲ以テ第九條ノ二追加第十條中改正

第八條 検査ノ爲メ採取スヘキ肥料ノ總量ハ一種ニ付キ一貫以下トス

第九條 肥料ノ検査ニ従事スル官吏ハ何時ニテモ第五條ノ帳簿ヲ検査スルコトヲ得

第九條ノ二 地方長官必要ト認ムルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ肥料ノ製造販賣又ハ販賣ノ免許、肥料ノ検査其他ノ事務ニ關スル手續ヲ定ムルコトヲ得

第十條 第一條第三項、第一條ノ二、第二條、第三條、第五條若クハ第六條ニ違背シタル者又ハ帳簿ノ検査ヲ拒ミタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

地方長官第四條ニ依リ保證票ヲ附スヘキ肥料ヲ指定シタル場合ニ於テ保證票ヲ附セスシテ之ヲ販賣シタル者亦同シ

附則

同上ヲ以テ第十二條第二項追加

第十一條 本則ハ肥料取締法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十二條 肥料取締法施行前ヨリ肥料ヲ製造販賣シ又ハ之ヲ販賣スル者其營業ヲ繼續セントスルトキハ其施行ノ後二週間内ニ本則第一條ノ願書ヲ差出スヘシ

前項ノ願書ニハ肥料取締法施行ノ當時所有スル肥料ノ種類別數量ヲ記載シタル書類ヲ添附スヘシ

○肥料検査ノ爲メ必要ナル分析鑑定ニ付キ心得方ノ件

明治三十四年八月十七日 訓令第三二二號

一 肥料検査ノ爲メ必要アルトキハ農事試験場本支場ニ肥料ノ分析鑑定ヲ請求スルコトヲ得

二 分析鑑定ヲ請求スルトキハ肥料取締法施行規則第七條ニ依リテ肥料ヲ密封シタル容器ノ一箇ヲ送付スヘシ

三 肥料分析請求書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 肥料ノ名稱
- 二 分析ヲ要スル成分
- 三 生産者又ハ製造販賣者ノ氏名、住所、輸入肥料ニ在リテハ輸入販賣者ノ氏名、住所
- 四 肥料鑑定請求書ニハ前項第一號及ヒ第三號ニ掲ケタル事項ノ外鑑定ヲ要スル事項ヲ記載スヘシ
- 五 本令ニ依リテ分析鑑定ヲ請求スル場合ニ於テハ手数料ヲ納付スルコトヲ要セス
- 六 分析鑑定ヲ要スル肥料ノ送付ニ關スル費用ハ其應府縣ニ於テ肥料検査費中ヨリ之ヲ支辨スヘシ

○害虫驅除豫防法

明治二十九年三月二十四日 法律第一七號

第三十五年法律第九號ヲ以テ改正

第一條 此ノ法律ニ於テ害虫ト稱スルハ農作物ヲ害スル各種ノ蟲類ヲ謂フ

第二條 驅除豫防スヘキ害虫ノ種類及驅除豫防ノ方法ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定ム認可ヲ經タル種類以外ノ害虫發生シ急速ノ處分ヲ要スルトキハ地方長官ハ臨時驅除豫防ノ方法ヲ定メ之ヲ施行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ直ニ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ具申スヘシ

第三條 害虫田畑ニ發生シタルトキ又ハ發生ノ虞アルトキハ地方長官ハ豫メ期限ヲ定メ該田畑ノ作人ヲシテ驅除豫防ヲ行ハシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ作人驅除豫防ヲ行ハサルトキハ地方長官ハ市町村費ヲ以テ之ヲ行ヒ市町村ヲシテ該作人ヨリ其ノ費用ヲ徴收セシムルコトヲ得其ノ費用ノ徴收ニ關シテハ市制第百二條及町村制

第二百二條ヲ適用ス

第四條 害蟲蔓延シタルトキ又ハ蔓延ノ兆アルトキ若ハ害蟲田畑以外ノ地ニ發生シタルトキ又ハ發生ノ虞アルトキハ地方長官ハ市町村費ヲ以テ驅除豫防ヲ行フコトヲ得

第五條 地方長官ハ前條ノ驅除豫防ノ爲ニ市町村ニ命シテ夫役ヲ市町村全部又ハ一部ノ田畑ノ作人及所有者ニ賦課セシムルコトヲ得

夫役ハ害蟲ノ種類ニ依リテ田又ハ畑ニ區別シテ賦課スルコトヲ得

夫役ノ賦課ハ段別又ハ地價ヲ以テ準率ト爲スヘシ

夫役ハ各別ノ率ニ據リ小作人、自作人及地主ニ賦課スルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テハ市制第二百二十三條及町村制第二百二十七條ヲ適用セス

第六條 地方長官ハ驅除豫防ノ爲必要アルトキハ市町村費ヲ以テ溝渠ヲ設ケ又ハ農作物、藁稈、刈株、雜草ヲ拔棄若ハ燒棄スルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テハ第五條ノ規定ヲ適用ス

第七條 驅除豫防ノ必要ヨリ生シタル損害ニ對シ被害者ハ賠償ヲ要求スルコトヲ得ス

第八條 土地所有者、管理者又ハ使用者ハ官吏及其ノ指揮ヲ承クル者ノ其ノ地ニ入り驅除豫防ニ從事スルヲ拒ムコトヲ得ス

第九條 地方長官又ハ郡長ハ必要ナル場合ニ於テハ北海道地方費府縣稅(地方稅)又ハ郡費ヲ以テ第三條、第四條、第六條ノ費用ヲ補助シ若ハ驅除豫防ニ必要ナル器具ヲ給與シ又ハ貸與スルコトヲ得

第十條 蟲類以外ノ動物又ハ微菌ト雖農作物ヲ害スルトキ又ハ害スルノ虞アルトキハ地方長官ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ此ノ法律ヲ適用スルコトヲ得

第十一條 第三條ノ場合ニ於テ地方長官ノ命令ニ從ハサル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料又ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第十二條 第六條及第八條ニ依レル官吏若ハ其ノ指揮ヲ承クル者ノ行爲ヲ妨害スル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金又ハ十一日以上二十日以下ノ重禁錮ニ處ス

第十三條 本法中市町村ニ關スル規定ハ北海道ノ區町村、沖繩縣ノ區間切島及市制、町村制ヲ施行セサル地方ニ於ケル市町村ニ準スヘキモノニ之ヲ準用ス

第十四條 此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

○農事試驗場官制 明治二十六年四月七日 勅令第一八號

第一條 農事試驗場ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一 農産ノ増殖改良ニ關スル試驗

二 巡回講話

三 土壤、肥料、農産物、農産製造品其ノ他農業上ニ關係アル物料ノ分析鑑定

技師

技手

書記

第二條 場長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ場中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ場務ヲ掌ル專任技師ハ四十人ヲ以テ定員トス

二十九勅令
第五十二號ヲ
以テ第一條第
三號ヲ下ノ如
ク改ム

三十五年勅令
第一〇五號ヲ
以テ定員改正

- 第五條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ場務ニ從事ス專任技手ハ二十六人ヲ以テ定員トス
- 第六條 書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス專任書記ハ十二人ヲ以テ定員トス
- 第七條 農商務大臣ハ必要ト認ムル地ニ農事試驗場支場ヲ置キ農事試驗場職員ヲ派シ本場ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得
- 第八條 農事試驗場及支場ノ名稱位置及管轄區域ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル

○農事試驗場處務規程 明治三十五年七月十日
訓令第十四號

- 第一條 農事試驗場ニ種藝部、農藝化學部、昆蟲部、病理部、煙草部、園藝部、報告部、庶務部ヲ置ク
- 第二條 種藝部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 農作物及牧草ノ種類撰擇、耕耘肥培ニ關スル事項
 - 二 種苗ノ鑑定ニ關スル事項
 - 三 收穫及貯藏ニ關スル事項
 - 四 農産製造ニ關スル事項
 - 五 農具ノ改良ニ關スル事項
 - 六 耕地ノ改良ニ關スル事項
 - 七 灌溉、排水ニ關スル事項
 - 八 家畜、家禽ノ飼育肥膩ニ關スル事項
 - 九 氣候、土壤、肥料ト農作物トノ關係事項
 - 十 種苗配布ニ關スル事項

第三條 農藝化學部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 農業ニ關係アル物料ノ分析ニ關スル事項
- 二 依頼ニ係ル分析鑑定ニ關スル事項
- 三 土壤、肥料飼料農作物ノ化學的研究ニ關スル事項
- 四 植物生理、農藝細菌ノ化學的研究ニ關スル事項
- 五 有毒物ト植物トノ關係事項
- 六 農産製造法ニ關スル事項

第四條 昆蟲部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 害蟲、益蟲、有害動物ノ發生經過及分類ニ關スル事項
- 二 害蟲及有害動物ノ豫防驅除ニ關スル事項
- 三 驅除用藥品機械等ノ研究鑑定並ニ設計ニ關スル事項
- 四 益蟲ノ應用ヲ關スル事項
- 五 害蟲、益蟲、有害動物ト氣候トノ關係事項
- 六 害蟲、益蟲、有害動物ノ地理上分布ニ關スル事項

第五條 病理部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 農作物病害ノ原因研究ニ關スル事項
- 二 農作物病害ノ豫防治療ニ關スル事項
- 三 殺菌用藥品、機械等ノ研究、鑑定並ニ設計ニ關スル事項
- 四 有益菌類ノ應用ニ關スル事項
- 五 農作物病害ト氣候、土壤、肥料トノ關係事項

第六條

- 一 煙草部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 二 煙草ノ品質ト氣候、土質、肥料トノ關係事項
- 三 收穫、乾燥、貯藏ニ關スル事項
- 四 撰別及調製ニ關スル事項
- 五 醱酵ニ關スル事項
- 六 葉卷煙草、紙卷煙草ノ試製ニ關スル事項
- 七 傳習ニ關スル事項

第七條

- 一 園藝部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 二 種苗ノ鑑定ニ關スル事項
- 三 收穫、貯藏、製造ニ關スル事項
- 四 促成栽培ニ關スル事項
- 五 種苗ノ配布ニ關スル事項

第八條

- 一 質問應答ニ關スル事項
- 二 依託試驗ニ關スル事項
- 三 講話ニ關スル事項
- 四 調査ニ關スル事項

第九條 報告部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 試驗成績、報告ノ編纂、刊行ニ關スル事項
- 二 試驗成績、報告等ノ保管ニ關スル事項

第十條 庶務部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 場員ノ進退身分ニ關スル事項
- 二 公文書類ノ接受及發送ニ關スル事項
- 三 會計事務ニ關スル事項
- 四 守衛、給仕、小使、定夫等ノ採罷、取締ニ關スル事項
- 五 他部ノ主掌ニ屬セサル事項

第十一條 農事試驗場長ハ官制ノ定ムル所ニ隨ヒ主管事務ノ整理ニ付其ノ責ニ任ス

第十二條 支場長ハ場長ノ指揮監督ヲ受ケ支場全般ノ事務ヲ處理スヘシ

第十三條 場長又ハ支場長事故アルトキハ所部ノ官吏ニ代理ヲ命シ又ハ主管事務ノ幾分ヲ委任シ自己ノ名義ヲ以テ之ヲ處辨セシムルコトヲ得

第十四條 場長又ハ支場長ハ所部官吏ノ歸省、看護、墓參、轉地療養願ヲ許可シ及除服出仕ヲ命スルコトヲ得

第十五條 場長ハ月俸二十圓又ハ日給五十錢ヲ超エサル僱員ノ採用解免ハ之ヲ專行スルコトヲ得

第十六條 場長ハ事務整理ノ爲メ經伺ノ上場中處務細則ヲ設クルコトヲ得

第十七條 場長ハ試驗成績ヲ審查編纂シ農商務大臣ニ報告スヘシ但シ臨時緊要ト認ムル試驗成績ハ時々報告スヘシ

第十八條 場長又ハ支場長ハ其ノ主管事務ニ付各官廳ニ照會往復スルコトヲ得

第十九條 農談會、講習會、品評會、共進會等ノ爲メ旅費ヲ支辨シ場員ノ出張巡廻ヲ申出ツルモノ

アルトキハ本場ニ於テハ場長之ヲ許否シ支場ニ於テハ其ノ出張ノ日數十日ヲ超ユルモノハ場長ノ指揮ヲ受ケ其ノ他ハ支場長之ヲ許否シ其ノ旨ヲ場長ニ報告スヘシ場長又ハ支場長ノ出張ヲ要スル場合ニ於テ日數十日以内ナルトキハ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ報告シ十日ヲ超ユルトキハ農商務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第二十條 場長ハ場務ノ爲メ場員ノ出張巡回ヲ命スルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ請フヘ但シ至急ヲ要シ經伺ノ暇ナキ場合ニ於テハ場長之ヲ命シ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第二十一條 分析鑑定ノ求ニ應シ其ノ結果ヲ依頼者ニ通知スルトキハ場長又ハ支場長ハ各其ノ擔任者ト共ニ通知書ニ署名スヘシ

第二十二條 本場及支場ニ於テハ見習生ヲ入場セシムルコトヲ得

見習生ノ費用ハ自辨タルヘシ

見習生ノ入場ニ關スル規定及其ノ人員ハ場長之ヲ定ムヘシ

第二十三條 農商務大臣ニ經伺又ハ報告ヲ要スル事項ハ總テ農務局長ヲ經由スヘシ

○道廳、府縣、郡、市、農事、工業、水産試験場、農事、工業、水産講習所及種畜場職員並農事、工業、林業、水産巡迴教師ノ名稱待遇任免及官等等級配當ノ件 明治三十一年十二月十三日 勅令第三四八號

第一條 本令ニ於テ道廳府縣郡市農事試験場工業試験場水産試験場農事講習所工業講習所水産講習所種畜場農事巡迴教師工業巡迴教師林業巡迴教師及水産巡迴教師ト稱スルハ北海道地方費府縣稅(又ハ地方稅)又ハ郡費ヲ以テ常置スルモノヲ謂フ

第三十四年勅令
第一五九號及
第二二四號ヲ
正以テ各條中改

第二條 道廳府縣郡市農事試験場工業試験場、水産試験場及種畜場ノ職員左ノ如シ

場長

技師

技手

書記

場長ハ技師又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ郡費ヲ以テ設立スル試験場ハ技師二名以上ヲ置クコトヲ得ス

第三條 道廳府縣郡市農事講習所工業講習所及水産講習所ノ職員左ノ如シ

所長

技師

技手

書記

所長ハ技師又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ郡費ヲ以テ設立スル講習所ハ技師二名以上ヲ置クコトヲ得ス

第四條 道廳府縣郡市農事試験場工業試験場水産試験場農事講習所工業講習所水産講習所及種畜場ノ技師ハ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受ク

道廳府縣郡市農事試験場工業試験場水産試験場農事講習所工業講習所水産講習所及種畜場ノ技手

書記並農事巡迴教師工業巡迴教師林業巡迴教師及水産巡迴教師ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受ク但

シ北海道地方費府縣稅又ハ地方稅支辨ノ俸給ヲ受クル巡迴教師ハ特ニ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受

クルコトアルヘシ

第五條 前條奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ノ任免ハ明治二十五年勅令第九十六號高等官官等俸

給令第四條第五條ノ例ニ依リ之ヲ行ヒ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ノ任免ハ北海道廳長官府

道廳府縣、郡、市、農事、工業、水産試験場、農事、工業、水産講習所及種畜場職員並農事、工業、林業、水産巡迴教師ノ名稱待遇任免及官等等級配當ノ件

道廳府縣、郡、市、農事、工業、水産試驗場、農事、工業、水産講習所及種畜場職員並農事、工業、水産巡回教師ノ名稱待遇任免及官等等級配ノ件

縣知事之ヲ行フ

第六條 第二條第三條及第四條ノ技師技手及巡回教師ハ特別ノ學術技藝アル者ヨリ任用スヘシ
第七條 道廳府縣郡市農事試驗場工業試驗場水産試驗場農事講習所工業講習所水産講習所及種畜場職員並農事巡回教師工業巡回教師林業巡回教師及水産巡回教師ニシテ奏任文官又ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ノ官等等級ハ其ノ俸給額ニ應シ別表ニ依リ文武高等官官等又ハ文武判任官官等ニ配當ス

奏任文官又ハ判任文官若ハ之ト同一ノ待遇ヲ受クル者ニシテ同時ニ道廳府縣郡市農事試驗場工業試驗場水産試驗場農事講習所工業講習所水産講習所及種畜場職員並農事巡回教師工業巡回教師林業巡回教師及水産巡回教師ニ任用セラレタル者ノ官等等級配當方ハ本官官等等級若ハ本務ニ於テ配當セラレタル官等等級ニ依ル

本令ニ依リ奏任文官又ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ハ同官等内又ハ同等級内ニ於テハ文武官吏ノ次席タルヘシ

附則

第八條 本令ハ明治三十二年一月十日ヨリ施行ス

第九條 明治二十七年勅令第百八十七號明治二十九年勅令第三百八十八號及明治三十年勅令第四十六號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

(別表)

奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル道廳府縣郡市農事試驗場工業試驗場水産試驗場農事講習所工業講習所水産講習所及種畜場ノ技師並農事工業水産林業各巡回教師官等配當表

奏

任

五等	年俸 千四百圓以上	年俸 千二百圓以上	年俸 千四百圓未滿	年俸 千八百圓以上	年俸 千二百圓未滿	年俸 八百圓以上	年俸 六百圓未滿
----	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	----------

判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル道廳府縣郡市農事試驗場工業試驗場水産試驗場農事講習所工業講習所水産講習所及種畜場職員並農事工業水産林業各巡回教師等級配當表

判

任

道廳府縣郡市農事試驗場工業試驗場水産講習所及種畜場技手	道廳府縣郡市農事試驗場工業試驗場水産講習所及種畜場技手	道廳府縣郡市農事試驗場工業試驗場水産講習所及種畜場技手	道廳府縣郡市農事試驗場工業試驗場水産講習所及種畜場技手	道廳府縣郡市農事試驗場工業試驗場水産講習所及種畜場技手	道廳府縣郡市農事試驗場工業試驗場水産講習所及種畜場技手	道廳府縣郡市農事試驗場工業試驗場水産講習所及種畜場技手	道廳府縣郡市農事試驗場工業試驗場水産講習所及種畜場技手
月俸 六十圓以上	月俸 四十五圓以上	月俸 三十五圓以上	月俸 四十五圓未滿	月俸 三十五圓以上	月俸 三十五圓未滿	月俸 三十五圓以上	月俸 三十五圓未滿

蠶業講習所官制

明治三十二年三月三十日 勅令第八九號

第一條 蠶業講習所ハ二箇所トス農商務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル
一 蠶絲業ニ關スル講習

蠶業講習所官制

第三十五年勅令第一〇六號ヲ以テ第一條第一條中改正

- 二 蠶絲業ニ關スル試験及調査
- 三 巡回講話
- 四 蠶種配布
- 五 質問應答

第二條 蠶業講習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長

技師

舍監

技手

書記

第三條 所長ハ一人技師ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ掌ル

第五條 舍監ハ技師技手又ハ書記ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ承ケ講習生ノ取締ヲ掌ル

第六條 技手ハ上官ノ命ヲ承ケ所務ニ従事ス

第七條 書記ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第八條 蠶業講習所ヲ通シテ專任技師十一人專任技手十七人專任書記七人ヲ以テ定員トス

第九條 蠶業講習所ノ位置及名稱ハ農商務大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第三十五年勅令
第一〇六號ヲ
以テ定員改正

○蠶業講習所處務規程 明治三十五年四月二日決定

第一條 蠶業講習所ニ養蠶製絲ノ二部及報告庶務ノ二課ヲ置ク

第二條 養蠶部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 養蠶業ニ關スル學理及實地ノ講習

一 養蠶業ニ關スル試験及調査

一 養蠶業ニ關スル巡回講話

一 蠶種配布

一 養蠶業ニ關スル質問應答

第三條 製絲部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 製絲業ニ關スル學理及實地ノ講習

一 製絲業ニ關スル試験及調査

一 製絲業ニ關スル巡回講話

一 製絲業ニ關スル質問應答

第四條 報告課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 養蠶製絲ニ關スル諸報告ノ編纂

一 圖書報告書類ノ保管

一 養蠶製絲ニ關スル統計

第五條 庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 公文書類及成案文書ノ接受發送ノコト

- 一 所員進退出張等ニ關スルコト
- 一 其他養蠶製絲ノ二部及報告課ニ關セサルノ事項
- 第六條 蠶業講習所長ハ官制ノ定ムル所ニ從ヒ主管事務ノ處理ニ付其責ニ任ス
- 第七條 蠶業講習所長事故アルトキハ部下ノ官吏ニ代理ヲ命シ又主管事務ノ幾分ヲ委任シ自己ノ名義ヲ以テ之ヲ處辨セシムルコトヲ得
- 第八條 蠶業講習所長ハ部下ノ官吏ノ歸省看護募參轉地療養願ヲ許可シ及除服出仕ヲ命スルコトヲ得
- 第九條 蠶業講習所長ハ月俸貳拾圓又ハ日給五拾錢ヲ超エサル備員ノ採用解免ハ之ヲ專行スルコトヲ得
- 第十條 蠶業講習所長ハ事務處理ノ爲メ經伺ノ上所中處務細則及講習規程ヲ設クルコトヲ得
- 第十一條 蠶業講習所長ハ傳習生ノ募集人員ヲ定メ農商務大臣ノ承認ヲ請フヘシ
- 第十二條 蠶業講習所長ハ試驗項目及其擔任者ヲ定メ農商務大臣ニ報告スヘシ
- 第十三條 試驗成績ハ各擔任者ニ於テ試驗終了ノ日ヨリ二箇月以内ニ蠶業講習所長ニ報告スヘシ
- 第十四條 蠶業講習所長ハ試驗成績ヲ審査編纂シ毎年一回農商務大臣ニ報告スヘシ
但臨時緊要ト認ムル試驗成績ハ時々報告スヘシ
- 第十五條 蠶業講習所長ハ毎年配布蠶種ノ枚數ヲ定メ配布ノ手續ヲナスヘシ
- 第十六條 蠶業講習所長ハ卒業シタル生徒ニ交付スヘキ證書ニ署名スヘシ
- 第十七條 蠶業講習所長ハ其主管事務ニ付各官廳ニ照會往復スルコトヲ得
- 第十八條 巡回講話若クハ講習會品評會等ノ爲メ旅費ヲ支辨シ所員ノ出張巡回ヲ申出ル者アルトキハ所長ニ於テ許否シ所長出張巡回ヲ要スル場合ニ於テハ日數十日以内ナルトキハ其旨ヲ農商務大臣ニ報告シ十日ヲ超ユルトキハ認可ヲ請フヘシ
- 第十九條 蠶業講習所長ハ所務ノ爲メ所員ノ出張巡回ヲ命スルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ請フヘシ

但至急ヲ要シ經伺ノ暇ナキ場合ニ於テハ所長之ヲ命シ其旨農商務大臣ニ報告スヘシ
第二十條 農商務大臣ニ經伺又ハ報告ヲ要スル事項ハ總テ農務局長ヲ經由スヘシ

附則

本規程ノ製絲部ハ當分ノ内東京蠶業講習所ニノミ之ヲ置キ京都蠶業講習所ニ於テハ製絲ニ關スル事務ハ養蠶部ニ於テ之ヲ掌ル

○蠶業講習所長委任事項 明治三十五年九月三十日決定

- 一 標本又ハ備品ヲ廳府縣ノ申請若クハ會社團體等ノ出願ニ對シ貸與ノ件
- 二 寄贈ノ圖書標本等ノ領收證及謝狀發送ノ件
- 三 一廉五百圓ヲ超ヘサル印刷物ノ調製物件ノ買入、借入、人夫ノ備入及建設物ノ新營修繕ノ件
- 四 見積金額二百圓ヲ超ヘサル生産物及不用品ノ賣却並ニ買受人ナキモノ棄損ノ件
- 五 官吏出張先ニ於テ公務ニ要スル通信運搬費金額五十圓以下處理ノ件
- 六 守衛、給仕、小使、職工、定傭夫女、工夫女ノ探罷並賞與ノ件
- 七 所務ノ爲メ所員ノ出張巡回ヲ要スルトキハ日數十日ヲ超ヘサルモノ處理ノ件
- 八 所員出張巡回ニ際シ必要ト認ムルトキ順路指定ノ件
- 九 所員ノ出張歸所屆處理ノ件
- 十 官報々告ニ關スル件
- 十一 諸印刷物配付ノ件
- 十二 出版圖書ヲ内務省ヘ送付版權登錄ヲ得ントコトヲ全省ヘ通知ノ件

- 十三 内外ノ報告類ヲ當業者及新聞社等へ下付ノ件
- 十四 應中ニ於テ遺失品アルトキ處分ノ件

○生絲検査所官制 明治二十八年七月三日 勅令第九三號

第三十五年勅令
第一〇七號ヲ
以テ第一條中
改正

- 第一條 生絲検査所ニ左ノ職員ヲ置ク
所長
- 技師 專任六人
- 技手 專任十七人
- 書記 專任六人
- 第二條 所長ハ一人奏任トス技師ヲシテ之ヲ兼ネシム農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中全般ノ事務ヲ掌理ス
- 第三條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ掌ル
- 第四條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ニ従事ス
- 第五條 書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

○馬匹去勢法施行準備ニ關スル臨時職員ノ件 明治三十五年三月二十七日 勅令第一一三號

馬匹去勢法施行準備ニ關スル事務ヲ掌理セシムル爲農商務省ニ臨時左ノ職員ヲ置キ農務局ニ屬セシム

- 農務局事務官 專任一人 奏任
- 農務局技師 專任四人
- 農務局屬 專任四人 判任
- 農務局技手 專任六人
- 附則

本令ハ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○馬匹去勢術練習生規則 明治三十五年二月二十二日 省令第二號

- 第一條 馬匹去勢術練習生ハ年齡滿十八歳以上四十歳以下ニシテ獸醫免許規則第二條ノ資格ヲ有スル者ヨリ試験ノ上採用スルモノトス
- 第二條 練習生ノ募集及ヒ試験ニ關スル手續ハ地方長官ヲシテ之ヲ行ハシム
- 試驗ニ依リテ採用スヘキ人員、試験ノ期日及ヒ場所ハ地方長官之ヲ公告ス
- 第三條 練習生ヲ志願スル者ハ制規ノ願書ニ履歷書、獸醫免許規則第二條ノ資格ヲ證明スルニ足ル書面及ヒ醫師ノ體格檢定書ヲ添附シ地方長官ヲ經由シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ
- 第四條 練習生ハ軍馬補充部ニ委託シテ修業セシム
- 修業期ハ毎年春夏ノ交二箇月ヲ一期トシ二期ヲ以テ了ルモノトス但時宜ニ依リ之ヲ伸縮スルコトアルヘシ
- 第五條 練習生ニハ修業期中一箇月金二十圓以内ノ手當ヲ支給ス但旅費ハ之ヲ支給セス
- 第六條 練習生規則命令ニ違背シ又ハ成業ノ見込ナシト認ムルトキハ之ヲ免スヘシ

第七條 練習生修業ヲ了ヘタルトキハ其成績ヲ考査シ修業證書ヲ交付スヘシ

第八條 練習生ハ修業證書ヲ受ケタル後三年間農商務大臣ノ指定スル所ニ從ヒ去勢技術者トシテ奉職スル義務ヲ有ス

第九條 左ノ場合ニ於テハ修業期中支給シタル手當金ノ全部又ハ一部ヲ償還セシムルコトアルヘシ

一 修業中自己ノ便宜ニ因リ練習生ヲ辭シタルトキ

二 第六條ニ依リ練習生ヲ免セラレタルトキ

三 第八條ノ義務ヲ履行セザルトキ

四 奉職義務年限中懲戒ニ由リ免官又ハ免職セラレタルトキ

馬匹去勢術練習生志願書

私儀馬匹去勢術練習生志願ニ付御試験ノ上御採用相成度修業中及ヒ修業後ハ馬匹去勢術練習生規則及ヒ其他ノ御命令堅ク遵守可致且本人身上ニ關スル件ハ保證人ニ於テ一切引受可申此段連署ヲ以テ相願候也

年月日

族籍住所職業子弟

願人

氏

名 印

族籍住所職業

保證人

氏

名 印

農商務大臣宛

○ 獸疫及畜牛結核病豫防ニ關スル費用負擔區分ノ件

明治卅四年六月廿七日 勅令第一三九號

第一條 獸疫豫防法第十六條及畜牛結核病豫防法第十六條ニ依リ獸疫及畜牛結核病豫防ニ關スル費用負擔ノ區分ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一 左ノ費用ハ國庫ノ負擔トス

一 獸類撲殺及物品棄却手當

一 臨時獸醫備入手當及旅費

一 市町村吏員ニ非サル檢疫委員及畜牛結核病検査員ノ旅費

一 評價人手當及旅費

一 消毒用藥品費

第二 左ノ費用ハ北海道地方費及府縣ノ負擔トス

一 器具器械費

一 被服費

一 通信及器具器械運搬費

一 家屋其ノ他借料

一 國庫ノ負擔ニ屬スルモノヲ除クノ外檢疫委員ノ手當及旅費並畜牛結核病検査員ノ手當

一 畜牛結核病豫防ノ爲要スル備人料

一 雜費

第三 左ノ費用ハ市町村ノ負擔トス

一 獸疫豫防ノ爲要スル備人料

第三十五年勅令
第一三三號
第三號
改正

- 一 獸疫豫防ノ爲要スル標示費
 - 第四 左ノ費用ハ一個人ノ負擔トス
 - 一 獸類ノ牽付、鎖飼、撲殺及其ノ屍體並物品ノ棄却ニ要スル費用
 - 一 検査、繋留又ハ鎖飼中ニ要スル飼料等ノ費用
 - 第二條 獸疫豫防法第十五條ニ依ル検査費及畜牛結核病豫防法第七條ニ依ル検査費ハ前條第四ニ掲クルモノヲ除クノ外國庫ノ負擔トス
 - 第三條 沖繩縣ニ於テハ當分ノ内府縣及市町村ノ負擔ニ屬スル費用ハ國庫ノ負擔トス
- 附則
- 明治廿九年勅令第三百七十七號ハ之ヲ廢止ス

○畜牛結核病豫防法 明治三十四年四月十二日 法律第三五號

- 第一條 乳用牛、外國種牛及雜種牛ハ結核病ノ有無又ハ輕重ヲ定ムル爲行政官廳ニ於テ之ヲ検査ス 結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ニ付テモ亦同シ
- 第二條 乳用牛、種牡牛及結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ノ検査ハ「ツベルクリン」注射ノ方法ニ依リ之ヲ行フ
- 第三條 検査ノ期日及場所ハ行政官廳之ヲ指定ス
- 第一條ニ掲ケタル畜牛ノ所有者又ハ管理者ハ前項ノ指定ニ從ヒ其ノ検査ヲ受クヘシ
- 第四條 結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ヲ發見シタルトキハ所有者、管理者又ハ獸醫ニ於テ直ニ

之ヲ屈出ツヘシ

- 第五條 結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ハ検査員ノ指揮ニ從ヒ所有者又ハ管理者ニ於テ之ヲ隔離スヘシ
- 第六條 重症結核病ニ罹リタル畜牛ハ検査員ノ指揮ニ從ヒ所有者又ハ管理者ニ於テ之ヲ撲殺スヘシ 輕症結核病ニ罹リタル畜牛ハ検査員ノ指揮ニ從ヒ所有者又ハ管理者ニ於テ之ヲ鎖飼スヘシ
- 第七條 外國ヨリ輸入スル畜牛ハ輸入申告後特ニ定メタル場所ニ於テ「ツベルクリン」注射ノ方法ニ依リ之ヲ検査ス
- 前項ノ検査ニ關シテハ税關長及検査員ノ指揮ニ從フヘシ
- 第一項ノ畜牛ニシテ結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アルトキハ税關長又ハ検査員ニ於テ其ノ輸入ノ禁止ヲ繋留其ノ他必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得
- 第八條 前條ニ依リ輸入ヲ禁止セラレタル者畜牛ヲ撲殺セムトスルトキハ税關長及検査員ノ指揮ニ從フヘシ
- 第九條 結核病ニ罹リタル畜牛ノ乳汁、屍體及其ノ部分、畜牛ヲ置キタル場所並病毒ニ汚染シ及其ノ疑アル物品ハ検査員ノ指揮ニ從ヒ所有者又ハ管理者ニ於テ之ヲ消毒スヘシ
- 第十條 重症結核病ニ罹リタル畜牛ノ乳汁並屍體及其ノ部分ハ皮角蹄ヲ除クノ外検査員ノ指揮ニ從ヒ所有者又ハ管理者ニ於テ之ヲ燒棄又ハ埋却スヘシ但シ認可ヲ得タル裝置ヲ以テ化製スルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 輕症結核病ニ罹リタル畜牛ノ乳汁並屍體及其ノ部分ノ處分方法ハ主務大臣之ヲ定ム
- 第十一條 結核病ニ罹リタル畜牛ヲ置キタル場所並病毒ニ汚染シ及其ノ疑アル物品ハ検査員ニ於テ其ノ燒棄又ハ埋却ヲ命スルコトヲ得

第十二條 結核病ニ罹リタル畜牛ノ乳汁、屍體若ハ其ノ部分又ハ病毒ニ汚染シ若ハ其ノ疑アル物品ヲ埋却シタル場所ハ三箇年間之ヲ發掘スルコトヲ得ス但シ行政官廳ノ許可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 第六條又ハ第十一條ニ依リ畜牛ヲ撲殺シ又ハ物品ヲ燒棄若ハ埋却シタル場合ニ於テハ其ノ評價額ノ二分ノ一ニ當ル手當金ヲ下付ス

畜牛ノ手當金ハ一頭ニ付外國種牛ニ在リテハ七十五圓、雜種牛及内國種牛ニ在リテハ五十圓、六箇月未滿ノ幼牛ニ在リテハ十五圓ヲ超ユルコトヲ得ス物品ノ手當金ハ總テ十圓ヲ超ユルコトヲ得ス畜牛及物品ノ評價ハ三人以上ノ評價人ヲ選定シテ之ヲ爲サシム但シ其ノ評價ヲ不當ト認メタルトキハ更ニ三人以上ノ評價人ヲ選定シテ之ヲ爲サシム

第十四條 左ノ場合ニ於テハ畜牛ノ手當金ヲ下付セス

- 一、検査ヲ受ケス、之ヲ拒ミ又ハ妨ケタルトキ
 - 二、第四條、第五條又ハ第六條ニ違背シタルトキ
 - 三、検査ヲ受ケスシテ畜牛ヲ輸入シタルトキ
- 左ノ場合ニ於テハ物品ノ手當金ヲ下付セス

- 一、前項各號ノ一ニ該當スルトキ
- 二、第九條、第十條第一項又ハ同條第二項ニ基ツキテ發シタル命令ニ違背シタルトキ
- 三、第七條第二項、第三項又ハ第八條若ハ第十一條ノ命令ニ從ハサルトキ

第十五條 手當金ヲ受クヘキ者其ノ全部又ハ一部ヲ拒否スル處分ニ不服ナルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第十六條 畜牛結核病預防ニ關スル費用ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ國庫、北海道地方費、府縣及一個人

第三十五年法律
第三十六條中改テ

ニ於テ之ヲ負擔ス

第十七條 検査ヲ受ケス、之ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨ケタル者、検査ヲ受ケスシテ畜牛ヲ輸入シタル者、第五條若ハ第六條ニ違背シタル者又ハ第七條第三項ノ命令ニ從ハサル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 第四條、第九條、第十條第一項若ハ第十二條ニ違背シタル者又ハ第七條第二項、第八條若ハ第十一條ノ命令ニ從ハサル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法及本法ニ基ツキテ發スル命令ノ處罰ニ關シテ之ヲ準用ス

附則

本法ハ明治三十六年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ外國ヨリ輸入スル畜牛ニ關シテハ明治三十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

○畜牛結核病検査講習生規則 明治三十五年七月二十五日 省令第一七號

第一條 畜牛結核病検査講習生ハ年齢滿二十歳以上四十歳以下ニシテ獸醫免許規則第二條ノ資格ヲ有スル者ヨリ採用スルモノトス

第二條 講習生候補者ノ選定ハ地方長官(東京府ハ警視總監以下之)ヲシテ之ヲ行ハシム

第三條 講習生ハ東京府北豐島郡瀧ノ川村西ヶ原畜牛結核病検査員養成所ニ於テ修業セシム

修業ハ二箇月ヲ以テ了ス

第四條 講習生ニハ修業期中一箇月手當金十圓及往復旅費ヲ支給ス

- 第五條 講習生ニシテ規則命令ニ違背シ又ハ成業ノ見込ナシト認ムルトキハ之ヲ免スヘシ
- 第六條 講習生修業ヲ了ヘタルトキハ其ノ成績ヲ考查シ修業證書ヲ交付スヘシ
- 第七條 講習生ハ修業證書ヲ受ケタル後五年間農商務大臣ノ指定スル所ニ從ヒ畜牛結核病検査員トシテ奉職スル義務ヲ有ス
- 第八條 左ノ場合ニ於テハ修業期中支給シタル手當金ノ全部又ハ一部ヲ償還セシムルコトアルヘシ
 - 一 修業中自己ノ便宜ニ因リ講習生ヲ辭シタルトキ
 - 二 第五條ニ依リ講習生ヲ免セラレタルトキ
 - 三 第七條ノ義務ヲ履行セザルトキ
 - 四 奉職義務年限中懲戒ニ由リ免官又ハ免職セラレタルトキ

○獸醫、蹄鐵工免狀返納ノ場合報告ノ件 明治三十五年八月一日
訓令第一六號

獸醫、蹄鐵工免狀又ハ其假免狀ヲ受ケタル者ニシテ廢業死亡若クハ免狀ノ有効期限經過ノ爲之ヲ返納スル場合自今其應ニ於テ免狀ヲ燒棄シ毎年一月及ヒ七月前半年分ヲ左ノ書式ニ依リ報告スヘシ
明治何年上(下)半季獸醫(蹄鐵工)免狀廢棄報告

免狀番號	族	籍	氏名	年	齡	事	由

○御獵場設定ノ件 (群馬縣 愛知縣 静岡縣 岐阜縣) 明治三十五年二月二十日
訓令第二號

群馬縣下上野國赤城山御料地、愛知縣下三河國段戸御料地、静岡縣下伊豆國天城御料地、同縣下遠江國三方御料地、岐阜縣下美濃國七宗御料地ヲ御獵場ト定メタル旨宮内省ヨリ照會ニ付此旨相心得ヘシ

○種馬牧場及種馬所官制 明治二十九年四月十五日
勅令第一三九號

- 第一條 種馬牧場ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 馬匹ノ改良、蕃殖、育成及其ノ試験ニ關スル事項
 - 二 種馬ノ補充及配布ニ關スル事項
- 第二條 各種馬牧場ニ左ノ職員ヲ置ク
 - 場長
 - 技師
 - 技手
 - 書記
- 第三條 場長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ場中全般ノ事務ヲ掌理ス
- 第四條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ場務ヲ掌ル
- 第五條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ場務ニ従事ス
- 第六條 書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第七條 種馬所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 種馬ノ飼養管理ニ關スル事項
- 二 牝牡馬配合ニ關スル事項
- 三 民有種馬ノ監督ニ關スル事項
- 四 種付牝馬ノ產駒成績ニ關スル事項

第八條 各種馬所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長
技師
技手
書記

第九條 所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中全般ノ事務ヲ掌理ス

第十條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ掌ル

第十一條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第十二條 書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第十三條 各種馬牧場及及各種馬所ヲ通シテ專任技師十一人專任技手二十八人專任書記十二人ヲ以テ定員トス

第十四條 種馬牧場ハ二箇所以内トシ種馬所ハ十六箇所トス

第十五條 種馬牧場及種馬所ノ名稱位置並種馬所ノ管轄區域ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第三十四年勅令
第四號三五〇五
年勅令第一五
八號ヲ以テ第
十三條中改正

○種牡馬種付料ニ關スル件 明治三十五年一月十六日 勅令第四號

農商務省所管ノ種牡馬ヲ民有牝馬ニ種付スルトキハ種付料ヲ徵收ス
種付料ヲ徵收スヘキ種牡馬ノ種類、種付料ノ金額ハ農商務大臣之ヲ定ム

○種馬所種付規則 明治三十五年一月廿五日 省令第一號

第一條 左ニ掲ケタル資格ヲ有スル牝馬ノ所有者又ハ管理者ハ種馬所ニ種付ヲ出願スルコトヲ得

一 年齡滿三歲以上ニシテ發育善良ナルコト

二 身幹四尺五寸以上ナルコト但體格特ニ優等ナルモノハ此限ニ在ラス

三 遺傳病又ハ惡癖ナキコト

四 體格優等、性質善良、體質健全ナルコト

前項ノ出願ヲ爲サントスルモノハ郡市役所ヲ經由シテ第一號書式ノ願書ヲ所轄種馬所長ニ差出スヘシ

第二條 前條ノ出願アリタルトキハ種馬所長ハ牝馬ヲ検査シ種付合格證ヲ下付スヘシ此種付合格證ハ一種付季間其効力ヲ有ス

種付合格證ヲ有スル牝馬ニ非サレハ種付ヲ受クルコトヲ得ス

第三條 合格牝馬カ豫定頭數ニ達セサル場合ニ於テハ第一條第二項ノ手續ヲ經サルトキト雖モ種馬所長ハ牝馬ノ所有者又ハ管理者ノ請求ニ因リ臨時ニ之ヲ検査シ種付合格證ヲ下付スルコトヲ得

第四條 種付出願期日、検査及ヒ種付ノ期日及ヒ場所ハ種馬所長ノ通告ニ依リ地方長官之ヲ告示

- 第五條 種付ノ期日ニ種付ヲ受クルコト能ハサル事由ヲ生シタルトキハ合格牝馬ノ所有者又ハ管理
者ハ直チニ其旨ヲ種付所ニ届出ヘシ
- 第六條 優等種牝馬ヲ種付スルトキハ十圓以内ノ種付料ヲ徴收ス
前項ノ種牝馬及ヒ種付料ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ種馬所長之ヲ定ム
- 第七條 種付料ハ第二號書式ノ納付書ニ依リ初回種付ノ時ニ於テ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付スヘシ
納付シタル種付料ハ之ヲ返還セス
種付ノ回数ハ種馬所長之ヲ定ム
- 第八條 左ニ掲ケタル事由ヲ生シタルトキハ種付牝馬ノ所有者、管理者又ハ讓受人ハ直チニ種馬所
長ニ届出ヘシ二頭以上ノ種付牝馬ヲ所有又ハ管理スルトキハ種付合格證ノ番號ヲ届書中ニ記載ス
ヘシ
 - 一 出産前牝馬ヲ讓渡シタルトキハ其讓受人ノ氏名住所
 - 二 出産前牝馬斃死シタルトキハ其年月日
 - 三 出産シタルトキハ其年月日及ヒ産駒ノ性、毛色並ニ出産ノ時ニ於ケル身幹
 - 四 流産シタルトキハ其年月日
 - 五 受胎セサルコトヲ確認シタルトキハ其事實
 - 六 産駒ヲ讓渡シタルトキハ其年月日、價額、讓渡ノ時ニ於ケル身幹及ヒ讓受人ノ氏名住所又ハ糶
場ノ名稱
 - 七 産駒斃死シタルトキハ其年月日
- 第九條 種付牝馬ノ所有者又ハ管理者ハ其産駒血統證ノ下付ヲ種馬所長ニ出願スルコトヲ得

- 第十條 左ノ場合ニ於テハ種馬所長ハ種付合格證ノ效力ヲ停止シ又ハ之ヲ取消スコトヲ得
 - 一 牝馬ノ疾病其他ノ事由ニ因リ種付ニ害アリト認めタルトキ
 - 二 指定ノ種牝馬ニ對シ異議ヲ述ヘタルトキ
 - 三 當該官吏ノ指揮ニ從ハサルトキ
 - 四 種付料ヲ納付セサルトキ
 - 第十一條 種牝馬ノ疾病其他ノ事由ニ因リ種付スルコト能ハサルトキハ種馬所長ハ指定シタル種牝
馬ヲ變更シ又ハ種付ヲ爲ササルコトヲ得
 - 第十二條 第八條ノ届出ヲ怠リタル者、第十條第二號乃至第四號ニ掲ケタル事由ニ因リ種付合格證
ノ效力ヲ取消サレタル者又ハ種付牝馬若クハ産駒ノ飼養管理ヲ怠リタル者ニハ次年ノ種付ヲ許可
セサルコトアルヘシ
 - 第十三條 本則ノ規定ハ種馬牧場ニ於テ民有牝馬ニ種付ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス
 - 第十四條 本則施行前明治三十五年種付合格證ハ本則ニ依ル種付合格證ト看做ス
- 第一號書式

種付願

一 牝馬 一頭

種類 毛色 年齢 身幹

産地 父母系統

右貴所種牝馬種付相願候也

年月日

縣 市 町 字 番地

所有者

氏 名 印

何種馬所長氏名殿
(備考) 特ニ管理者ヲ定メタル場合ハ其住所氏名ヲ並記スヘシ
第二號書式

種付料納付書
種付合格證第 號種付料
一金 圓 指定種牡馬 號種付料

(收入印紙)

右納付致候也

年月日 縣市町字 番地
所有者(又ハ管理者) 氏 名印
何種馬所長氏名殿

○種馬所種付料納付手續ノ件 明治三十五年三月二十九日 省令第三號

明治三十五年農商務省令第一號種馬所種付規則第七條ノ種付料納付書ハ之ヲ種付所ニ差出スヘシ
種付所前項ノ納付書ヲ收受シタルトキハ主任者ニ於テ其ノ適法ナルコトヲ確認シタル後納付書ノ紙
面ト貼付印紙ノ彩紋トニ掛ケ黒肉ヲ用ヒテ消印ヲ押捺スヘシ但シ納付者ニ於テ既ニ消印ヲ押捺シタ
ル場合ハ此ノ限ニ在ラス
前二項ノ規定ハ種馬牧場ニ於テ餘勢種付ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

○種馬所種付管轄區域 明治三十五年一月二十五日 告示第一三號

所名	管轄區域
巖手種馬所	巖手縣 青森縣
熊本種馬所	熊本縣 大分縣 長崎縣
宮城種馬所	宮城縣 山形縣
秋田種馬所	秋田縣
福島種馬所	福島縣 茨城縣 栃木縣
宮崎種馬所	宮崎縣 鹿児島縣
島根種馬所	島根縣 鳥取縣 廣島縣
愛知種馬所	愛知縣 長野縣 岐阜縣

○種牛拂下規程 明治三十五年九月一日 告示第一五八號

第一條 種牛ヲ拂下ケムトスルトキハ種牛ノ種類、名號、牝牡、生年月、特徴、代價及ヒ出願期限、拂下
期間並ニ引渡場所ヲ公告スヘシ
第二條 種牛ヲ拂受ケムト欲スル者ハ別記書式ニ依リ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ拂下願書ヲ
差出スヘシ
前項ノ拂下願書ニハ飼育場ノ設備、飼養管理ノ方法、本業實驗ノ有無、種類選定ノ理由等ヲ詳記シ
タル調書ヲ添付スヘシ

第三條 農商務大臣出願者ヲ不適當ト認メタルトキ又ハ他ニ優先ト認ムル出願者アルトキハ拂下ヲ許可セス

農商務大臣必要ト認メタルトキハ期限ヲ指定シテ願書ヲ變更セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ出願者期限内ニ願書變更ノ手續ヲ爲ササルトキハ出願ハ其ノ效力ヲ失フ

第四條 農商務大臣ハ種類選定ノ理由適當ト認メ難キ場合ニハ其ノ種類ヲ變更セシメ又ハ拂下ヲ許可セサルコトアルヘシ

第五條 農商務大臣出願ヲ許可シタルトキハ代金納付ノ期限及ヒ種牛引渡ノ期日ヲ指定シ拂下許可證ヲ下付スヘシ

第六條 拂受人代金ノ納付ヲ怠リタルトキハ拂下ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第七條 拂受人種牛ノ引渡ヲ請求スルトキハ拂下許可證及ヒ代金納付證ヲ當該官吏ニ呈示スヘシ
拂受人前項ノ證書ヲ呈示セサルトキト雖當該官吏ニ於テ拂受人ノ正當ニシテ代金納付済ナルコトヲ確認シタルトキハ引渡ヲ爲スコトヲ得

當該官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ何時タリトモ拂受人ニ通知シテ種牛引渡ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

第八條 拂受人引渡期間内ニ引渡ヲ請求セサルトキハ期間後一頭ニ付一日金五十錢ノ割合ヲ以テ飼養費ヲ納付スヘシ

第九條 拂受人引渡期間後二週内ニ引渡ヲ請求セサルトキハ拂下ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ此ノ場合ニ於テハ既ニ納付シタル代金ハ之ヲ返還セス

第十條 引渡期限滿了前ニ於テ拂下ノ目的タル種牛力減失シ又ハ廢疾ニ罹リタルトキハ拂受人ノ請求ニ因リ代金ヲ返還スヘシ

拂受人ハ隠レタル瑕疵ヲ事由トシテ契約ヲ解除シ又ハ代金ノ減額若ハ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第十一條 拂受人ニ種牛ヲ引渡シタルトキハ血統證ヲ交付ス

第十二條 拂受人ハ左ノ各號ヲ遵守スヘシ

一 拂受ケタル種牛ヲ讓渡、貸付若ハ屠殺セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ農商務大臣ノ許可ヲ受クルコト

二 拂受ケタル種牛斃死、逸走又ハ蕃殖用ニ適セサルニ至リタルトキハ其ノ事由ヲ具シ三十日以内ニ農商務大臣ニ届出テ同時ニ血統書ヲ返納スルコト

三 前年ニ於ケル拂受種牛ノ交尾蕃殖ノ狀況、子牛ノ生育改良ノ成績等ヲ毎年一月三十一日迄ニ農商務大臣ニ報告スルコト

四 牛ノ飼養管理及ヒ改良上ニ關シ農商務大臣ヨリ諮問アリタルトキハ速ニ之ニ應答スルコト

第十三條 拂受人不當ノ飼養管理ヲ爲シ若ハ前條ノ規定ニ違背シタルトキハ以後種牛拂下ヲ許可セス

第十四條 本規定ハ廳、府、縣、郡、市、區、町村又ハ官立若ハ公立ノ農學校、農事試驗場、農事講習所其ノ他官廳ニ於テ種牛ノ讓渡ヲ請求スル場合ニ之ヲ準用ス

(別記)

種牛拂下願(用紙美濃紙)

一何種化(牡)牛 一頭

但名號、代價

一、一、一、

種牛拂下規程

右種牛拂下規程ヲ遵守シ牛ノ改良蕃殖ニ從事致度候間御拂下相成度此段相願候也

住所職業

年月日

氏名印

農商務大臣宛

○道廳府縣種畜場規程 明治三十五年四月三十日 省令第六號

第一條 本規程ニ於テ道廳府縣種畜場ト稱スルハ北海道地方費又ハ府縣ノ費用ヲ以テ設立スル種畜場ヲ謂フ

第二條 道廳府縣種畜場ハ畜産ノ改良發達ヲ圖ル爲メ種畜ノ蕃殖、育成及配付ヲ行フモノトス

第三條 道廳府縣種畜場ハ左ノ業務ヲ行フコトヲ得

- 一 巡回講話
- 二 家畜ノ改良蕃殖ニ關スル試驗
- 三 家畜ノ管理及飼養方法ニ關スル試驗
- 四 家畜ノ肥肉法ニ關スル試驗
- 五 酪業ニ關スル試驗
- 六 牧草ノ栽培ニ關スル試驗
- 七 畜産業ニ關スル講習

第四條 道廳府縣種畜場ハ農商務大臣ノ指定シタル事項ニ付キ試驗又ハ調査ヲ爲スコトヲ要ス

第五條 道廳府縣種畜場ヲ設立セントスルトキハ地方長官ハ左ノ事項ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ分場ヲ設ケントスルトキ亦同シ

- 一 名稱及配置
- 二 業務ノ項目
- 三 用地ノ種類及其ノ面積
- 四 建物ノ種類及其ノ坪數
- 五 職員ノ職名、其ノ員數及俸給額
- 六 收支豫算書

第六條 道廳府縣種畜場ノ收支豫算書ハ每會計年度一箇月前ニ地方長官ヨリ農商務大臣ニ差出スヘシ

前條第一號乃至第五號ニ掲ケタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ地方長官ハ毎年三月三十一日ニ於テ現存スル事項ヲ翌月中ニ農商務大臣ニ届出ツヘシ

第七條 道廳府縣種畜場前年度ノ決算報告書及業務功程ハ地方長官ヨリ每會計年度後二箇月内ニ之ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

道廳府縣種畜場ノ業務ニ關スル報告書ハ之ヲ發行スル毎ニ地方長官ヨリ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第八條 道廳府縣種畜場又ハ其ノ分場ヲ廢止セントスルトキハ地方長官ハ其ノ事由ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

附則

第九條 本規程ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十條 本規程施行前ニ設立シタル道廳府縣種畜場ニ付テハ地方長官ハ施行ノ日ヨリ一箇月内ニ第五條ニ掲ケタル事項ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ

商 工

○商業會議所法 明治三十五年三月廿四日 法律第三一號

- 第一條 商業會議所ハ法人トス
 - 第二條 商業會議所ノ地區ハ市ノ區域ニ依ル但シ特別ノ事情アル場合ニ於テハ市ト市町村又ハ町ト町村ヲ合シテ一地區ト爲スコトヲ得
 - 第三條 商業會議所ヲ設立セムトスルトキハ議員ノ被選舉權ヲ有スヘキ者三十人以上發起人ト爲リ發起ノ認可ヲ農商務大臣ニ申請スヘシ
 - 第四條 發起人前條ノ認可ヲ受ケタルトキハ定款ヲ作り議員ノ選舉權ヲ有スヘキ者三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ設立ノ認可ヲ農商務大臣ニ申請スヘシ
 - 第五條 商業會議所ハ設立ノ認可ヲ受ケタル日ニ於テ成立ス
 - 第六條 商業會議所成立ノ後役員ノ認可アル迄ノ間必要ナル事務ハ發起人之ヲ行フ
- 第六條 定款ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
- 一 名稱、地區及所在地
 - 二 議員ノ定數及其ノ選舉ニ關スル規定
 - 三 役員ノ權限、選任及解任ニ關スル規定
 - 四 會議ニ關スル規定
 - 五 仲裁ニ關スル規定
 - 六 庶務ニ關スル規定

七 會計ニ關スル規定

八 營造物ヲ設立シ又ハ管理スルトキハ其ノ管理ニ關スル規定

第七條 商業會議所ノ事務權限左ノ如シ

- 一 商工業ノ發達ヲ圖ルニ必要ナル方案ヲ調査スル事
- 二 商工業ニ關スル法規ノ制定、改廢、施行ニ關シ意見ヲ行政廳ニ開申シ及商工業ノ利害ニ關スル意見ヲ表示スル事
- 三 商工業ニ關スル事項ニ關シ行政廳ノ諮問ニ應スル事
- 四 商工業ノ狀況及統計ヲ調査發表スル事
- 五 商工業者ノ委囑ニ因リ商工業ニ關スル事項ヲ調査シ又ハ商品ノ產地價格等ヲ證明スル事
- 六 官廳ノ命ニ因リ商工業ニ關スル鑑定人又ハ參考人ヲ推薦スル事
- 七 關係人ノ請求ニ因リ商工業ニ關スル紛議ヲ仲裁スル事
- 八 農商務大臣ノ認可ヲ受ケ商工業ニ關スル營造物ヲ設立シ又ハ管理シ其ノ他商工業ノ發達ヲ圖ルニ必要ナル施設ヲ爲ス事

第八條 農商務大臣又ハ地方長官ハ商工業ニ關スル事項ノ調査ヲ商業會議所ニ命スルコトヲ得

第九條 帝國臣民又ハ帝國法律ニ依リ設立シタル法人ニシテ商業會議所ノ地區内ニ主タル營業所又ハ事務所ヲ有シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ議員ノ選舉權ヲ有ス但シ合名會社ニ在リテハ社員ノ半數以上、合資會社及株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ半數以上、株式會社ニ在リテハ取締役ノ半數以上帝國臣民タルコトヲ要ス

- 一 自己ノ名ヲ以テ商法第二百六十三條、第二百六十四條第一號、第三號乃至第六號及第八號乃至第十二號ニ掲ケタル行爲ヲ爲スコトヲ業トシ營業稅ヲ納ムル者

- 二 自己ノ名ヲ以テ製造及加工ニ關スル行爲ヲ爲スコトヲ業トシ營業稅ヲ納ムル者
- 三 取引所稅ヲ納ムル取引所
- 四 鑛業稅ヲ納ムル鑛業權者

前項納稅ノ額ニ關スル制限ハ地方ノ狀況ニ依リ命令ヲ以テ之ヲ定ム

帝國法律ニ依リ設立シタル法人ニシテ商業會議所ノ地區内ニ營業所又ハ事務所ヲ有シ第一項各號ノ一ニ該當スルモノノ業務ヲ執行スル社員、取締役、理事長、理事又ハ登記シタル支配人ニシテ所得稅ヲ納ムル帝國臣民ハ其ノ主トシテ職務ニ從事スル營業所又ハ事務所ノ所在地ニ於テ議員ノ選舉權ヲ有ス

前項納稅ノ額及法人ノ資本額又ハ財産ヲ目的トスル出資額ニ關スル制限ハ地方ノ狀況ニ依リ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ選舉權ヲ有セス

- 一 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタル時ヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者
- 二 剝奪公權者及停止公權者
- 三 禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル時ヨリ其ノ裁判確定スルニ至ル迄ノ者

第十一條 一人ニシテ同一商業會議所ノ議員ノ選舉ニ關シ二以上ノ選舉權ヲ有スルコトヲ得ス

第十二條 法人及年齡三十歲以上ノ男子ニシテ二箇年以來議員ノ選舉權ニ關スル要件ヲ具備スル者ハ議員ノ被選舉權ヲ有ス但シ合名會社ニ在リテハ社員ノ全員、合資會社及株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ全員、株式會社ニ在リテハ取締役ノ全員帝國臣民タルコトヲ要ス

第十三條 第十條各號ノ一ニ該當スル者並禁治產者及準禁治產者ハ被選舉權ヲ有セス

第十四條 議員ノ定數ハ五十人以下トス

第十五條 商業會議所ハ定款ノ定ムル所ニ依リ議員定數ノ五分ノ一ヲ超エサル特別議員ヲ置クコトヲ得

地方長官ハ議員定數ノ五分ノ一ヲ超エサル特別議員ヲ命スルコトヲ得

特別議員ハ決議ニ加ハルコトヲ得但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

特別議員ハ年齢三十歳以上ノ帝國臣民タル男子ニシテ商工業ニ關スル學術、技藝又ハ經驗アル者タルコトヲ要ス

第十六條 議員ノ選舉ニ關シテハ複選舉、階級選舉其ノ他ノ方法ニ依ルコトヲ得

議員選舉人ノ選舉ニ關シテハ議員ノ選舉ニ關スル規定ヲ準用ス

第十七條 議員ノ選舉事務ハ地方長官ノ命シタル選舉委員之ヲ行フ其ノ費用ハ商業會議所ノ負擔トス

第十八條 議員ノ選舉ハ選舉人自ラ之ヲ行フヘシ但シ法人、女子及無能力者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ代人ヲ以テ之ヲ行フ

第十九條 議員及議員選舉人選舉ノ方法、手續及取締ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 議員當選者ハ地方長官、議員ハ會頭ニ於テ正當ノ事由アリト認メタル場合ヲ除クノ外商業會議所ノ決議ヲ經ルニ非サレハ當選ヲ辭シ又ハ其職ヲ辭スルコトヲ得ス

第二十一條 議員タル法人ハ其ノ代表者ヲ定ムヘシ

代表者ハ業務ヲ執行スル社員、取締役、理事長又ハ理事ニシテ年齢三十歳以上ノ男子タルコトヲ要ス

第十三條ニ該當スル者ハ代表者タルコトヲ得ス

第二十二條 一人ニシテ同一商業會議所ニ於テ二以上ノ法人ノ代表者ト爲リ又ハ議員ト代表者トヲ兼ヌルコトヲ得ス

第二十三條 議員及特別議員ハ無給トス

第二十四條 議員ノ任期ハ四箇年トシ二箇年毎ニ其ノ半數ヲ改選ス若シ二分シ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ改選ス

初回ノ改選期及減員ノ場合ニ於テ解任者ヲ定ムル方法ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム

第二十五條 補關議員ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

増員議員ノ任期ハ現任者ノ任期ヲ超ユルコトヲ得ス

議員増減ノ爲必要ナル任期ノ異動ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六條 特別議員ハ議員ノ半數改選期毎ニ解任ス

第二十七條 議員ニシテ被選舉權ヲ有セサル者ハ其ノ職ヲ失フ

第二十八條 商業會議所ニ左ノ役員ヲ置ク

會頭 一人

副會頭

會頭ハ商業會議所ヲ統轄シ其ノ事務ヲ擔任シ會議ノ議長ト爲リ商業會議所ヲ代表ス

副會頭ハ會頭ヲ輔佐シ會頭事故アルトキハ之ヲ代理ス

商業會議所ニハ定款ノ定ムル所ニ依リ會頭副會頭ノ外必要ナル役員及事務員ヲ置クコトヲ得

役員ハ議員中ヨリ之ヲ互選シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

役員ニシテ議員ノ職ヲ失ヒタルトキハ解任ス但シ定款ノ定ムル所ニ依リ後任者ノ認可アル迄其ノ職務ヲ行フコトヲ得

第二十九條 商業會議所ハ商工業ノ狀況及統計ノ調査ノ爲必要ナル材料ノ提出ヲ商工業者ニ請求スルコトヲ得

第三十條 商業會議所ノ經費ハ議員ノ選舉權ヲ有スル者ニ於テ之ヲ負擔ス
選舉權ヲ停止セラレタル者ハ停止中ト雖經費ヲ負擔ス

第三十一條 商業會議所ハ定款ノ定ムル所ニ依リ使用料若ハ手数料ヲ徵收シ又ハ實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

前項ノ收入ニ關シテハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三十二條 商業會議所ハ其ノ決議ヲ以テ職務ヲ怠リ其ノ他不正ノ行爲アリタル議員ニ二百圓以下ノ過怠金ヲ課シ又ハ之ヲ除名スルコトヲ得

第三十三條 經費又ハ過怠金ヲ滯納シ督促ヲ受クルモ尙之ヲ完納セサルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收ズルコトヲ得

前項ノ徵收金ハ市町村其ノ他之ニ準スヘキモノノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徵還付時效ニ關シテハ國稅ノ例ニ依ル

滯納處分ハ滯納者住所地ノ市參事會、町村長之ヲ行フ

第三十四條 商業會議所ハ滯納又ハ除名ノ處分ヲ受ケタル者ニ對シ其決議ヲ以テ四箇年以内選舉權及被選舉權ヲ停止スルコトヲ得

第三十五條 左ノ決議ハ議員三分ノ二以上出席シ其三分ノ二以上ノ同意アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

一 定款變更ノ決議

二 第三十二條、第三十四條及第四十二條第一項ノ決議

前項ノ決議及經費ノ豫算、賦課徵收方法ノ決議ハ農商務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第三十六條 商業會議所ハ經費ノ決算ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

商業會議所ハ毎年少クトモ一回其ノ事業成績ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第三十七條 商業會議所解散ノ決議ハ議員總數ノ三分ノ二以上ノ同意アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ決議ハ農商務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第三十八條 商業會議所ハ解散ノ後ト雖清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ尙存續スルモノト看做ス

第三十九條 商業會議所解散シタルトキハ其ノ決議ヲ以テ清算人ヲ選任スヘシ清算人缺ケタルトキ亦同シ

清算人ヲ選任シタルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第四十條 前條ノ規定ニ依リ清算人タル者ナキトキハ地方長官清算人ヲ選任ス

第四十一條 清算人ハ商業會議所ヲ代表シ清算ヲ爲スニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第四十二條 清算人ハ清算及財産處分ノ方法ヲ定メ商業會議所ノ決議ヲ經ヘシ

商業會議所前項ノ決議ヲ爲サス又ハ爲スコト能ハサルトキハ清算人ハ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ清算及財産處分ノ方法ヲ定ムヘシ

第四十三條 商業會議所ハ解散ノ後ト雖其ノ債務ノ完済スルニ必要ナル金額ヲ賦課徵收スルコトヲ得前項ノ賦課徵收ニ關シテハ第三十條及第三十三條ノ規定ヲ準用ス

第四十四條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ定款、經費ノ豫算及賦課徵收方法、清算及財産處分方法ノ變更ヲ命シ其ノ他必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十五條 議員ノ選舉、商業會議所ノ決議、行爲又ハ役員、清算人ノ行爲ニシテ法令若ハ定款ニ違背シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ農商務大臣ハ選舉若ハ當選ノ取消、役員、清算人、議員若ハ特別議員ノ停職若ハ解任、商業會議所ノ決議、行爲若ハ役員、清算人ノ行爲ノ停止若ハ取消又ハ商業會議所ノ解散ヲ命スルコトヲ得

農商務大臣ハ前項ニ依リ解任セラレタル議員又ハ役員及不正ノ行爲ニ因リ當選ヲ取消サレタル者ニ對シ四箇年以内選舉權及被選舉權ヲ停止スルコトヲ得

第四十六條 選舉權及被選舉權ヲ停止セラレタル者ハ其ノ停止中議員、特別議員又ハ法人ノ代表者タルコトヲ得ス

第四十七條 農商務大臣ハ本法ニ規定シタル職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

第四十八條 本法中市町村、市參事會、町村長ニ關スル規定ハ市制町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノニ之ヲ準用ス

附 則

第四十九條 本法ハ明治三十五年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

商業會議所條例ハ之ヲ廢止ス但シ同條例ニ依リ設立シタル商業會議所ニ關シテハ本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外第五十二條ノ認可ヲ受クル迄其ノ效力ヲ有ス

第五十條 商業會議所條例ニ依リ設立シタル商業會議所ニシテ本法施行後繼續セムトスルモノハ本法ノ規定ニ從ヒ議員ノ定數、選舉方法其ノ他選舉ニ關スル必要ナル規定ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ明治三十六年三月三十一日迄ニ議員ノ選舉ヲ爲スヘシ
前項ノ選舉及ヒ之ニ依リ選舉セラレタル議員ニ關シテハ本法及本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ヲ適用ス

第五十一條 商業會議所條例ニ依リ設立シタル商業會議所ノ會員及特別會員ニシテ本法施行ノ際其ノ職ニ在ル者ノ任期ハ前條第一項ノ選舉終了ノ日迄トス

第五十二條 第五十條第一項ノ選舉ニ當選シタル議員ハ選舉終了ノ日ヨリ三十日以内ニ本法ノ規定ニ從ヒ定款ヲ議定シ及役員ヲ選任シ農商務大臣ノ認可ヲ申請スヘシ
商業會議所條例ニ依リ設立シタル商業會議所ハ第二條ノ規定ニ拘ラス從前ノ地區ニ依ルコトヲ得

第五十三條 商業會議所條例ニ依リ設立シタル商業會議所ノ役員ノ任期ハ前條第一項ニ依リ選任シタル役員認可ノ日迄トス

第五十四條 商業會議所條例ニ依リ設立シタル商業會議所ニシテ第五十二條第一項ノ認可ヲ受ケタルモノハ本法ニ依リ設立シタルモノト看做ス

商業會議所條例ニ依リ設立シタル商業會議所第五十條第一項又ハ第五十二條第一項ニ定メタル手續ヲ爲ササルトキハ解散シタルモノト看做ス此場合ニ於テハ第三十八條乃至第四十五條ノ規定ヲ適用ス

○商業會議所法施行規則 明治三十五年六月二十七日 省令第一四號

第一條 商業會議所發起ノ認可ヲ申請セムトスルトキハ申請書又ハ其ノ附屬書類ニ左ノ事項ヲ記載シ發起人連署シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

- 一 商業會議所設立ノ理由
- 二 地區

- 三 議員ノ選舉權ヲ有スヘキ者及被選舉權ヲ有スヘキ者ノ數
- 四 發起人カ議員ノ被選舉權ヲ有スヘキ資格
- 五 創立費豫算
- 六 市ト市町村又ハ町ト町村ヲ合シテ一地區ト爲サムトスルトキハ其ノ特別ノ事情
前項ノ外發起人ハ農商務大臣ノ命ニ依リ商業ノ狀況其ノ他必要ナル事項ヲ記載シタル書類ヲ差
出スヘシ
- 市ト市町村又ハ町ト町村ヲ合シテ一地區ト爲サムトスル場合ニ於テハ各市町村ニ少クトモ一人ノ
發起人アルコトヲ要ス
- 第二條 發起人發起ノ認可ヲ受ケタル日ヨリ六箇月以内ニ設立ノ認可ヲ申請セサルトキハ發起ノ認
可ハ其ノ效力ヲ失フ
發起人ノ行爲ニシテ法令ニ違背シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ農商務大臣ハ發起ノ認可ヲ取消
スコトアルヘシ
- 第三條 發起人設立ノ認可ヲ申請セムトスルトキハ申請書ニ定款及一年度經費ノ豫定額並議員ノ選
舉權ヲ有スヘキ者三分ノ二以上カ之ニ同意シタルコトヲ證スル書類ヲ添付シテ農商務大臣ニ差出
スヘシ
- 市ト市町村又ハ町ト町村ヲ合シテ一地區ト爲サムトスル場合ニ於テハ各市町村ニ付キ議員ノ選舉
權ヲ有スヘキ者三分ノ二以上ノ同意ヲ得タルコトヲ要ス
- 第四條 農商務大臣商業會議所設立ノ認可ヲ與ヘタルトキハ其ノ名稱、地區及所在地ヲ告示スヘシ
- 第五條 發起人ハ議員選舉終了後遲滞ナク商業會議所ノ會議ヲ開キ其ノ執行シタル事務ヲ報告シ且
創立費決算ノ承認ヲ求ムヘシ

- 前項ノ會議ニ於テハ經費ノ豫算及賦課徵收方法ヲ議決シ並役員ノ選舉ヲ行フヘシ
- 發起人ハ第一項ノ承認ヲ經タル創立費決算ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ
- 第六條 役員ノ認可アリタルトキハ發起人ハ遲滞ナク一切ノ書類、物件及事務ヲ役員ニ引繼クヘシ
- 第七條 商業會議所ハ議員ノ當選者アル毎ニ其ノ氏名、職業、身分、住所、生年月、納稅種目及納
稅額ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ但シ法人ニ關シテハ其ノ名稱、目的、住所、設立ノ年月日、資本
額又ハ財産ヲ目的トスル出資額、納稅種目及納稅額ヲ報告スヘシ
- 商業會議所法第九條第三項ニ依リ議員ノ被選舉權ヲ有スル者當選シタルトキハ前項ノ外其ノ主ト
シテ職務ニ從事スル法人ノ目的、納稅種目、納稅額及資本額又ハ財産ヲ目的トスル出資額並其ノ
法人ニ於ケル地位ヲ報告スヘシ
- 階級、選舉區又ハ業種ニ分チテ選舉ヲ行ヒタル場合ニ於テハ前二項ノ外當選者ノ屬スル階級、選
舉區又ハ業種ヲ報告スヘシ
- 特別議員ノ選定又ハ任命アリタルトキハ商業會議所ハ履歷書ヲ添付シ其ノ氏名、職業、身分、住
所、生年月ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ
- 第八條 議員又ハ特別議員ノ退任アリタルトキハ其ノ事由及氏名ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ但シ農
務大臣ニ於テ解任ヲ命シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第九條 法人議員ニ當選シタルトキハ當選確定ノ日ヨリ二十日以内ニ代表者ノ氏名、其ノ法人ニ於
ケル地位、身分、住所及生年月ヲ商業會議所ニ届出ツヘシ代表者變更ノ場合亦同シ
- 商業會議所ハ前項届出ノ事項ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ
- 第十條 第七條及第九條ニ依リ報告シタル事項ニ變更アリタルトキハ之ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ
- 第十一條 商業會議所役員ヲ選任シタルトキハ其ノ履歷書ヲ添付シ認可申請書ヲ農商務大臣ニ差出

スヘシ

役員ノ退任アリタルトキハ其ノ事由及氏名ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ但シ農商務大臣ニ於テ解任ヲ命シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 商業會議所ハ毎月一回其ノ前月中ニ執行シタル事務ノ要領ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十三條 商業會議所ニ於テ商業會議所法第七條第八號ノ認可ヲ申請セムトスルトキハ申請書ニ其ノ理由ヲ記載シ事業ノ計畫及費用ニ關スル詳細ノ調書ヲ添付シ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第十四條 商業會議所ノ經費ハ資本金額ヲ標準トシテ之ヲ賦課スルコトヲ得ス

納税額ヲ標準トシテ經費ヲ賦課スル場合ニ於テハ營業稅及鑛業稅ニ在リテハ其ノ百分ノ二十五、取引所稅ニ在リテハ其ノ百分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

人頭割ハ等級ヲ定メテ之ヲ賦課スルコトヲ得

商業會議所法第九條第三項ニ依リ選舉權ヲ有スル者ニ對シテハ人頭割ニ依ルノ外經費ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ同時ニ商業會議所法第九條第一項各號ノ一ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 商業會議所ハ其ノ會計年度二箇月前ニ經費ノ豫算及賦課徵收方法ノ認可ヲ農商務大臣ニ申請スヘシ但シ創立ノ場合ニ於テハ決議ノ日ヨリ七日以内ニ認可ヲ申請スルコトヲ要ス

經費豫算及賦課徵收方法ノ變更ノ認可ハ決議ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ申請スヘシ

第十六條 經費ノ決算ハ財産目錄ヲ添附シ會計年度經過後四箇月以内ニ之ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十七條 商業會議所解散シタルトキハ農商務大臣之ヲ告示スヘシ

第十八條 商業會議所清算人ヲ選任シタルトキハ其ノ履歷書ヲ添へ遲滯ナク認可申請書ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第十九條 地方長官前條ノ認可ヲ與へ又ハ清算人ヲ選任シタルトキハ其ノ氏名ヲ告示スヘシ

第二十條 清算人ハ就職ノ日ヨリ六箇月以内ニ清算及財産處分ノ方法ヲ定メ之ヲ商業會議所ノ決議ニ附スヘシ

前項ノ清算及財産處分ノ方法ニシテ商業會議所ノ決議ヲ經タルトキハ財産目錄及貸借對照表ヲ添附シ七日以内ニ認可申請書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

商業會議所第一項ノ期間内ニ決議ヲ爲サス又ハ爲スコト能ハサルトキハ清算人ハ其ノ事由ヲ具シ

財産目錄及貸借對照表ヲ添附シ期間經過後七日以内ニ認可申請書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第二十一條 清算終了シタルトキハ清算人ハ其結果ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

前項ノ報告書ニハ商業會議所ニ屬スル帳簿其ノ他ノ書類及清算ニ關スル一切ノ書類ヲ添付スヘシ

第二十二條 商業會議所法第三十五條第一項又ハ第三十七條ノ決議ニ關スル認可申請書ニハ法定ノ同意ヲ得タルコトヲ證スル書類ヲ添付スヘシ

第二十三條 商業會議所法又ハ本令ニ依リ農商務大臣ニ差出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ

第二十四條 本令ハ商業會議所法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○商業會議所議員選舉規則 明治三十五年六月二十七日 省令第一五號

第一條 商業會議所ニ於テ階級選舉ヲ行ハムトスルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ選舉權者ヲ三級又ハ二級ニ分ツヘシ

前項ノ場合ニ於テハ商業會議所法第九條第三項ニ依リ選舉權ヲ有スル者ハ別ニ之ヲ一階級ト爲スヘシ若シ其ノ數一階級ヲ爲スニ足ラサルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ之ヲ前項ニ依リテ定メタル

各級ニ編入スルゴトヲ得

第二條 選舉權者ヲ分チテ三級ト爲ス場合ニ於テハ選舉權者中經費ノ納額最モ多キ者ヲ合セテ經費總額ノ三分一ニ當ルヘキ者ヲ一級トシ一級以外ノ選舉權者中經費ノ納額多キ者ヲ合セテ經費總額ノ殘餘ノ一半ニ當ルヘキ者ヲ二級トシ爾餘ノ選舉權者ヲ三級トス

選舉權者ヲ分チテ二級ト爲ス場合ニ於テハ選舉權者中經費ノ納額最モ多キ者ヲ合セテ經費總額ノ半ニ當ルヘキ者ヲ一級トシ爾餘ノ選舉權者ヲ二級トス

前條第二項ニ依リ一階級ヲ作リタル場合ニ於テハ之ニ屬スル選舉權者ノ經費納額ヲ經費總額ヨリ控除シタル殘額ヲ以テ前二項ノ經費總額ト看做ス

各級ノ間經費ノ納額兩級ニ跨ル者アルトキハ上級ニ入ルヘシ兩級ノ間ニ納額同シキ者二名以上アルトキハ選舉權ニ關スル要件ヲ具備シタル年數ノ多キ者ヲ上級ニ入ル其ノ年數ニ依リ難キトキハ年數ニ依リ年數ニ依リ難キトキハ商業會議所ニ於テ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第三條 經費納額ニ依リ階級ヲ分ツコト能ハサル場合ニ於テハ商業會議所法第九條ノ納稅額ニ依リ前條ノ規定ニ準シテ選舉權者ヲ分ツコト能ハサル場合ニ於テハ其ノ二十五分一ヲ以テ納稅額ト看做ス一人ニシテ商業會議所法第九條第一項各號ノ稅ヲ納ムル者ハ其ノ納稅額ヲ通算スヘシ

第四條 選舉權者ヲ分チテ三級ト爲シタル場合ニ於テハ選舉權者ハ每級各別ニ議員三分一ヲ選舉シ選舉權者ヲ分チテ二級ト爲シタル場合ニ於テハ選舉權者ハ每級各別ニ議員二分一ヲ選舉ス

第一條第二項ニ依リ一階級ヲ作リタル場合ニ於テハ定款ヲ以テ其ノ階級ヨリ選舉スヘキ議員ノ數ヲ定メ殘餘ノ議員ニ關シテ前項ノ規定ヲ準用ス

第五條 階級選舉法ニ依ル場合ニ在リテハ定款ノ定ムル所ニ依リ改選期ニ於テ各級ヨリ議員ノ各半數ヲ改選スヘシ

第六條 商業會議所ハ定款ノ定ムル所ニ依リ選舉區又ハ投票區ヲ設クルコトヲ得

各選舉區ニ於テ選舉スヘキ議員數ハ各區ニ於ケル選舉權者ノ數ニ應シ定款ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第七條 複選舉法ニ依ル場合ニ於ケル議員選舉人ノ數ハ定款ノ定ムル所ニ依ル但シ選舉スヘキ議員數ノ三倍ヲ下ルコトヲ得ス

第八條 商業會議所ハ定款ノ定ムル所ニ依リ選舉權者ヲ業種ニ分チ各業種ヨリ各別ニ所定ノ員數ノ議員ヲ選舉セシムルコトヲ得

第五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九條 複選舉法ニ依ル場合ニ於テハ議員選舉人ノ選舉ニ限リ階級若ハ業種ニ分チ又ハ選舉區ヲ設ケ選舉ヲ行フコトヲ得

階級選舉法ニ依ル場合ニ於テハ二級若ハ三級ノ選舉ニ限リ選舉區ヲ設クルコトヲ得

第十條 商業會議所ハ設立ノ認可ヲ受ケタル日及毎年一回定款ニ定メタル期日ノ現在ニ依リ選舉權者名簿二本ヲ調製シ其ノ一本ヲ地方長官ニ差出スヘシ

選舉權者名簿ハ階級選舉法ニ依リ議員ヲ選舉スル場合ニ於テハ選舉權者ノ屬スヘキ階級、選舉區又ハ投票區ヲ設ケテ議員ヲ選舉スル場合ニ於テハ選舉權者ノ屬スヘキ選舉區又ハ投票區、業種ニ分チ議員ヲ選舉スル場合ニ於テハ選舉權者ノ屬スヘキ業種ニ區別シテ調製スヘシ

選舉權者名簿ニハ選舉權者ノ氏名、職業、住所、納稅種目及納稅額ヲ記載スヘシ但シ法人ニ關シテハ其ノ名稱、目的、住所、納稅種目及納稅額ヲ記載スヘシ

商業會議所法第九條第三項ニ依リ選舉權ヲ有スル者ニ關シテハ前項ノ外其ノ主トシテ職務ニ従事スル法人ノ名稱、目的、納稅種目、納稅額及其ノ資本額又ハ財産ヲ目的トスル出資額並其ノ職務、主トシテ職務ニ従事スル營業所又ハ事務所ヲ記載スヘシ

第十一條 商業會議所選舉權者名簿ヲ調製シタルトキハ十四日以上ニ於テ公示ノ期間ヲ定メ豫メ其ノ期間及場所ヲ公告シ其ノ事務所又ハ地方長官ノ許可ヲ得タル場所ニ於テ之ヲ縦覽ニ供スヘシ

第十二條 選舉權者選舉權者名簿ニ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ縦覽期間内ニ其ノ理由書及證憑ヲ具ヘテ之ヲ商業會議所會頭ニ申立ツルコトヲ得

第十三條 會頭前條ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證憑ヲ審査シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ決定スヘシ其ノ申立ヲ正當ナリト決定シタルトキハ直ニ選舉權者名簿ヲ修正シ其ノ旨ヲ申立人及關係人ニ通知シ其ノ申立ヲ正當ナラスト決定シタルトキハ直ニ之ヲ申立人ニ通知スヘシ前項ノ規定ニ依リ選舉權者名簿ヲ修正シタルトキハ直ニ其ノ要領ヲ公告シ且之ヲ地方長官ニ報告スヘシ

第十四條 前條第一項ノ決定ニ不服アル申立人又ハ關係人ハ其ノ事由ヲ具シ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ地方長官ニ裁決ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ依リ選舉權者名簿ノ修正ヲ要スルトキハ商業會議所ニ於テ直ニ之ヲ修正シ其ノ旨ヲ申立人及關係人ニ通知シ且其ノ要領ヲ公告スヘシ

第十五條 選舉權者名簿ハ第十一條ノ縦覽期間滿了後二十日ヲ經テ確定ス

前項ノ名簿ハ次年ノ名簿確定ノ日迄之ヲ据置クヘシ

第十六條 商業會議所ニ於テ議員ノ選舉ヲ要スルトキハ其ノ旨ヲ地方長官ニ申出ツヘシ

第十七條 選舉委員ハ三名又ハ五名トシ内一名ヲ委員長トス

委員長ハ郡長又ハ市長ヲ以テ之ニ充ツ郡長又ハ市長事故アルトキハ其ノ代理者其ノ職務ヲ行フ前項ノ場合ヲ除ク外選舉委員事故アルトキハ地方長官ノ任命シタル豫備員中ヨリ委員長之ヲ補充ス

第十八條 選舉區又ハ投票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ選舉委員長ハ各選舉區又ハ投票區毎ニ投票管理者及其ノ代理者各一名並立會人二名ヲ選任スヘシ

立會人事故アルトキハ投票管理者ハ臨時ニ立會人ヲ選任スヘシ

第十九條 地方長官ハ選舉ヲ行フヘキ日時及場所ヲ定メ選舉スヘキ議員ノ員數ト共ニ選舉ヲ行フヘキ日ヨリ少クトモ十五日前ニ之ヲ告示シ且之ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第二十條 選舉ハ投票ニ依リ之ヲ行フ

第二十一條 選舉權者名簿ニ登錄セラレサル者ハ投票スルコトヲ得ス但シ選舉權者名簿ニ登錄セラレヘキ裁決書ヲ所持スル者ハ此ノ限ニ在ラス

選舉權者名簿ニ登錄セラレタル者選舉權ヲ有セサルトキハ投票スルコトヲ得ス

第二十二條 法人、女子及無能力者ハ左ノ代人ヲ以テ選舉ヲ行フヘシ但シ一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス

一 法人ニアリテハ其ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、理事長、理事

二 無能力者ニ非サル女子ニ在リテハ自ら選任シタル者

三 無能力者ニ在リテハ親權者、後見人、保佐人又ハ夫

代人ハ帝國臣民タル成年ノ男子ニシテ商業會議所法第十三條ニ該當セサル者ナルコトヲ要ス

代人選舉ヲ行ハムトスルトキハ其ノ代人タルコトヲ證スヘキ書面ヲ攜帶スヘシ

第二十三條 選舉委員長又ハ投票管理者ハ選舉場ノ秩序ヲ保持シ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ請求スルコトヲ得

第二十四條 投票ヲ爲スコトヲ得ル者、選舉委員其ノ他選舉事務ヲ監視シ又ハ選舉ノ事務ニ從事スル者及警察官吏ノ外選舉場ニ入ルコトヲ得ス

第二十五條 選舉委員ハ其ノ決議ニ依リ、投票管理者ハ立會人ノ意見ヲ聞キ投票ヲ爲スコトヲ得サル者ノ投票ヲ拒ムコトヲ得

第二十六條 選舉場ニ於テ演說、討論ヲ爲シ若ハ喧騒ニ涉リ又ハ投票ニ關シ協議、勸誘ヲ爲シ其ノ他選舉場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ選舉委員長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ選舉場外ニ退出セシムヘシ

前項ニ依リ退出セシメラレタル者ハ最後ニ至リ投票ヲ爲スコトヲ得但シ選舉場閉鎖ノ後ハ此ノ限ニ非ラス

第二十七條 投票ノ效力ハ選舉委員之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ選舉委員長之ヲ決ス

第二十八條 有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス但シ定款ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外投票ニ記載スヘキ被選舉人ノ數ヲ選舉權者又ハ議員選舉人ノ數ニ乘シ選舉スヘキ議員ノ數ヲ以テ之ヲ除シテ得タル數ノ五分一以上ノ得票アルコトヲ要ス

當選者ニシテ當選ヲ辭シ若ハ死亡シタルトキ、被選舉權ヲ有セサル爲メ當選無効ト爲リタルトキ又ハ農商務大臣ノ命ニ依リ當選ヲ取消サレタルトキハ前項ノ得票者ニシテ當選者ト爲ラザリシ者ノ中ニ就キ得票ノ順位ニ依リ之ヲ補充ス

本條ニ依リ當選者ヲ定ムルニ當リ得票同數ナルトキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ其ノ順位ヲ定ム

第二十九條 選舉終了シタルトキハ選舉委員長ハ直ニ其ノ結果ヲ地方長官ニ報告スヘシ

第三十條 選舉委員長ハ選舉ニ關スル顛末ヲ記載シ選舉委員ノ連署シタル選舉記録二本ヲ作り一本ヲ地方長官ニ差出シ一本ハ投票ヲ添ヘ之ヲ商業會議所ニ交付スヘシ

前項ノ選舉記録及投票ハ議員ノ任期間之ヲ保存スヘシ但シ投票ハ有效無効ニ區別シテ之ヲ保存スヘシ

第三十一條 當選者定マリタルトキハ地方長官ハ直ニ之ヲ當選者ニ告知スヘシ

第三十二條 當選者當選ヲ辭セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ地方長官ニ申出ツヘシ

一人ニシテ二以上ノ階級選舉區又ハ業種ノ選舉ニ當選シタルトキハ最後ニ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ何レノ當選ニ應スヘキカヲ申出ツヘシ其ノ申出ナキトキハ地方長官其ノ當選ノ階級、選舉區又ハ業種ヲ定ム

第三十三條 當選者ナキトキハ地方長官ハ更ニ選舉ヲ行ハシメ當選者選舉スヘキ議員ノ數ニ達セサルトキハ其ノ不足ノ員數ニ對シ選舉ヲ行ハシムヘシ

第三十四條 第三十二條ニ依リ當選確定シタルトキハ地方長官ハ直ニ其ノ旨ヲ當選者ニ告知スヘシ

當選者ノ氏名ハ地方長官之ヲ告示シ且之ヲ商業會議所ニ通知スヘシ

第三十五條 左ノ各號ニ該當スル者ハ十五圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 詐僞ノ方法ヲ以テ選舉權者名簿ニ登録セラレタル者
 - 二 選舉委員、投票管理者又ハ立會人ニシテ正當ノ事由ナク本令ニ定メタル義務ヲ缺キタル者
- 第三十六條 選舉ノ前後ヲ問ハス左ノ各號ニ該當スル所爲アル者ハ刑法ニ規定アル場合ヲ除クノ外二十五日以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス
- 一 選舉ニ關シ直接又ハ間接ニ金錢、物品、手形其ノ他ノ利益若ハ公私ノ職務ヲ選舉權者、議員、選舉人、代人又ハ選舉運動者ニ供與シ又ハ供與セムコトヲ申込ミタル者又ハ供與若ハ申込ヲ承諾セムコトヲ周旋勸誘シタル者並供與ヲ受ケ若ハ申込ヲ承諾シタル者
 - 二 選舉ニ關シ酒食、遊覽等其ノ方法及名義ノ何タルヲ問ハス人ヲ饗應接待シ又ハ饗應接待ヲ受

ケタル者又ハ選舉場ニ往復スル爲メ車馬ノ類ヲ供給シ及其ノ供給ヲ受ケタル者並此等ノ約束ヲナシ又ハ約束ヲ受ケタル者

三 選舉場ニ於テ正當ノ事由ナクシテ選舉權者、議員選舉人又ハ代人ノ投票ニ關涉シ又ハ被選舉人ノ氏名ヲ認知スルノ方法ヲ行ヒタル者

第三十七條 左ノ各號ニ該當スル所爲アル者ハ刑法ニ規定アル場合ヲ除クノ外二十五日以下ノ輕禁錮ニ處ス

一 詐偽ノ方法ヲ以テ投票ヲ爲シタル者

二 選舉權者、議員選舉人又ハ代人ニ對シ往來ノ便ヲ妨ケ又ハ詐偽ノ手段ヲ以テ選舉權ノ行使ヲ妨害シ若ハ投票ヲ爲サシメタル者

三 選舉委員、投票管理者、立會人其他選舉事務ヲ監視シ又ハ選舉事務ニ關係アル者ニシテ選舉權者、議員選舉人又ハ代人ノ投票シタル被選舉人ノ氏名ニ付眞偽ニ拘ラス之ヲ表示シタル者

四 選舉ニ關シ選舉權者、議員選舉人又ハ代人ニ暴行脅迫ヲ加ヘ若ハ之ヲ拐引シタル者

五 選舉委員、投票管理者、立會人其ノ他選舉事務ヲ監視シ又ハ選舉事務ニ關係アル者ニ暴行脅迫ヲ加ヘ又ハ選舉場ヲ騷擾シ又ハ投票、投票函其ノ他關係書類ヲ扣留、毀壞、奪取シタル者

第三十八條 當選者其ノ選舉ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレタルトキハ農商務大臣ハ其ノ當選ヲ取消スヘシ

第三十九條 本令中議員選舉ニ關スル規定ハ議員選舉人ノ選舉ニ之ヲ準用ス

第四十條 商業會議所法第五十條第一項ニ依リ議員ノ選舉ヲ行ハムトスルトキハ議員ノ定數、選舉方法其ノ他選舉ニ關スル規定ノ認可ヲ受ケタル日ノ現在ニ依リ選舉權者名簿ヲ調製スヘシ

第四十一條 本令ハ商業會議所法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

商業會議所議員選舉權ニ關スル納稅額及資本額又ハ財産ヲ目的トス

ル出資額ノ件 明治三十五年六月二十七日 省令第十六號

第二條 商業會議所法第九條第二項ニ依リ納稅額ニ關スル制限ヲ左表ノ如ク定ム
營業稅、釐業稅

商業會議所所在地名	納稅額
第一 東京	四十圓以上
第二 大阪	三十圓以上
第三 京都	二十圓以上
第四 其ノ他	十圓以上

取引所稅

商業會議所所在地名	納稅額
第一 東京	一萬圓以上
第二 京都	三千圓以上
第三 其ノ他	千圓以上

第二條 商業會議所法第九條第四項ニ依リ納稅額及法人ノ資本額又ハ財産ヲ目的トスル出資額ニ關

スル制限ヲ左表ノ如ク定ム

商業會議所所在地名	資本金額又ハ出資額	所得税
第一 東京	五十万圓以上	三十圓以上
第二 大阪	四十万圓以上	二十圓以上
第三 横濱	三十万圓以上	二十圓以上
第四 京都	二十万圓以上	十五圓以上
第五 其ノ他 神戶 名古屋	十萬圓以上	十圓以上

第三條 本令ハ商業會議所法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○取引所法施行規則

明治三十二年七月二十六日
省令第一八號

- 第一條 會員組織ノ取引所ヲ設立セントスルトキハ發起人ハ左ノ事項ヲ記載シタル發起認可申請書ニ定款及發起人ノ履歷書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ
- 一 發起人各自出資額
 - 二 資本金使用ノ概算
 - 三 設立ヲ要スル事由
 - 四 賣買取引スヘキ物件ノ其地區内ニ於ケル集散ノ沿革及現況
 - 五 其地區内ニ於テ會員又ハ仲買人タルコトヲ得ヘキ商人ノ概數但各賣買品毎ニ區別スヘシ
- 第二條 株式會社組織ノ取引所ヲ設立セントスルトキハ發起人ハ左ノ事項ヲ記載シタル發起認可申請書ニ定款及發起人ノ履歷書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

三十五年省令
第一三號ヲ以
テ第四條改正

- 請書ニ定款及發起人ノ履歷書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ
- 一 前條第二號乃至第四號ニ掲ケタル事項
 - 二 發起人各自ノ引受クヘキ株式ノ數
 - 三 其地區内ニ於テ仲買人タルコトヲ得ヘキ商人ノ概數但各賣買品毎ニ區別スヘシ
 - 第三條 農商務大臣取引所ノ地區ヲ定メタルトキハ隨時之ヲ告示スヘシ
 - 第四條 發起人ハ賣買取引スヘキ物件ノ種類毎ニ一箇年以上其種類ノ商業ニ従事シタル商人三十人以上タルヘシ
 - 第五條 取引所ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 - 一 取引所ノ地區
 - 二 賣買取引スヘキ物件
 - 三 役員ノ選舉及其職務ニ關スル事項
 - 四 會議ニ關スル事項
 - 五 手数料及仲買人ノ口錢ニ關スル事項
 - 六 仲買人ノ業務組合及規約ニ關スル事項
 - 七 仲買人ノ身元保證金及使用人ニ關スル事項
 - 八 仲買人ノ入退ニ關スル事項
 - 九 市場ノ開閉及休業ニ關スル事項
 - 十 賣買、受渡及證據金ニ關スル事項
 - 十一 倉庫ニ關スル事項
 - 十二 公定相場ニ關スル事項

全上ヲ以テ第七條ノ二追加

- 十三 取引所ノ帳簿、記録及仲買人ノ帳簿ニ關スル事項
- 十四 取引所ノ出納及決算ニ關スル事項
- 十五 金錢及有價證券ノ保管ニ關スル事項
- 十六 仲裁ニ關スル事項
- 十七 違約處分ニ關スル事項
- 十八 定款ノ變更及解散ニ關スル事項
- 第六條 會員組織ノ取引所ノ定款ニハ前條ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ
 - 一 取引所ノ名稱及所在地
 - 二 會員ノ出資及身元保證金ニ關スル事項
 - 三 會員ノ入退ニ關スル事項
- 第七條 會員組織ノ取引所ノ發起人發起ノ認可ヲ得タルトキハ少ナクトモ十四日間左ノ事項ヲ公告シテ會員ヲ募集スヘシ
 - 一 發起認可ノ年月日
 - 二 取引所ノ組織、名稱及所在地
 - 三 取引所ノ地區
 - 四 賣買取引スヘキ物件
 - 五 資本金及發起人各自ノ出資額
 - 六 各申込人ニ定款ヲ展閱セシムヘキ事
 - 七 發起人氏名
- 第七條ノ二 會員組織ノ取引所ハ賣買取引スヘキ物件ノ種類毎ニ五十人以上ノ會員アルニ非サレハ

之ヲ設立スルコトヲ得ス

- 第八條 發起人會員ノ募集ヲ終ハリタルトキハ創立總會ヲ開クヘシ此總會ニ於テハ總會員ノ半數以上ノ承諾ヲ以テ定款ヲ確定シ且役員ヲ選舉ス
役員ハ設立免許申請書ニ定款、會員申込簿及申込人ノ履歷書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ
- 第九條 株式會社組織ノ取引所ノ發起人株式ノ總數ヲ引受ケタルトキハ總役員ハ商法第二百二十四條ニ定メタル調査終了ノ後設立免許申請書ニ左ノ書類ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ
 - 一 定款
 - 二 發起人各自ノ引受ケタル株式ノ員數ヲ記載シタル書面
 - 三 検査役ノ報告ニ關スル裁判アリタルトキハ其謄本
 - 四 役員ノ選舉ニ關スル書類
- 第十條 發起ノ認可ヲ得タル後一年以内ニ設立免許ノ申請ヲ爲ササルトキハ認可ハ其效力ヲ失フ
- 第十一條 發起人株式ノ總數ヲ引受ケサリシトキハ總役員ハ創立總會終結ノ後設立免許申請書ニ左ノ書類ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ
 - 一 定款
 - 二 各株主ノ株式申込證ノ謄本及株主名簿
 - 三 商法第三百二十四條ノ規定ニ從ヒテ役員又ハ検査役カ爲シタル調査報告書及其附屬書類
 - 四 創立總會ノ決議錄
- 第十二條 役員認可申請書ニハ其役員ノ履歷書ヲ添ヘ設立免許申請書ト共ニ之ヲ差出スヘシ

全上ヲ以テ第
十五條ノ二追
加

全上ヲ以テ第
二十條ノ二乃
至七追加

第十三條 發起認可申請書及設立免許申請書ニハ地方長官其意見書ヲ添附スヘシ

第十四條 開業ノ日ヲ定メタルトキハ役員ハ其旨ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ

第十五條 取引所設立ノ免許ヲ得タル後一年以内ニ開業セサルトキハ免許ハ其効力ヲ失フ

第十五條ノ二 取引所ニシテ繼續ノ出願ヲ爲サムトスルモノハ願書ニ定款ヲ添付シ免許年限満了前
一箇年以内ニ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ但シ免許年限満了ノ日ヨリ三箇月前ニ其手續ヲ爲サ
ルモノハ出願ヲ受理セス

第十六條 仲買人ノ免許ヲ得ント欲スル者ハ其願書ニ履歷書ヲ添へ取引所ヲ經由シテ之ヲ農商務大
臣差出スヘシ

取引所ハ前項ノ願書ニ意見書ヲ添附スヘシ

第十七條 農商務大臣仲買人ノ免許ヲ與ヘタルトキハ免許狀ヲ取引所ニ送付スヘシ

取引所ハ前項ノ免許狀ノ送付ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ本人ニ通知シ免許料金額ニ相當スル收入印
紙ヲ貼用シタル請書及身元保證金ヲ差出サシメタル後之ヲ交付スヘシ

前項ノ請書ハ取引所ヨリ農商務大臣ニ差出スヘシ

第十八條 仲買人前條第二項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ請書又ハ身元保證金ヲ差出ザサ
ルトキハ免許ハ其効力ヲ失フ

第十九條 仲買人廢業シタルトキハ届書ニ免許狀ヲ添附シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第二十條 仲買人免許狀ヲ紛失シタルトキハ其事由ヲ具シテ免許狀ノ再下付ヲ申請スヘシ

仲買人氏名ヲ變更シタルトキハ免許狀ノ書換ヲ申請スヘシ

第二十條ノ二 取引所ハ會員及仲買人ノ帳簿ノ種類、記載事項及様式ヲ定メ農商務大臣ニ届出ツヘ
シ

第二十條ノ三 取引所ニ於テ會員及仲買人身元保證金ノ代用有價證券ノ種類及價格ヲ指定シタルト
キハ之ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ

第二十條ノ四 取引所ハ其所有及諸預リノ金錢及有價證券ノ保管方法ヲ定メ農商務大臣ノ認可ヲ受
クヘシ

第二十條ノ五 取引所ニ於テ米ノ格付ヲ定ムル場合ニ於テハ一種又ハ一種以上ノ標準物ヲ定メ格付
表ヲ調製シ認可ヲ申請スヘシ

取引所ハ標準物ニ相當スル見本ヲ備へ置クヘシ

第二十條ノ六 取引所ニ於テ轉賣買戻相殺ノ方法ヲ用キントスルトキハ賣買者ノ届出ニ依リ帳簿ニ
記載シ之カ相殺ヲ爲シテ其契約ヲ結了スルノ手續ヲ定メ之ヲ定款中ニ規定スヘシ

第二十條ノ七 取引所ハ其市場ニ於テ賣買取引スル物件ノ公定相場ヲ公示スヘシ

公定相場ハ市場ニ於ケル取引價格ニシテ適當ト認メタルモノニ依リ取引所ノ理事長理事之ヲ定ム
其決定ノ方法ハ定款ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第二十一條 取引所又ハ其役員訴訟ノ當事者トナリタルトキハ其訴訟ノ要旨及其年月日ヲ農商務大
臣ニ届出ツヘシ訴訟結了シタルトキ亦同シ

第二十二條 株式會社組織ノ取引所商法ノ規定ニ依リテ登記ヲ爲シタルトキハ登記シタル事項及其
登記ノ年月日ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ

第二十三條 取引所ハ左ノ報告書類ヲ調製シ農商務大臣ニ差出スヘシ
一 毎月公定相場表
二 毎月賣買高表
三 毎月商品ノ集散及商況ニ關スル報告書

以上翌月十五日限り發送
四 收支豫算表
以上議定後十五日限り發送

五 毎半期財産目録

六 毎半期貸借對照表

七 毎半期損益計算表

八 毎半期事業報告書

九 毎半期末日現在會員、株主及仲買人並其使用人ノ氏名表
以上決算期後二十日限り發送

第二十四條 取引所ヨリ農商務大臣ニ差出スヘキ書類ハ別段ノ規定アルモノノ外地方長官ヲ經由スヘシ

地方長官前項ノ書類ニ付キ意見アルトキハ之ニ其意見書ヲ添附スヘシ

第二十五條 仲買人ヨリ農商務大臣ニ差出スヘキ書類ハ取引所ヲ經由スヘシ

附則

第二十六條 本令施行前ニ發起ノ認可アリタルモノニ付テハ第十條ノ期間ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

(備考) 三十五年六月省令第二三號ノ附則左ノ如シ

第一條 本令ハ明治三十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 第二十條ノ二ノ届出ハ明治三十五年九月三十日迄ニ之ヲ爲スヘシ

第三條 第二十條ノ四ノ認可ハ明治三十五年九月三十日迄ニ之ヲ申請スヘシ

第四條 第二十條ノ二乃至四ニ規定スル事項ニ關シ本令施行前ニ届出ヲ爲シ又ハ認可ヲ受ケタルモノハ本令ニ依リ届出ヲ爲シ又ハ認可ヲ受ケタルモノト見做ス

三十五年勅令
第一五八號ヲ
以テ第一條改
正

○取引所ノ資本金、營業保證金、株式手数料、積立金及賣買取引ノ方法
ニ關スル規程并仲買人免許料金額ノ件 明治二十六年七月二十一日 勅令第七四號

第一條 株式會社組織ノ取引所ノ資本金ハ十萬圓以上トス

農商務大臣ハ賣買取引ノ狀況ニ因リ必要ト認ムルトキハ資本金額ヲ増加セシムルコトヲ得

株式會社組織ノ取引所ハ資本金ノ半額以上ニシテ少ナクトモ十萬圓ノ拂込ヲ終リタル後ニ非サルハ業務ヲ行フコトヲ得ス

第二條 會社組織ノ取引所ノ創設及維持ノ資本金ハ其會員ノ醜金ヲ以テ之ニ充ツヘシ解散ノ場合於テ存留スル資本及其他ノ財産ハ一切ノ義務ヲ解除シタル後ニ於テ現時ノ各會員ニ平分スヘシ

第三條 取引所ニシテ倉庫ヲ設置スルトキハ其倉庫ニ關スル資本金ハ第一條及第二條ノ資本金以外ニ之ヲ増加スヘシ

第四條 株式會社組織ノ取引所ノ營業保證金額ハ其資本金額ノ三分ノ一トス但倉庫ノ爲メ増加シタル資本金ハ之ヲ算入セス

營業保證金ハ營業開始前大藏省預金局預金ノ證書若クハ國債地方債證券ヲ以テ其全額ヲ地方廳ニ納ムヘシ

但シ國債地方債證券ヲ以テ納入スル場合ニ於テハ其價格ハ農商務大臣ノ指定スル所ニ依ルヘシ資本金増額ノ場合ニ於テ増納スヘキ營業保證金ハ農商務大臣ノ指定スル日限マテニ其手續ヲ爲ス

取引所ノ資本金營業保證金株式手数料積立金及賣買取引ノ方法ニ關スル規程并仲買人免許料金額ノ件 一六一

ヘシ

第五條 取引所ノ資本金ノ各株式ハ其株式ノ半額以上拂込前ニ讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 會員組織ノ取引所ニ於テハ利益ヲ會員ニ分配スルノ目的ヲ以テ手数料ヲ徴收スルコトヲ得ス

第七條 取引所ニ於テ賣買雙方ヨリ徴收スル手数料ハ取引所ノ組織、賣買ノ物件、賣買ノ方法及賣買ノ狀況ニ應ジ賣買ノ約定代金ノ千分ノ八ヲ超過スルコトヲ得ス

農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ前項ノ定限以内ニ於テ取引所ノ手数料ノ率ヲ改定セシムルコトヲ得

第七條ノ二 株式會社組織ノ取引所ニ於テ株主ニ配當スヘキ利益カ拂込金額ニ對シ年一割ヲ超ユルトキハ一割ニ當ル金額ヲ控除シタル殘額ノ二分ノ一ヲ賠償責任ノ準備トシテ積立ツヘシ
前項ノ積立金額資本金額ニ達シタルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ其積立ヲ停止シ若クハ其積立金額ノ率ヲ減少スルコトヲ得

第八條 會員組織ノ取引所ハ毎年其總收入金ノ二十分ノ一ニ相當スル金額ヲ準備ノ積立金トシテ積置クヘシ

但準備ノ積立金額資本金額ノ四分ノ一以上ニ達シタルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ其積立ヲ停止シ若クハ其積立金額ノ率ヲ減少スルコトヲ得

第九條 取引所ノ準備ノ積立金ヲ支出セントスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第九條ノ二 取引所ハ會員及仲買人ノ身元保證金ヲ供託スヘシ

第十條 取引所ハ毎日一定ノ時間ニ於テ直取引、延取引及定期取引ノ市場ヲ開閉スヘシ
但定款ヲ以テ定例及臨時休業ヲ爲スノ場合ヲ規定スルコトヲ得

全上ヲ以テ七
條ノ二、九條
ノ二ヲ追加シ
十二條十三條
十六條改正

第十一條 取引所ノ賣買取引ノ契約ハ現物、見本又ハ銘柄ニ依リ取結フヘシ

第十二條 取引所ノ賣買取引ノ契約履行ノ期限ハ當日ヨリ起算シ直取引ハ五日以内延取引ハ百五十日以内賣買雙方約定ノ日限ニ依リ定期取引ハ有價證券ニ在リテハ二箇月以内米其他ノ商品ニ在リテハ三箇月以内取引所指定ノ限月ニ依ルヘシ但農商務大臣必要ト認ムルトキハ有價證券及米ヲ除クノ外商品ノ種類ニ依リ其最長期ヲ二箇月ニ短縮セシムルコトヲ得

第十三條 取引所ノ定期取引ニ限リ左ノ方法ヲ用ウルコトヲ得

一 單位ヲ定メテ賣買スルノ方法

二 競賣買ヲ爲スノ方法

三 米ニ限リ標準物ヲ以テ賣買契約ヲ爲シ取引所ニ於テ豫メ指定スル同種商品ノ格付ニ從ヒ代品ヲ以テ受渡ヲ爲スノ方法

四 株式會社組織ノ取引所ニ在リテハ契約期限内ニ於テ爲シタル轉賣買戻ヲ取引所ノ帳簿ニ記載スル所ニ依リ相殺スルノ方法

五 賣買雙方ヨリ證據金ヲ差出サシムルノ方法

取引所ニ於テ米ノ格付ヲ定ムルトキ又ハ第一項第四號ノ方法ヲ用ウルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

取引所ハ特ニ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ直取引及延取引ニ於テモ亦賣買雙方ヨリ證據金ヲ差出サシムルノ方法ヲ用ユルコトヲ得

第十四條 取引所ニ於テ賣買取引ノ契約ヲ爲シタルトキハ賣買雙方ノ氏名賣買品ノ數量及其價格ヲ

取引所ノ帳簿ニ記載スヘシ

第十五條 賣買取引ノ物件代金ノ受渡ハ取引所ノ役員立會ノ上執行スヘシ

取引所ノ資本金營業保證金株式手数料積立金及賣買取引ノ方法ニ關スル規程并仲買人免許料金額ノ件

第十六條 取引所ノ仲買人免許料金額ハ百圓トス

(備考) 三十五年勅令第一五八號附則左ノ如シ

本令ハ明治三十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ設立ノ免許ヲ得タル株式会社組織ノ取引所ニシテ其資本金額又ハ拂込金額カ第一條ニ定メタル額ニ達セサルモノハ明治三十五年十一月三十日迄ニ其資本ヲ増加シ且拂込ヲ爲スヘシ

本令施行前ニ設立ノ免許ヲ得タル取引所ニ付テハ第七條ノ二ノ規定ハ本令施行後ノ計算期間ヨリ之ヲ適用ス計算期間カ本令施行後ニ跨カルトキ亦同シ

○取引所會員及仲買人身元保證金供託手續

(道廳府縣 (但千葉 茨城 埼玉 群馬 栃木 岩手 青森 秋田 鹿兒島及沖繩縣ヲ除ク) 明治三十五年六月二十日 商發第二八四號商工局長通牒

取引所會員及仲買人身元保證金供託手續左記ノ通り大藏省ヨリ金庫出納役へ通達相成候ニ付爲念其旨貴管下所在取引所へ漏ナク御示達相成度此段及通牒候也

一 供託ノ場合ニハ供託物取扱規程第三條ニ據ル此場合ニ於テ同條第三項供託ノ原因トハ各會員若クハ仲買人ニ就キ身元保證金トシテ現金(現金ニ代用ス)ヲ受取リタル事實ノ詳記トス

二 取戻ノ場合ニハ供託物取扱規程第十條ニ據ル此場合ニ於テ同條第四項供託ノ原因カ消滅シタル事實ヲ證明スルニ足ルヘキ書類トハ 會員若クハ仲買人カ脱退若ハ廢業シタルトキハ會員若クハ仲買人ヨリ取引所ニ提出シタル脱退届

若ハ廢業届

但届書ニハ會員若クハ仲買人ノ記名捺印ヲ要ス

會員若クハ仲買人除名ノトキハ農商務大臣ノ命令書又ハ除名ノ認可書

會員若クハ仲買人死亡ノトキハ戸籍ノ謄本

會員若クハ仲買人資格消滅ノトキハ裁判所ノ判決書、破産宣告書、家資分散決定書等之ヲ證明スルニ足ルヘキ書類トス

三 取換ノ爲メ全部又ハ一部ヲ取戻ス場合ニハ前項ノ書類ハ會員若クハ仲買人ヨリ新ニ身元保證金ヲ提出シタル事由ニ因リ先キニ身元保證金トシテ提出シタル現金(現金ニ代用ス)ノ返還ヲ取引所ニ對シ請求スル請求書トス

但返還請求書ニハ會員若クハ仲買人ノ記名捺印ヲ要ス

(此場合ニ於テハ新ニ提出シタル身元保證金ノ供託ト同時ニ取戻ヲ請求スヘキ事)

○取引所ノ轉賣買戻及米ノ格付ニ關スル認可ノ件

明治三十五年六月五日 省令第一一號

第一條 取引所ニ於テ定メタル米ノ格付ニシテ本令發布前農商務大臣ニ届出アリタルモノハ更ニ格付ヲ定ムルマテハ明治三十五年七月一日以後ニ於テモ尙之ヲ續用スルコトヲ認可ス

第二條 株式會社組織ノ取引所ニシテ本令發布前定款ノ定ムル所ニ依リ明治二十六年勅令第七十四號第十三條第一項第四號ノ方法ヲ用ユルモノハ其定款中ニ關スル規定ヲ變更スルマテハ明治三十五年七月一日以後ニ於テモ尙之ヲ續用スルコトヲ認可ス

取引所ノ轉賣買戻及米ノ格付ニ關スル認可ノ件

○興業債券ヲ身元保證金ニ使用ノ件 明治三十五年九月十五日 告示第一六八號
日本興業銀行法第十二條ニ依リ發行スル興業債券ハ度量衡器ヲ製作修覆若ハ販賣スル者ノ身元保證金ニ使用スルコトヲ得

○工業試験所官制 明治三十三年六月二日 勅令第二五八號

第一條 工業試験所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ工業ニ關スル試験、分析及鑑定ノ事ヲ掌ル
第二條 工業試験所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長 一人

技師 專任四人

技手 專任七人

書記 專任二人 判任

第三條 所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ分掌ス

第五條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ニ從事ス

第六條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

○府縣郡市工業試験場及ヒ府縣郡市工業講習所規程 明治三十四年二月四日 省令第一號

第三十四年省令
第一一號ヲ以テ
各條中郡ノ字
ヲ各條中郡ノ字
ヲ加フ

第一條 本規程ニ於テ工業試験場又ハ工業講習所ト稱スルハ府縣稅又ハ郡市費ヲ以テ設立スルモノヲ謂フ

第二條 府縣郡市工業試験場ハ工業ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トシ製作技術ニ關スル事項ニ付キ試験ヲ行フモノトス

第三條 府縣郡市工業試験場ハ左ノ業務ヲ行フコトヲ得

一 巡回講話

二 工業見本品ノ配付

三 原料及ヒ製品等ノ分析試験、鑑定

四 工業用機械器具ノ檢定

五 製作技術ニ關スル質問應答

第四條 府縣郡市工業試験場ハ試験ノ成績ニ付キ當業者ニ傳習スルコトヲ得

第五條 府縣郡市工業講習所ハ工業ニ従事スル者ヲシテ工業ニ必要ナル講習ヲ爲サシムルヲ以テ目的トス

府縣郡市工業講習所ハ數學、物理、化學、圖書等ノ補助科目ヲ設クルコトヲ得

第六條 府縣郡市工業講習所ハ職員ヲシテ工業ニ關スル巡回講話、試験又ハ調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第七條 府縣郡市工業講習所ノ修業年限ハ二年以内トス

第八條 府縣工業試験場又ハ府縣工業講習所ヲ設立セントスルトキハ地方長官ハ左ノ事項ヲ具シ農

商務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス分場ヲ設ケントスルトキ亦同シ

一 名稱及ヒ位置

- 二 業務ノ項目又ハ講習所規則
- 三 建物ノ種別及ヒ其坪數
- 四 職員ノ履歷及ヒ其擔任事業
- 五 收支豫算書

前項第一號乃至第四號ニ掲ケタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ地方長官ハ直チニ其旨ヲ農商務大臣ニ届出ルコトヲ要ス

第九條 前條ノ規定ハ都市工業試驗場及ヒ都市工業講習所ニ之ヲ準用ス但郡市長ヨリ農商務大臣ニ

差出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スルコトヲ要ス

第十條 地方長官ハ府縣工業試驗場及ヒ府縣工業講習所ノ業務功程ヲ調査シ毎年五月限リ之ヲ農商務大臣ニ報告スルコトヲ要ス

郡市工業試驗場又ハ郡市工業講習所ノ業務功程ハ前項ノ規程ニ準シ郡市長ヨリ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ヘ報告スルコトヲ要ス

附 則

第十一條 本規程ハ明治三十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十二條 本規程施行前ニ設立シタル府縣都市工業試驗場又ハ府縣都市工業講習所ハ本規程施行ノ日ヨリ一年內ニ第八條及ヒ第九條ノ規定ニ準シ農商務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

山 林

○森林法施行細則 明治三十年十二月十四日 省令第一九號

三十四年省令
第二號ヲ以テ
第一條改正

第一條 府縣知事ニ於テ公有林、社寺林及私有林ニ付森林法第三條、第四條及第五十五條ノ命令ヲ必要ト認ムルトキハ處分ノ上農商務大臣ニ届出ヘシ
府縣知事ニ於テ森林法第七條、第二十一條乃至第二十三條ノ命令ヲ必要ト認ムルトキ及前項規定以外ノ森林ニ付第五十五條ノ命令ヲ必要ト認ムルトキハ農商務大臣ニ具申シテ指揮ヲ請フヘシ
府縣知事森林法第五條、第二十四條及第五十五條ニ依リ政府ニ於テ造林執行ノ必要アルモノト認メタルトキハ實地調査ノ上別記様式ニ依リ造林事業豫算書ヲ調製シテ農商務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

前項ノ場合ニ於テハ費用ノ徵收若クハ部分林トナスニ付テノ意見ヲモ具申スヘシ

第二條 保安林編入ノ申請書又ハ官廳ノ通知書ニハ保安林編入調査及圖面ヲ添付スヘシ
保安林編入調査ノ様式ハ府縣知事之ヲ定ム

第三條 保安林解除ノ申請書又ハ官廳ノ通知書ニハ解除ヲ要スル理由ヲ記載スヘシ
但保安林幾部ノ解除ニ係ル場合ハ保安林ノ全部及解除スヘキ部分ヲ明示シタル圖面ヲ添付シ之ニ其解除スヘキ保安林ノ面積ヲ附記スヘシ

第三條ノ二 保安林解除ノ申請アリタルトキ又ハ編入ノ原因消滅シタリト認メタル場合ニ於テ更ニ他ノ原因ニ依リ保安林編入ノ申請アルカ又ハ編入ノ必要アリト認メタルトキハ府縣知事ハ同時ニ解除及編入ヲ地方森林會ノ會議ニ付スヘシ

三十五年省令
第一八號ヲ以テ
第三條ノ二
追加

第四條 府縣知事ニ於テ保安林ノ編入解除ヲ必要ト認メ若クハ保安林編入解除ニ就キ申請又ハ通知ヲ受ケタルモノニシテ其編入解除ニ就キニ府縣以上ノ利害ニ關係アルトキハ其旨ヲ關係府縣知事ニ通知スヘシ

第五條 府縣知事ニ於テ保安林ノ編入解除ニ付地方森林會ノ答申書ヲ受ケタルトキハ意見ヲ具シ關係書類ヲ添付シテ三十日以内ニ農商務大臣ニ提出スヘシ

第六條 農商務大臣ニ於テ保安林ノ編入解除ヲ決定シタルトキハ其旨ヲ關係府縣知事ニ通達シ府縣知事ハ十日以内ニ府縣公報ヲ以テ其旨ヲ告示シ森林所在地ノ市町村役場ニ揭示シ且ツ其旨ヲ森林所有者ニ通達スヘシ

但編入ニ付テハ保安林編入調書ノ中施業法要領ヲ通達書ニ添付スヘシ

第七條 府縣知事ハ保安林ヲ買上クルノ必要アリト認ムルトキハ農商務大臣ノ指揮ヲ受ケ森林所有者ト協議シテ其買上價格ヲ定ムヘシ

第八條 保安林ノ買上價格又ハ補償金額ニ付協議整ハサル場合ニ於テハ森林法第二十七條ニ依リ府縣知事ハ之ヲ地方森林會ノ會議ニ附シ其評決シタル買上價格又ハ補償金額ヲ關係者ニ通達スヘシ

第九條 保安林損害ノ補償若クハ其補償ノ補助ヲ受ケントスル者ハ其金額ヲ定メ算定理由ヲ詳述シタル請求書ヲ府縣知事ヲ經由シテ農商務大臣ニ差出スヘシ

第十條 森林法第三十一條ニ依ル屆書ハ其記號ノ形狀並ニ印影ヲ添付シタル書面ヲ作業地營業地ノ所轄警察署ニ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ警察署ハ所管小林區署ニ通知スヘシ

第十一條 森林内ニ火入ヲ爲スノ許可ヲ得ントスル者ハ豫メ期日ヲ定メ森林官若クハ警察署ニ申出

三十四年省令
第二號ヲ以テ
第六條中追加

全上ヲ以テ第
十二條改正

ツヘシ但火入ヲ爲サントスル森林ノ全部又ハ一部カ他人ノ所有ニ係ルトキハ所有者又ハ管理者ノ承諾ヲ證スル書面ヲ願書ニ添付スヘシ

前項ノ場合ニ於テ火入ヲ許可シタルトキハ別記火入許可證ヲ交付スヘシ

第十二條 森林内火入ノ當日ハ火入者ニ於テ前條ノ火入許可證ヲ現地ニ携帯スヘシ

第十三條 森林内又ハ森林ニ接續スル原野ニ火入ヲ爲サントスル者ハ火入期日前ニ火入箇所鄰接地ノ所有者若クハ管理者ニ其旨ヲ通知スヘシ

第十四條 火入ノ場合ニ於テ他ニ延焼ノ虞アリト認メタルトキハ森林官又ハ警察官ハ其火入ノ差止メ火入方法又ハ火入期日ヲ改メシメ若クハ相當ノ設備ヲ爲サシムヘシ

(別記)

表			
森火林	火入	火入	火入
許可證	所箇入	期日	火入
年許月日可	年屆月日出		人火入
官吏	取扱		

裏	
得	心人入火
一	火入人ハ火入當日此證書ヲ現場ニ携帯シ森林官又ハ警察官吏ノ要求アリタルトキハ之ヲ示スヘシ
一	火入人ハ火入期日ヲ火入箇所ニ接續セル森林其他土地ノ所有者若クハ管理者ニ通知スヘシ
一	火入期日ハ許可ヲ受ケタル後ト雖モ森林官吏又ハ警察官吏ノ指揮アリタルトキハ其指揮ニ從ヒテ變更スヘシ
一	他ニ延焼ノ虞アル箇所ハ相當ノ防火設備ヲ爲シ尚森林官吏又ハ警察官吏ニ於テ指揮アリタルトキハ其指揮ニ從フヘシ

造林事業豫定案

記入番號	縣	郡	町	大字	類別	樹林種類	施業面積町	種目	摘要	數量	經費		備考	
											單價	總額		
1						スギ	40000	苗木	何處ヨリ購入三年生	本	12,000	3,000	36,000	
									何處ヨリ林地マテ五里	本	6	1,000	6,000	
									地帯一人五歩ツ、	人	80	0,300	24,000	
									植付一人300本ツ、	人	40	0,300	12,000	
2					小計	マツ	100000	苗木	何處ヨリ購入三年生	本	12,000		78,000	
									苗木採取一人5,000本	人	12	0,300	36,000	
									苗木荷造一人5,000本	人	12	0,300	36,000	
									何處ヨリ林地マテ五里	本	20	0,600	12,000	
									運搬	人	5	0,100	0,500	
									運	人	20	0,050	1,000	
									地帯一人一段歩ツ、	人	100	0,300	30,000	
植付一人400本ツ、	人	150	0,300	45,000										
3					小計	ヒバ	200000	苗木	何處ヨリ購入1,000本	本	60,000		160,500	
									何處ヨリ運搬費トモ	本	25,000	4,000	100,000	
									植付一人200本ツ、	人	125	0,300	37,500	
小計										20,000		137,500		
計										340,000	97,000	375,000		

○森林ノ開墾ヲ許可シタルトキ報告ノ件(府縣) 明治三十一年十二月二十八日訓令第四三號

森林法第六條ニ據リ森林ノ開墾ヲ許可シタルトキハ開墾ノ種類面積及箇所數等左表ノ例ニ依リ毎年
末ノ合計ヲ翌年三月末日限リ本省ニ報告スヘシ

明治何年中

森林開墾統計報告表

何 府 縣

開墾種類	箇所數	面積
耕地		
宅地		
燒畑及切替畑		
其他ノ地目變換		
合計		

備考 本表ハ森林ノ名稱異ナル毎ニ別表トスヘシ
開墾許可取消ノモノハ備考ニ之ヲ附記スヘシ

○造林地免租ニ關スル取扱方ノ件(府縣) 明治三十一年十二月二十八日 訓令第四四號

森林法第五十六條ノ造林地免租ニ關シテハ左項ニ據リ取扱フヘシ

一 府縣知事ハ大藏省訓令第七十三號ニ依リ造林地免租ノ協議ヲ受ケタルトキハ左ノ標準ニ依リ
 尙ホ造林ノ難易地味ノ良否等ヲ斟酌シテ免租年期ヲ査定スヘシ

一 喬林及中林ヲ仕立ツル目的ヲ以テ植樹シタルモノハ十箇年以上二十五箇年以内

二 矮林ヲ仕立ツル目的ヲ以テ植樹シタルモノハ十箇年以内

二 府縣知事ハ造林地免租許可地ノ林種面積等左表ノ例ニ依リ毎年末ノ合計ヲ翌年三月末日限り本省ニ報告スヘシ

明治何年中許可

造林地免租報告表

地目	林種	面積	免租年限	一箇年ノ免租額
森林	喬林及中林			
	矮林			
原野山岳等	喬林及中林			
	矮林			
合計				

備考 本表ハ森林原野等其名稱異ナル毎ニ別表トスヘシ

○保安林取扱心得(府縣) 明治三十三年十月八日 訓令第三七號

第一章 保安林調査

第一條 保安林ハ設定ノ目的ニ依リ左ノ十二種ニ區分調査スルモノトス

一 土砂扞止林 二 飛砂防止林 三 水害防備林

四 防風林 五 潮害防備林 六 積雪防止林

七 墜石防止林 八 水源涵養林 九 魚附林

十 目標林 十一 衛生林 十二 風致林

第二條 保安林調査ニ於ケル地形地質ノ異同、地物配置ノ狀態其他利害ノ關係ヲ推斷スルニ必要ナル事項ハ唯目的箇所ノ區域内ノミニ止マラス廣ク全般ノ形勢ニ注目スヘシ

第三條 保安林調査ニ於ケル目的箇所ノ區域、面積其他必要ナル區界並ニ顯著ナル物件ノ位置等ノ調査ハ可成精確ナル方法ニ依リテ測量スヘシ但面積百町步以下ニシテ施業案ヲ編成セシムヘキ見込アルモノ及一部ヲ保安林ニ編入セントスルモノヲ除ク外當分ノ内適宜ノ方法ニ依リテ其面積ヲ調査スルコトヲ得

第四條 保安林調査ハ利害關係ノ顯著ナルモノヨリ漸次著手スヘシ

保安林ノ編入ニ付申請アリタルトキ若クハ官廳ノ通知アリタルトキハ速ニ保安林調査ヲ行フヘシ

第五條 保安林調査ニ於テハ主トシテ左ノ事項ヲ調査シ保安林編入調査ヲ製スヘシ

一 目的箇所ノ所在、地籍、地目、地番及其所有主

- 二 面積及地價
 - 三 地形地質及地盤面ノ形状
 - 四 現在ノ林況
 - 五 保安林編入ノ事由
 - 六 保安林編入後ニ於ケル營林及保護ノ方法其他必要ナル制限事項
 - 七 保安林編入後ニ於ケル造林及地盤保護工事ノ種類並ニ方法
 - 八 關係區域
- 第六條 保安林種類ノ選定ヲ爲スニ當リ編入ノ目的ニ種以上ニ涉ル場合ハ實地ノ形勢ニ依リテ效用ノ程度及必要ノ多少等ヲ比較シテ其主ナル種類ノ保安林ニ編入ノ目的ヲ以テ調査シ其旨ヲ調査ニ記入シ置クヘシ
- 第七條 保安林編入調査ハ別記第一號様式ニ依リテ各調査箇所毎ニ調製シ保安林地圖ヲ添附スルモノトス但其調査ノ施業法要領ハ第二章ニ定ムル制限ニ從ヒ調査記入スヘシ
- 第八條 保安林地圖ハ各調査箇所毎ニ一圖トシ左ノ事項ヲ明示スルモノトス
- 一 調査箇所及其附近ノ地形並ニ地物ノ配置
 - 二 境界並ニ鄰接地ノ種類
- 右ノ外利害關係ヲ推斷スルニ足ルヘキ編入區域ノ概況圖ヲ添附スヘシ
- 第九條 保安林地圖ハ用紙禁水引美濃紙半片、一枚及二枚繼ノ三種各一葉ヲ以テ全紙トシ縮尺ハ可成左ノ區別ニ依ルヘシ
- 面積一町步未満ハ六百分ノ一
 - 面積一町步以上ハ千二百百分ノ一

- 面積十町步以上ハ三千百分ノ一
 - 面積五十町步以上ハ六千百分ノ一
 - 面積過大ニシテ美濃紙二枚以上ヲ要スルモノナルトキハ適宜縮尺ヲ定メ圖面ニ表記スヘシ
- 第十條 保安林ニ編入ノ目的同一ニシテ所有者同一ナル圍地ハ之ヲ一箇所トシテ調査ヲ爲スコトヲ得
- 第二章 保安林ノ施業**
- 第十一條 保安林ニ於テハ一箇所(編入調査ノ一筆ヲ一箇所トス)毎ニ施業ヲ爲サシムヘシ但保安林ノ種類同一ニシテ所有者同一ナルカ若クハ所有者異ナルモ各所有者合意ニテ同一事業ヲ爲サントスル場合ニ於テ保安上ノ目的ヲ害セスト認ムルトキハ二箇所以上ノ保安林ヲ併合シテ一施業ヲ爲サシムルコトヲ得
- 第十二條 保安林ノ伐採ハ擇伐法ニ依ラシムヘシ
- 前項ノ擇伐法ハ樹種及地勢ヲ參酌シ點狀、群狀若クハ列狀法ヲ用ユルモノトス
- 第十三條 毎年ノ擇伐區域ハ輪伐齡ヲ以テ立木地全面積ヲ除シタル商ノ三倍ヨリ小ナルコトヲ得ス
- 第十四條 毎年ノ擇伐面積(伐採スヘキ立木ノ占領面積)ハ輪伐齡ヲ以テ立木地全面積ヲ除シタル商ヲ超ユルコトヲ得ス但施業上ノ便宜ニ依リ五年以内ノ隔年作業ヲ行ハシムルヲ得此場合ニ於テ擇伐面積ハ全面積ノ三分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス
- 群狀擇伐及列狀擇伐ニ在リテハ伐採面積ヲ數箇所ニ分割シ一箇所ノ面積ハ可成狹少ナラシムヘシ
- 前二項ノ規定ハ手入間伐木、被害木、危險木及支障木ノ伐採ニハ之ヲ適用セス

第十五條 保安林ニ於ケル輪伐齡ハ左ノ標準ニ依ルヘシ

矮林ハ十年以上

喬林ハ三十年以上

竹林ハ三十年以上

中林ノ上木ハ三十年以上、下木ハ十年以上

第十六條 伐採ヲ行フニ於テハ到底地方ヲ維持シ若クハ回復スルノ見込ナキモノ又ハ高地ノ森林ニシテ林木ノ生長極メテ遲鈍ナル場所、急斜砂岩地等ニシテ再ヒ森林ヲ仕立ツルコト困難ナル場所ノ如キハ伐採ヲ禁止スヘシ但手入間伐木、被害木、危険木及支障木ハ國土保安上差支ナシト認ムルトキニ限り之ヲ伐採セシムルコトヲ得

第十七條 防火及砂防ノ設備ノ必要アル箇所ハ豫メ其方法ヲ指定スヘシ

第十八條 現在ノ保安林並ニ將來保安林ニ編入スヘキ箇所ニシテ荒廢ニ屬スルモノハ十年箇年以内ニ造林セシムヘシ

第三章 保安林施業案ノ編成

第十九條 保安林ノ施業ハ第二章ニ定ムル制限ニ從ヒ豫メ施業案ヲ編成セシメ且其認可ヲ受ケシムヘシ

第二十條 保安林施業案ハ別記第二號様式並ニ説明ニ依リ之ヲ編成セシムヘシ

第二十一條 保安林施業案ハ保安林ニ編入後二年以内ニ編成セシムヘシ但森林法第三十條ニ依ル保安林ノ施業案ハ第二十七條ノ調査終了後二年以内ニ編成セシムヘシ

第二十二條 左ノ保安林ニ付テハ施業案ノ編成ヲ省畧セシムルコトヲ得

一 面積五町步未滿ノ喬林及面積二十町步未滿ノ矮林並ニ中林

二 平均林齡未タ輪伐齡ノ半ニ達セサル森林

三 未立木地カ全面積ノ過半ナル森林

四 經濟上未タ施業ヲ行フノ時期ニ達セサル森林

五 土砂打止、風致等ニ必要ニシテ當分施業スヘキ見込ナキ森林

六 竹林

第二十三條 保安林施業案ハ其編成ノ時ヨリ十年以内ニ於テ改定又ハ訂正セシムヘカラス但天災其他特別ノ事由生シタル場合ニ於テ其施業カ保安林ノ目的ヲ損スル虞アルトキハ此限ニ在ラズ

第二十四條 保安林施業案ハ十年毎ニ改定セシムヘシ但尙ホ用ニ耐ユルト認ムルトキハ引續キ之ヲ用ユルコトヲ得

第四章 附則

第二十五條 利害ノ關係ニ府縣以上ニ跨ル森林ニ在リテハ關係府縣知事協議ノ上便宜其主管ヲ定メテ保安林ノ調査ヲ爲スヘシ

第二十六條 保安林調査ハ國有林及部分林ニ在リテハ大林區署、御料林ニ在リテハ御料局ニ委囑スルコトヲ得

第二十七條 森林法施行以前ノ編入ニ係ル保安林ハ十年以内ニ之ヲ調査シ保安林編入調査ニ通テ製シ其一通ヲ進達シテ施業法ニツキ本大臣ノ指揮ヲ請フヘシ
前項ノ指揮ヲ受ケタルトキハ施業法要領ヲ所有者ニ通達スヘシ

(別記)

第一號様式

保安林取扱心得

三十五年四月
訓令第九號ヲ
以テ第二十七
條改正

保安林編入調書

所在地(林ノ字)		何府縣何國何郡市何町村大字何字何番何山又ハ何林	
所有者住所氏名			
申請者住所氏名			
全面積		百十五町五段歩	
保安林編入面積		七十五町歩	
保安林地價			
傾斜及方位		南方ニ傾斜シ平均凡二十度	
土性		上層ハ地質壤土(埴土埴質壤土砂質壤土砂土)ニシテ砂及礫ヲ混ス深サ六寸次ハ砂質粘土層砂層及礫層ニシテ其合計深サ二尺基岩ハ綠岩ニシテ所々ニ露出ス	
地界		落葉朽土少ク稍乾燥ニシテ灌木及雜草疎生シ苔蘚ハ谿畔ニ少許ヲ見ルノミ	
境		東ハ某所有ノ無立木地ナル山林南ハ何村共有秣場西及北ハ官有原野ニ接ス	
林木種		檜六分花柏四分	
林齡		五十年乃至七十年生ヲ主トシ間々十二三年生ノモノヲ混ス	
疎密		疎(密中)ニシテ一町歩平均三百本日光殆ント林地ニ注射ス	

關係區域	施業法要領							編入ノ事由	現況			
	取締法	地盤保護工事	手入法	播植法	雜產物ノ採否	伐採面積	輪伐齡		保安林種類	伐採法又ハ禁伐	雜產物	慣行施業
何村何村二箇村ノ水田灌溉ニ影響シ其段別凡何町歩ナリ	野火ノ延焼ヲ防クニ注意シ豫メ周圍ニ幅五間以上ノ防火線ヲ設ケシム	砂防ノ爲メ積苗工ノ施行ヲ要ス	適宜灌木ヲ刈除シテ稚樹ノ生育ヲ保護シ且今後何年間ニ若干ノ間伐ヲ許ス	自然生ヲ撫育シ且勉メテ檜ヲ補植シ速カニ密林トナスヲ要ス	落葉ノ採取ノミヲ許ス	七段五畝歩(連年又ハ何箇年隔年作業)	百年	水源涵養林	點狀擇伐	蔬菜落葉下草等少許	需用ヲ俟テ擇伐ス平均一箇年全面積ノ伐採量千四百尺ベニシテ空隙ニハ檜苗ヲ補植ス	八九十年
								水源涵養土砂扞止ニ必要ノ森林ト認ム		良樹ノ伐採過量ナルカ故ニ林相亦昔日ノ觀ナク谿水著シク減少シ小雨ニモ土砂ヲ流シテ混濁ス		

臺帳番號 臺帳ニハ編入調書ノ番號ヲ記入ス

第二號様式

何府縣何國何郡何村大字何字何
自何番至何番自何番至何番自何番至何番何箇所
保安林施業案

明治何年何月何日編成

何府縣何國何郡何村大字何番地

森林所有者

何 某

將來施業要略		伐採豫定				備考
伐採	造林	自明治三十一年至明治四十年		明治四十一年以後		
		擇伐區域町	擇伐面積町	擇伐材積尺ノ	擇伐區域町	
<p>(水源涵養林)</p> <p>野生ウツロモミノ老木ノ伐採ハ地盤ノ固キニシテ其ノ下層ヲ期シテ行フナラシムルニシテ其ノ老木ノ伐採リテナス</p>		<p>同齡年四十年</p> <p>10.00</p>	<p>8.33</p>	<p>10,033</p>	<p>25.00</p>	<p>最初十箇年ノ擇伐區域ハ本林ノ西北端ヨリ起テ南至マツトス</p>
<p>今後三箇年間ニヒテ新植ス</p>					5.00	
<p>1/10</p>		10.00	3.33	10,033	30.00	
<p>(潮害防備林)</p> <p>常陸ノ方向ニ直ニ三箇年ノ伐採ニシテ其ノ所ハ三箇年以テ更新ス。隣接伐採地ニ十分ノ更新ヲ了シテ後ニアラサレハ伐採地ヲ伐採セサルモントス</p>		<p>同齡年二十年</p> <p>25.00</p>	<p>8.33</p>	<p>6,664</p>	<p>15.00</p>	<p>伐採後三箇年自然下種ノ採種ニヨリ補植及手入ヲ爲ス</p>
<p>1/10</p>		25.00	3.33	9,664	15.00	
		2.50	0.83	666		

村大字	字	擇伐種類	林地		林		木			
			面積	摘要	樹種及高木割合	疎密度	林齢	材積		
保安林臺帳番號	10	何々何々何々	25.00	方位 西北 傾斜 急 土性 傾斜強土 地質 礫石及ヒコト多 境界 南ハ河々國有林 ニ連リ北ハ谷ヲ隔テ 西ハ河々國有林ニ接ス	ヒバ 0.2 ウツシロ 0.3 モミ ブナ其他 0.5	中	1 ヒバ 2 ヒバ 3 ヒバ 4 ヒバ 5 ヒバ 6 ヒバ 7 ヒバ 8 ヒバ 9 ヒバ 10 ヒバ 11 ヒバ 12 ヒバ 13 ヒバ 14 ヒバ 15 ヒバ 16 ヒバ 17 ヒバ 18 ヒバ 19 ヒバ 20 ヒバ 21 ヒバ 22 ヒバ 23 ヒバ 24 ヒバ 25 ヒバ 26 ヒバ 27 ヒバ 28 ヒバ 29 ヒバ 30 ヒバ 31 ヒバ 32 ヒバ 33 ヒバ 34 ヒバ 35 ヒバ 36 ヒバ 37 ヒバ 38 ヒバ 39 ヒバ 40 ヒバ 41 ヒバ 42 ヒバ 43 ヒバ 44 ヒバ 45 ヒバ 46 ヒバ 47 ヒバ 48 ヒバ 49 ヒバ 50 ヒバ 51 ヒバ 52 ヒバ 53 ヒバ 54 ヒバ 55 ヒバ 56 ヒバ 57 ヒバ 58 ヒバ 59 ヒバ 60 ヒバ 61 ヒバ 62 ヒバ 63 ヒバ 64 ヒバ 65 ヒバ 66 ヒバ 67 ヒバ 68 ヒバ 69 ヒバ 70 ヒバ 71 ヒバ 72 ヒバ 73 ヒバ 74 ヒバ 75 ヒバ 76 ヒバ 77 ヒバ 78 ヒバ 79 ヒバ 80 ヒバ 81 ヒバ 82 ヒバ 83 ヒバ 84 ヒバ 85 ヒバ 86 ヒバ 87 ヒバ 88 ヒバ 89 ヒバ 90 ヒバ 91 ヒバ 92 ヒバ 93 ヒバ 94 ヒバ 95 ヒバ 96 ヒバ 97 ヒバ 98 ヒバ 99 ヒバ 100 ヒバ	200 500 100	7,000 17,500 5,600	
			計	40.00						30,100
			全面積	40	100%					
十年間	擇伐區域	10.00								
保安林臺帳番號	10	何々何々何々	40.00	傾斜 平 土性 砂土 地質 落葉少シ 境界 南ハ河々國有林 ニ連リ北ハ谷ヲ隔テ 西ハ河々國有林ニ接ス	クロマツ	密	11 クロマツ	原形森林	40 80	32,000
			計	50.00						32,000
			全面積	50	100%					
十年間	擇伐區域	25.00								

保安林施業案説明

- 一 臺帳番號欄ニハ保安林臺帳ノ番號ヲ記載スヘシ
 - 二 擇伐種類欄ニハ保安林取扱心得第十二條ニ依リ選定シタル伐採法ヲ記載スヘシ
 - 三 面積欄ニハ立木地、未立木地及除地ニ區別シテ記載スヘシ除地トハ道路、河川、岩石、不毛地等ニシテ樹木ヲ立立ツルコト能ハサル土地ヲ云フ
 - 四 林地摘要欄ニハ編入調書ニ依リ方位、傾斜、土性、地表、境界等ヲ簡明ニ記載スヘシ
 - 五 樹種及混浴部合欄ニハ樹名ハ片假名ニテ記載シ混浴部合ハ十分率ヲ以テ記載スヘシ
 - 六 疎密度欄ハ疎、中、密ノ三級ニ區分シ林齢ニ應シテ相當ノ閉鎖度ヲ想定シテ調査記載スヘシ
 - 七 林木摘要欄ニハ林相ノ模様ヲ簡明ニ記載スヘシ
 - 八 林齢欄ニハ老幼ノ差甚シキモノハ其樹齡ノ範圍ヲ記載シ其差甚シカラサルモノハ平均林齢ヲ記載スヘシ
 - 九 材積欄總ノ部ニハ一町歩ニ對スル材積ニ立木地面積ヲ乘シタルモノヲ記載スヘシ
 - 十 將來施業要略伐採ノ部ニハ擇伐ノ方法ヲ記載シ造林ノ部ニハ更新ノ方法ヲ記載スヘシ
 - 十一 伐採豫定欄最初十年間擇伐區域ノ部ニハ回歸年(回歸年ハ輪伐齡ノ整分トナスヘシ)ヲ以テ全面積(除地ヲ省ク)ヲ除シタル商ノ十倍面積ヲ掲クヘシ例ヘハ回歸年四十年ニシテ全面積八町歩ナレハ $8.0 \div 2 = 2 \times 10 = 20$ ナルカ如シ
- 同欄擇伐面積ノ部ニハ擇伐區域ノ三分ノ一、四分ノ一等ニ相當スル面積ヲ掲クヘシ例ヘハ回歸年カ輪伐齡ノ三分ノ一ナレハ區域ノ三分ノ一、四分ノ一ナレハ區域ノ四分ノ一面積ヲ掲クルカ如シ
- 同欄材積ノ部ニハ擇伐面積ニ相當スル材積ヲ掲クヘシ

同欄十年以後擇伐區域ノ部ニハ全面積ヨリ十年間擇伐區域面積ヲ減シタル殘數ヲ記載スヘシ
 十二 備考欄ニハ擇伐區域ノ伐採順序等ヲ記載スヘシ
 十三 計線ノ下ニハ面積及材積ノ計ヲ記シ面積計ノ次ニハ回歸年ヲ以テ全面積ヲ除シタル商及之
 カ十倍面積ヲ掲ケ前十年間伐採豫定計ノ下ニハ其十分ノ一額ヲ記載スヘシ

○保安林臺帳規程 (府縣) 明治三十年十二月四日 訓令第三三二號

第一條 各地方廳ハ保安林臺帳ヲ備ヘ置クヘシ

前項ノ臺帳ハ御料林、國有林、部分林、公有林、社寺林、私有林ヲ各別ニ編製スルモノトス

第二條 保安林臺帳ハ保安林ノ編入アリタルトキ及保安林取扱心得第二十七條ノ調査結了シタルトキハ之ヲ登錄スルモノトス

第三條 保安林臺帳ハ別記様式ニ據リ之ヲ調製シ雛形ニ準シ圖面ヲ添付スヘシ

第四條 保安林ヲ解除シ又ハ保安林臺帳ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其都度更正ヲ爲スモノトス

前項ノ更正ニシテ當省ノ指令ニ依ルモノハ指令年月日及文書番號ヲ記入シ其ノ他ニアツテハ事由ヲ備考欄ニ記入シ主任官吏ノ證明ヲ捺スヘシ

第五條 毎年度末ニ於ケル保安林現在表ハ別記報告様式ニ據リ翌年度五月末日マテニ本大臣ニ報告スヘシ

臺帳記載事項ノ更正ニシテ當省ノ指令ニ依ラサルモノハ其ノ都度本大臣ニ報告スヘシ

前項ノ規定ハ森林法施行以前ノ編入ニ係ル保安林ニツキ假臺帳ヲ用ユルモノニ之ヲ準用ス

第三十五年訓令
第七號ヲ以テ
第二、四、五條
中及様式改正

第六條 保安林ニ就キ直接利害ノ關係ヲ有スル者ヨリ保安林臺帳ノ閱覽ヲ請フトキハ之ヲ閱覽セシムヘシ

(別記報告様式)

(何)年度保安林現在表

種別	前年度現在		編入		解除		本年度現在
	普通	禁伐	箇所面積	箇所面積	箇所面積	箇所面積	
國有林	普通	禁伐					
御料林	普通	禁伐					
部分林	普通	禁伐					
公有林	普通	禁伐					
社寺林	普通	禁伐					
私有林	普通	禁伐					
準森林	普通	禁伐					
計	普通	禁伐					
合計	普通	禁伐					

備考

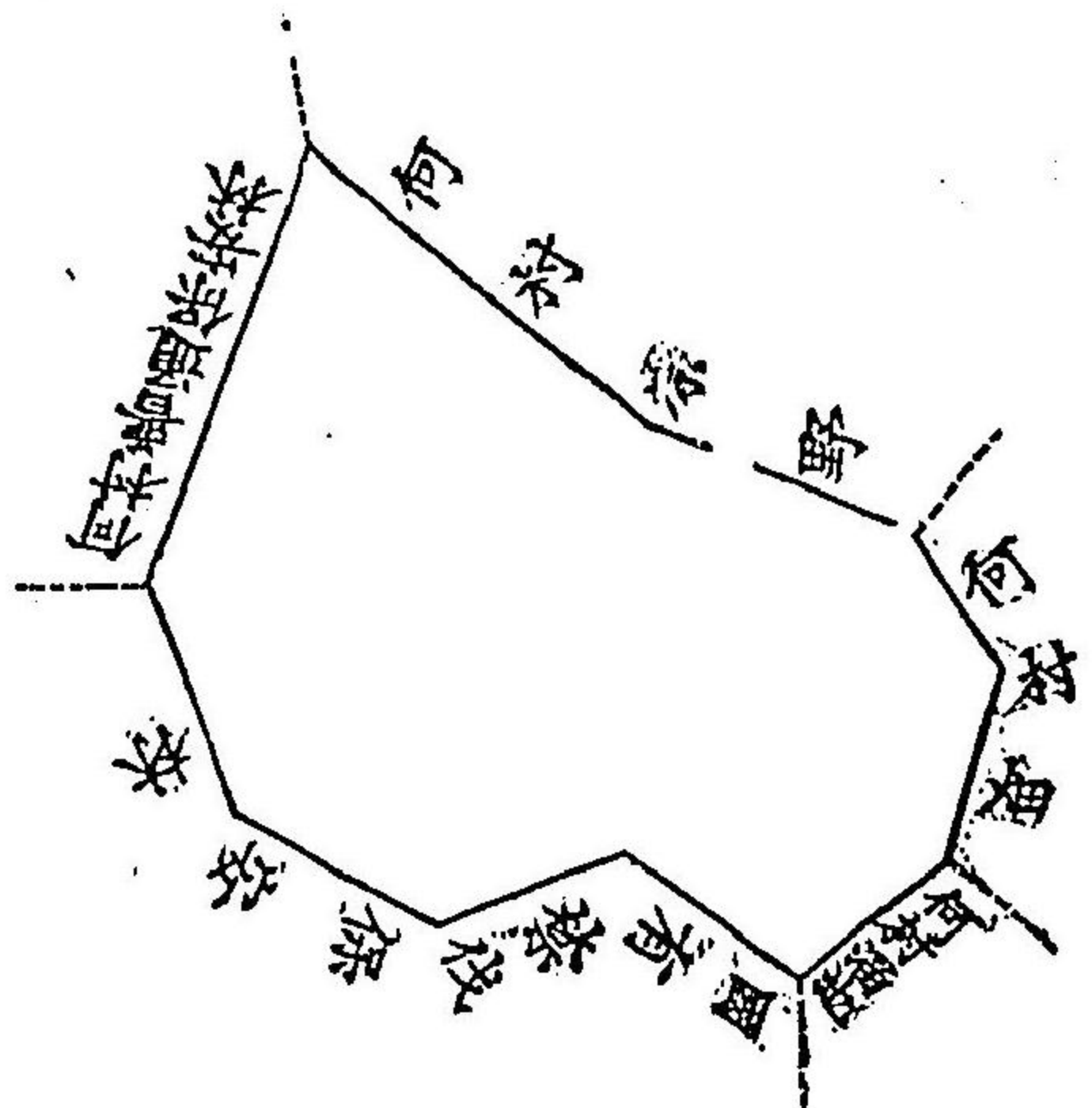
前年度現在ハ前年度三月三十一日ノ現在數ヲ掲ク
 編入ハ該年度中新ニ編入シタルモノ、總數ヲ掲ク

解除ハ該年度中解除シタルモノ、總數ヲ掲ク

本年度現在ハ前年度現在數ニ編入數ヲ加ヘ解除數ヲ減シタルモノヲ掲ク

用紙 禁水引美濃紙

縮尺 一間(何)分



(別記報告様式)

禁伐(普通) 國郡市町 大字 地番 地目 全面積 編入面積 所有者 編入年 利害 月日 區域 備考

○保安林簿規程 (大林區署) 明治三十年十二月十四日 訓令第三三三號

第一條 大林區署長ハ所轄内ニ屬スル國有保安林簿ヲ調製シ大林區署ニ備ヘ置クヘシ

前項ノ林簿ハ國有林、國有地ノ部分林ヲ各別ニ編製スルモノトス

第二條 保安林簿ハ別記様式ニ據リ之ヲ調製シ雛形ニ準シ圖面ヲ添付スヘシ

第三條 新タニ保安林編入ノ決定アリタルトキハ保安林簿ニ登錄スヘシ其解除ノ決定又ハ保安林簿ニ記載シタル事項ニ異動アリタルトキハ其都度之ヲ更正スヘシ

前項ニ依リ保安林簿ノ更正ヲ爲シタルトキハ地方廳通知ノ年月日及番號ヲ記入シ主任官吏ノ證印ヲ捺スヘシ

第四條 森林法施行以前ノ編入ニ係ル保安林ニシテ假臺帳ヲ用ヒ來リタルモノハ保安林取扱心得第二十七條ノ調査終了ト同時ニ本規程第二條ノ林簿ニ登錄スルモノトス

(別記)

用紙西ノ内

編入 年 月 日

第 號		國 郡 市 町 村 大字 字		地 目 番	
禁 伐 (通 普) 安 保	種 類	全 面 積	原 面 積	訂 正 面 積	地 勢

第三十五年訓令 第八號ヲ以テ 第四條中改正

第三十四年勅令
第三十九號及第三
十五年勅令第三
十一號ヲ以テ
修正
ヲ人良改正

山林局書記
營林技手
專任八百六十八人 判任
附則

本令ハ明治三十三年十月十日ヨリ之ヲ施行ス
林野整理局官制ハ之ヲ廢止ス

○國有林野地籍臺帳規程 (大林區署) 明治三十五年五月二十六日 訓令第一三號

- 第一條 大林區署ニ國有森林地籍臺帳及國有原野地籍臺帳ヲ備ヘ國有森林原野ノ所在、字、地番及面積ヲ登錄スヘシ
- 第二條 左ノ場合ニ於テハ臺帳ニ登錄スヘシ
 - 一 官有地ヲ國有森林原野ニ組換タルトキ
 - 二 脫落地、未定地ヲ國有森林原野ニ編入シタルトキ
 - 三 交換、買入及其ノ他ノ事由ニヨリ民有地ヲ國有森林原野ニ編入シタルトキ
- 第三條 左ノ場合ニ於テハ臺帳ノ登錄ヲ刪除スヘシ
 - 一 國有森林原野ヲ他ノ官有地ニ組換タルトキ
 - 二 賣拂、讓與、交換、下戻其ノ他ノ事由ニ依リ離權シタルトキ
 - 三 臺帳ノ登錄カ重複又ハ錯誤ニ係ルコトヲ發見シタルトキ
- 第四條 左ノ場合ニ於テハ臺帳ノ登錄ヲ訂正スヘシ
 - 一 實測ヲ了シ實測面積ヲ知リタルトキ

- 二 前條ノ組換、離權、重複又ハ錯誤カ其ノ一部ニ係ルトキ
- 三 行政區域ノ變更又ハ改稱アリタルトキ
- 四 臺帳ノ登錄ニ誤記アルコトヲ發見シタルトキ
- 第五條 第二條乃至第四條ニ依リ登錄、刪除又ハ訂正シタルトキハ其ノ事由及年月日ヲ事故摘要欄ニ記載シ主任官吏之ニ認印スヘシ
- 臺帳ノ登錄ヲ刪除スルトキハ刪除ノ印ヲ欄外上部ニ押捺シ登錄ヲ訂正スルトキハ朱ノ二線ヲ以テ抹消シ面積ニ在リテハ訂正欄其ノ他ニ在リテハ其ノ側ニ訂正事項ヲ記載スヘシ
- 第六條 國有林野地籍臺帳ハ一郡市ヲ一冊ト爲シ町村毎ニ順次蒐集シ冊首ニ索引ヲ設クヘシ
但筆數ノ多寡ニ依リ一郡市ヲ割キ又ハ數郡市ヲ合スルコトヲ得
- 第七條 國有林野地籍臺帳ハ一冊毎ニ其ノ面積ノ合計ヲ掲クヘシ
前項ノ面積ニ異動ヲ生シタルトキハ毎年度末之ヲ更正スヘシ
- 附則
- 第八條 國有林野地籍臺帳ハ當分ノ内從來ノ國有林野臺帳ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得
從來臺帳ノ備ナキモノハ本規程ニ基キ臺帳ヲ調製スヘシ
- 第九條 大林區署長ハ每會計年度間ニ於ケル所管國有森林原野ノ異動増減ヲ別記第二號様式國有林野異動増減表ニ依リ毎年五月三十一日迄ニ報告スヘシ
- 第十條 國有林野地籍臺帳ハ其ノ副本ヲ所轄小林區署ニ備ヘ置クヘシ
但其ノ保存及整理ニ關スル手續ハ本規程ヲ準用スヘシ

第一號様式 (用紙西ノ内
兩面共ニ本様式ノ通印刷ス)

國 有 森 林		第 號		第 丁 數	
(野 原)					
訂 正	(拾町參段步)	國 市 郡		編 入 年 月 日	
		村 町 大 字 字 番			
事 故 摘 要	(拾八町貳段五畝步)	面 積		(段別五町貳畝步道路敷ニ組換何年何月何日何縣ニ引渡濟ニ付) 訂正何年何月何日① (明治何年何月何日何縣告示第何號何村大字何村ニ合併ニ付訂) 正何年何月何日② (何年何月指令第何號ニヨリ民地ニ拂下濟ニ付删除何年何月何日③) (何年何月指令第何號ニヨリ民地ニ拂下濟ニ付删除何年何月何日④) (字何、何番何町何段何畝步字何、何番何町何段步ノ二筆ヲ合併) 實測ニ付訂正何年何月何日⑤	
		積 面	積 面		
		面 積			
		積 面	積 面		
		事 記			
		(舊藩時代ニ於テ何々御林ト稱セリ) (見繼山)			

括弧ヲ爲セル文字ハ記載例ヲ示セルモノナリ

注 意

- 一 舊簿面記事欄ニハ舊藩以來ノ沿革慣行等ノ如キ舊簿面ニ記載セル事項ニシテ特ニ記録シ置クノ必要ヲ認ムルモノヲ掲記スヘシ
- 二 事故摘要欄ニ登録、删除又ハ訂正ノ事由ヲ記入スルトキハ買入、交換等ニヨリ民有地ヨリ編入ノモノハ其ノ登記ノ年月日、重複又ハ錯誤ノ爲メ舊帳登録ノ删除及字名等ノ訂正ニ在テハ其ノ決議ノ年月日、組換ニ在テハ其ノ受授ノ年月日、拂下其ノ他離權ニ在テハ指令年月日番號等ヲ附記スヘシ
- 三 舊帳ノ登録二號以上ニ跨レル國有林野ヲ合測シ依テ其ノ登録面積ヲ訂正スルトキハ初位ニ於ケル號數ノ舊帳登録ヲ訂正在置シテ何字何番ノ合併實測ニ付訂正シタル旨ヲ事故摘要欄内ニ記入シ而シテ他ノ合測シタル各字ノ舊帳登録ハ删除シ其ノ事由ヲ事故摘要欄内ニ付記シ置クヘシ
- 四 二字以上又ハ二地番以上ヨリ成立シタル國有森林原野ノ内幾部ヲ删除シタルタメ舊帳ヲ訂正シタルトキハ删除部分ニ係ル字地番ハ其ノ全部又ハ一部ナルコトヲ事故摘要欄内ニ記載スヘシ
- 五 數筆ノ國有林野ヲ一口ニ合シ其ノ面積ヲ掲ケアルモノニシテ各筆毎ノ面積ヲ掲記スル必要アルモノハ事故摘要欄内ニ之ヲ記入スヘシ
- 六 凡テ舊帳ノ登録ヲ删除シタルトキハ其ノ在來編綴ノ儘之ヲ保存スヘシ

第二號樣式

國有森林(原野)異動增減表

小林區	前年度在		增			減			差引現在		備考
	箇所	面積	箇所	面積		箇所	面積		箇所	面積	
				編入	訂正		計	除却			
甲小林區											
乙小林區											
丙小林區											

〔注〕

一 編入ノ除却離權等ノ爲メニ箇所全部ノ異動ヲ來シ從テ箇所數ニ増減ヲ生シタルトキ
ノミニ限リ其ノ増減ノ箇所數ヲ箇所欄ニ記入シ其ノ一部分ノ面積ノミノ増減異動
ニ係ル場合ハ之ヲ記入スルヲ要セス

二 規程第二條ノ登錄ニ係ルモノハ編入ノ欄ニ記入スヘシ

三 規程第三條第一項及第三項ノ刪除ニ係ルモノハ除却ノ欄ニ記入スヘシ

四 規程第三條第二項ノ刪除ニ係ルモノハ離權ノ欄ニ記入スヘシ

五 規程第四條第一項及第二項ノ訂正ニ係ルモノハ其ノ面積ノ増加シタルモノハ増ノ
部訂正欄ニ又面積ノ減少シタルモノハ減ノ部訂正欄ニ記入スヘシ

六 交換ニヨリ離權シタルモノハ離權ノ欄ニ其ノ面積ヲ記入シ又交換ニヨリ取得シタ
ル面積ハ更ニ編入ノ欄ニ記入スヘシ

明治三十二年訓令第四四號
第三、四、五條中
修正削除

○國有林野處分調査規程(大林區署) 明治三十二年四月二十二日 訓令第二三號

第一章 總則

第一條 國有林野處分ノ爲メ調査スヘキ事項左ノ如シ

一 明治二十三年(四月)農商務省丙林第一三六號達官有林野實況調査内規(以下略シテ單ニ實況調査内規ト稱ス)及明治二十六年(七月)農商務大臣内訓官有森林原野實況調査方針(以下略シテ單ニ實況調査方針ト稱ス)ニ基キ調査シタル要存置不要存置林野ノ區別ノ適否

二 實況調査ノ際存廢區別未定若ハ調査脱落ノ林野ニ在リテハ要存置不要存置ノ區別

三 不要存置林野ノ面積、價格及其產物ノ材積、數量並ニ價格

四 其他不要存置林野ノ賣拂處分ニ付準備上必要ナル事項

第一條ノ二 第一條第一號及第二號ノ存廢區別ノ調査ハ高等官又ハ特ニ選拔シタル判任官ヲシテ之ヲ行ハシムヘシ

第一條第三號及第四號ノ處分調査ヲ行フニハ判任官一名若ハ二名ヲ以テ調査組ヲ組織シテ各調査區ニ派遣スヘシ

調査區ハ可成小林區署ノ管轄區域ニ從ヒ大林區署長之ヲ定ムヘシ

第二條 削除

第三條 削除

第四條 削除

第五條 調査ノ順序ハ存廢區別ノ調査ヲ先ニシ順次第三章乃至第七章ノ調査ヲ爲スヘシ但存廢區別ノ調査必要ナキ場合其他第三章乃至第七章ノ順序ニ依ルノ必要ナキ場合ニハ此限ニアラス

三十五年訓令第十號ヲ以テ第一條ノ二、三、四條削除

第六條 調査員ハ調査著手前ニ簿書ニ付受命調査區内ノ林野ニ對シ年期貸付、主副產物ノ年期賣拂、副產物ノ年期無料採收、部分林、豫約賣拂其他總テ林野ニ附帶スル義務ノ有無ヲ調査シ其調査ヲ携帶スヘシ

第七條 豫約賣拂林野ニシテ成功年限中ニ係ルモノハ第三章乃至第六章ノ調査ヲ爲スコトヲ要セス

第八條 豫約賣拂林野ニシテ事業不成功其他ノ原因ニ依リ返地セシメタルモノハ本規程ノ調査ヲ爲スヘシ

第九條 開墾、牧畜ハ植樹ノ爲メ貸付シタル林野ニ付テハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第十條 調査ハ小林區署職員ノ立會ヲ求メ之ヲ施行スヘシ但大林區署長ニ於テ立會ノ必要ナシト認ムル場合ハ此限ニアラス

第十一條 義務ノ附帶スル林野ノ境界査定、產物ノ材積及數量ノ調査ニハ可成其權利者ヲ立會ハシムヘシ

第十二條 存廢區別調査員ハ山林局長ノ定ムル様式ニ從ヒ要存置不要存置林野區別表(以下略シテ單ニ區別表ト稱ス)ヲ調製シテ大林區署長ニ差出スヘシ

處分調査員ハ山林局長ノ定ムル様式ニ從ヒ不要存置林野調査書(以下略シテ單ニ調査書ト稱ス)及不要存置林野實測圖(以下略シテ單ニ實測圖ト稱ス)ヲ調製シ之ヲ市町村別ニ編綴シ毎月二回大林區署長ニ差出スヘシ

但シ實測既濟ニシテ實測面積アルモノ及第二十三條第二項ノ場合ハ見取圖ヲ以テ實測圖ニ代用スルコトヲ得

第十三條 削除

第十四條 削除

第十五條 削除

第十六條 削除

第十七條 削除

第十八條 削除

第十九條 削除

第二十條 削除

第二十一條 削除

第二十二條 削除

第二十三條 削除

第二十四條 削除

第二十五條 削除

第二十六條 削除

第二十七條 削除

第二十八條 削除

第二十九條 削除

全上ヲ以テ第一、二、三、四條修正第一、二、三、四條削除

第十五條 調査書ニハ其欄外ニ調査ノ年月日ヲ記載シ處分調査員及立會官吏署名捺印スヘシ
第十六條 實測圖ハ礮水引美濃紙半片一枚又ハ二枚以上ヲ繼キタル用紙ヲ用ヒ第四章ノ規定ニ從ヒ之ヲ調製スヘシ

實測圖ハ一箇所毎ニ用紙一葉ヲ充ツヘシ

實測圖ハ當該箇所調査書ノ第二頁ニ貼付シ又ハ次葉ニ編綴スヘシ

第十七條 削除

第十八條 文字ハ階書體ニテ明記シ訂正、挿入、削除等ヲ爲ス場合ニハ之ヲ朱記シ其箇所ニ檢印スヘシ

第三章 存廢區別ノ調査

第十九條 存廢區別ノ再調査ハ實況調査内規及實況調査方針ニ準據シ實地ニ就キ踏査スヘシ

第二十條 存廢區別ハ前條ノ外左ノ各號ヲ參酌シテ定ムヘシ

- 一 面積ヲ以テ存廢ノ標準ト爲スヘキ場合ニハ實際ノ見込面積ニ據ルヘシ
- 二 削除
- 三 平坦地又ハ丘阜地等ニシテ容易ニ田畑ニ開墾シ得ヘキモノ及桑、柑類、榛、楮其他農業ニ屬スル果樹ノ植栽ニ適スルモノハ實況調査方針第一號ニ依リ固有農地ト認ムヘキモノトス
- 四 保安林ト雖利害ノ關係極メテ小ナルモノハ存置ヲ要セサルモノトス但調査書ニハ其保安林タルコトヲ記載スヘシ
- 五 無立木地若ハ岩石地等ニシテ收入ノ見込ナキ林野又ハ交通極メテ不便ナル位置ニ在ル林野等ニシテ民有ニ適セサルモノハ存置スヘキモノトス

全上ヲ以テ第一七條削除

全上ヲ以テ第二〇條中改正

第二十一條 河川法ニ依ル河川ノ區域、砂防法ニ依ル砂防設備又ハ航路標識其他國防上必要ナリト認ムヘキ林野ハ林野整理支局長ノ指揮ヲ受ケ存廢區別ヲ定ムヘシ
第二十二條 存廢區別再調査ノ結果カ實況調査ノ成績ト異ナルトキハ大林區署長ノ指揮ヲ受ケ存廢區別ヲ定ムヘシ

第四章 境界査定、實測及面積算定

第二十三條 境界ノ明瞭ナラサル林野ハ査定ヲ施行シタル上實測ヲ爲スヘシ但從前實測濟ノ林野ニ付テハ之ヲ爲スコトヲ要セス

一段歩以下ノ小面積ノモノハ第二十七條ノ場合ヲ除クノ外ハ周圍ノ測量ヲ省略シ三斜法等ニ依リ實地ニ付キ直チニ面積ヲ測定スルコトヲ得

第二十四條 民地官木ノ森林ニ付テハ境界査定及實測ヲ爲スコトヲ要セス但產物ノ材積及數量ノ調査ノ爲必要ナリト認ムルモノニ在リテハ適宜ノ方法ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第二十五條 實測ハ適宜ノ測器ヲ使用シテ之ヲ行フヘシ

第二十六條 實測圖調製ニ使用スル縮尺ハ可成左ノ區別ニ依ルヘシ

面積一町步未満 六百分ノ一

面積一町步以上 千二百分ノ一

面積十町步以上 二千五百分ノ一

面積五十町步以上 五千分ノ一

第二十七條 市町村ノ附近ニ在ル林野其他經濟上特別ノ價值アル林野ニ付テハ實測ハ可成精良ナル器械ヲ用ヒ製圖ハ可成大ナル縮尺ヲ用フヘシ

第二十八條 林野内ニ左ニ掲クル箇所アルトキハ實測圖面ニ其位置及面積ヲ表示スヘシ

全上ヲ以テ第二三、二五、二六條中改正

全上ヲ以テ第
二九、三〇條
改正

一 温泉敷地、礦泉敷地、鹽田又ハ貯木場其他經濟上特殊ノ目的ニ供用シ得ヘキ土地
 二 年期貸地、部分林、豫約賣拂地其他義務ノ附帶スル土地
 前項第一號ノ土地ニ付テハ別ニ其部分ヲ實測シ六十分ノ一ノ縮尺ヲ用ヒテ別圖ヲ調製シ之ヲ全圖ニ添付スヘシ

第二十九條 實測圖ノ調製終リタルトキハ圖面ノ上ニテ面積ヲ計算スヘシ
 面積及面積計算法ハ其ノ圖面上ニ記載スヘシ

第五章 產物ノ材積及數量ノ調査

第三十條 樹木ノ材積ヲ計算スルニハ標準地ヲ選定シ標準地内ノ材積ヲ測定シ之ニ依リテ全林ノ總材積ヲ算出スヘシ但シ林相混淆複雑又ハ立木群生點生等ノ爲標準地ヲ選定シ難キモノハ此ノ限ニアラス

標準地ノ面積ハ全面積ノ百分ノ五以上トシ其ノ最小面積ハ一段歩トス

第三十一條 官地民木ノ森林ハ產物ノ材積及數量ヲ調査スルコトヲ要セス

第三十二條 林野内ニ主產物年期賣拂ニ係ルモノアルトキハ其賣拂フヘキ樹木ヲ控除シ殘餘ノモノニ付材積ヲ計算スヘシ

第三十三條 部分林ノ主產物ハ全林ノ材積調査ヲ爲シ分收ノ割合ニ依テ國有ニ屬スヘキモノヲ算出スヘシ土地ノ區域ニ依リ分收スル場合ニ在リテハ國有ニ屬スル區域ノ材積ヲ調査スヘシ

第三十四條 削除

第三十五條 削除

第三十六條 人工植栽ノ幼樹(材積ヲ以テ價格ヲ見積リ難キモノ)ニ在リテハ植栽苗數年度、補植苗數年度等ヲ調査スヘシ

全上ヲ以テ第
三六、三九、
四一、四三、
四四、四五條
改正

第三十七條 價值ヲ有セサル樺樹及下芝等ハ材積又ハ數量ノ調査ヲ爲スヲ要セス

第三十八條 竹林ハ其種類品質ノ良否ヲ參酌シ總面積ノ百分ノ一以上ノ標準地ニ據リ全數量ヲ算出スヘシ

第三十九條 副產物ハ左ノ方法ニ依リ數量ヲ調査スヘシ

一 削除

二 果樹、茶、桑、楮、三椏又ハ榛等林業ニ屬セサルモノハ各適宜ノ方法ニ依リ數量(本數、株數、大小等)ヲ調査スヘシ

三 建築材料其他經濟上特殊ノ目的ニ供セラルヘキ土石類ハ適宜ノ方法ニ依リ現存ノ總數量ヲ調査スヘシ

第四十條 樹皮、樹液、籜又ハ落枝葉等主產物ノ一部ヲ爲スモノ又ハ價值ヲ有セサル副產物ハ其ノ數量ヲ調査スルヲ要セス

第六章 價格ノ調査

第四十一條 林野ノ素地ニ付テハ可成近傍類地ノ時價ヲ標準トシ地質地形及交通ノ便否等ヲ參酌シ其價格ヲ定ムヘシ

第四十二條 主產物ニ付テハ其地方ノ時價ヲ標準トシ既往賣拂代價ヲ參酌シテ山元時價ヲ定ムヘシ

第四十三條 人工植栽ノ幼樹林ニアリテハ他ノ類例ヲ參酌シ幼樹ノ價ヲ土地ノ價格ニ包含セシムヘシ他ノ類例ニ依リ難キ場合ハ費用價ヲ計算シテ幼樹ノ價格トスヘシ

第四十四條 菌蕈、筍、下草又ハ茸等ハ連年生産アル副產物ハ特ニ其數量價格ヲ調査セシテ可成同一狀況ノ類地ノ時價ヲ標準トシテ土地ノ價格ニ包含セシムヘシ

類地ノ時價ニ依リ難キ場合及第三十九條第一項第二號及第三號ニ該當スルモノハ適宜ノ方法ニ依リ其價格ヲ算定スヘシ

第四十五條 第二十八條第一項第一號ニ掲ケタル土地及第三十九條第一項第二號ニ掲ケタル果樹ノ價格ヲ調査スル場合其他必要アリト認ムルトキハ評價人ヲシテ評價セシムルコトヲ得

第七章 賣拂處分ノ參考トナルベキ事項ノ調査

第四十六條 調査員ハ左ノ事項ヲ調査シ之ヲ調査書當該欄内ニ記載スヘシ

- 一 社寺委託林ニ付テハ受託社寺、委託許可年月、委託年限其他必要ト認ムル事項
- 二 部分林ニ對スル部分林仕付主及官地民木ノ森林ニ對スル民木所有者
- 三 道路、溜池、堤塘、溝渠等ノ敷地トシテ貸付シアル林野ニ付テハ其借地人、實況其他必要ト認ムル事項

- 四 前號以外ノ年期貸付地ニ付テハ其借地人貸付ノ年月、貸付年限、借地ノ目的、借地ノ目的タル事業ノ實況及契約解除ニ依リテ受クヘキ借地人ノ損害其他必要ト認ムル事項
- 五 主副産物年期賣拂並ニ副産物無料採取ヲ許可シタル林野ニ付テハ其權利者、許可ノ年月、許可年期其他必要ト認ムル事項

第八章 監督

第四十七條 處分調査員ハ大林區署長ヨリ交付スル森林手簿ヲ携帶シ日々左ノ事項ヲ記入スヘシ

- 一 執務ノ種類
- 二 外業ナルトキハ延里程
- 三 調査セシ林野ノ字名及面積
- 四 立會者ノ官氏名又ハ住所氏名

全上ヲ以テ第五二、五三條改正五三條ノ二並加五六條ノ削除

五 上官ノ監督檢閲ヲ受ケタルトキハ其要領

六 其他必要ト認ムル事項

第四十八條 明治二十四年(二月)戊第一一〇號達森林手簿携帶心得ハ其第二條ヲ除クノ外處分調査員ニ之ヲ準用ス

第四十九條 處分調査員ハ山林局長ノ定ムル様式ニ從ヒ調査功程表ヲ調製シ毎月二回大林區署長ニ差出スヘシ

第五十條 大林區署長ハ山林局長ノ定ムル様式ニ從ヒ毎年三月及九月ノ末日ニ於ケル總組ノ處分調査功程報告書ヲ調製シ翌月中ニ農商務大臣ニ進達スヘシ

第五十一條 大林區署長ハ部下ノ官吏ヲシテ少ナクとも毎月一回各調査區ヲ巡回セシメ處分調査員ノ監督ヲ爲スヘシ

前項監督ニ關スル規定ハ大林區署長之ヲ定メ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五十二條 大林區署長ハ第十二條ノ書類ヲ檢閲シ調査不備ト認ムル事項アルトキハ其再調査ヲ爲スヘシ但直ニ決定シ得ヘキモノハ此限ニアラス

第五十三條 大林區署長ハ存廢區別ノ調査ヲ了シタルモノニ付テハ區別表ノ様式ニ準シ要存置不要存置區別總括表ヲ調製シ農商務大臣ニ進達シテ存廢區別ノ認可ヲ受クヘシ

前項總括表ノ進達期ハ毎年三月六月九月十二月トス

第五十三條ノ二 大林區署長ハ處分調査ヲ了シタルモノニ付テハ山林局長ノ定ムル様式ニ從ヒ毎月一回不要存置林野處分調査總括表ヲ調製シ農商務大臣ニ進達シテ賣拂見積價格ノ認可ヲ受クヘシ

第九章 雜則

第五十四條 處分調査員ハ境界査定、實測及産物ノ材積、數量調査ノ爲メ必要ナル場合ニ限り國有

- 林野ノ產物ヲ斫伐又ハ採取スルコトヲ得
- 前項ニ依リ斫伐又ハ採取シタル產物ハ直ニ當該小林區署長ニ引渡スヘシ
- 第五十五條 處分調査員ハ境界査定又ハ實測ノ爲メ國有ニ屬セサル支障木竹ヲ斫伐スルノ必要アルトキハ豫メ其旨ヲ所有者ニ通知スヘシ
- 前項ノ場合ニ於テ所有者ヨリ補償ヲ求ムルトキハ其事件ヲ當該小林區署長ニ移スヘシ
- 第五十六條 削除
- 第五十七條 處分調査員ハ野帳ヲ携帶シ境界査定、實測及產物ノ材積、數量調査等實地ニ於テ調査シタル事項ヲ記入スヘシ
- 野帳ノ様式ハ大林區署長適宜之ヲ定ムヘシ
- 第五十八條 處分調査員ハ一調査區ノ調査終了後野帳ヲ取纏メ之ヲ大林區署長ニ差出スヘシ
- 前項ノ野帳ハ其處分完結迄之ヲ大林區署ニ保存スヘシ

○國有林施業案編成規程(大林區署) 明治三十五年四月十八日 訓令第六號

第一章 總則

- 第一條 本規程ノ定ムル所ニ依リ事業區ヲ設クルニ足ルヘキ國有林ニ就キ施業案ヲ編成スヘシ
- 第二條 施業案ハ森林ヲ法正ナル狀態ニ導キ其ノ利用ヲ永遠ニ保續スルノ目的ヲ以テ之ヲ編成スヘシ
- 第三條 施業案編成ニ關スル業務左ノ如シ
 - 一 森林區劃

- 二 森林調査
- 三 收穫豫定
- 四 造林豫定
- 五 施業案説明書ノ調製
- 六 施業案ノ檢訂

第二章 森林區劃

- 第四條 森林ヲ區劃シテ事業區、林班及小班ヲ設クヘシ
- 第五條 森林配置ノ狀況ヲ查察シ獨立ノ經營ヲ爲スニ適當ナル區域ヲ選擇シテ一事業區ヲ設定スヘシ
- 第六條 事業區ノ名稱ハ地名ニ依ル可シ
- 第七條 森林ノ狀況及施業上ノ關係ヲ查察シテ一事業區ヲ若干ノ林班ニ區劃スヘシ
- 第八條 林班ノ大サハ一事業區ノ總面積、木材運搬ノ便否、地勢、作業種及輪伐齡等ヲ參酌シ平地又ハ低丘地ノ森林ニ在リテハ面積二十町步乃至五十町步山地ノ森林ニ在リテハ面積三十町步乃至百町步ヲ標準トシテ之ヲ定メカメテ其ノ過大ナルコトヲ避クヘシ
- 第九條 區劃線ハ可成天然境界(道路、河川、峯、谷等)ニ依リテ之ヲ設ケ其ノ天然境界ニ依リ難キ場合ニ限リ人工區劃線ヲ設クヘシ
- 第十條 天然區劃線ニ在リテハ徑路、搬路若ハ防火線ニ兼用スヘキ場合ヲ除クノ外伐開キヲ行ハス人工區劃線ニ在リテハ伐開キヲ行ヒ其ノ幅ハ主線ニ在リテハ五間、副線ニ在リテハ二間ヲ超ユルコトヲ得ス但シ防火線、搬路等ニ兼用スヘキ場合ニ於テハ此ノ限ニアラス
- 第十一條 人工區劃線ヲ設クル場合ニ於テ現ニ壯齡以上ノ立木アルトキハ前條第二項ノ規定ニ拘ハ

ラス伐期ニ至ルマテ其ノ伐開キヲ猶豫シ單ニ視透線ヲ設クルコトヲ得
第十二條 林班境界ノ要所ニハ保存ニ耐ユヘキ標識ヲ設ケ鄰接各林班ノ番號ヲ記載シテ之ヲ標示ス
ヘシ

第十三條 林班番號ハ亞刺比亞數字ヲ用ヒ可成伐採方向ニ從ヒ順次之ヲ附スヘシ
第十四條 現在ノ地況及林況ヲ參酌シテ一林班ヲ若干ノ小班ニ區分スヘシ

施業制限地ニ在リテハ前項ノ外制限ニ關スル事項ヲ查察シテ小班ノ區分ヲ爲スヘシ
第十五條 小班ノ記號ハ一林班毎ニ平假名(いろは)ヲ用ヒ第十三條ニ準シ之ヲ附スヘシ但シ林班中
ニ包容セラル、除地アリタルトキハ之ニ最尾ノ記號ヲ附スヘシ

第十六條 森林區劃ノ設計ニ依リ左ノ測定ヲ爲スヘシ
一 事業區ノ境界及面積

二 林班ノ境界及面積
三 小班ノ境界及面積

四 林地ト除地(道路、河川、池沼、溝渠、固定防火線、區劃線、土場、貯木場、不毛地、家屋敷
地、苗圃、農業地等)トノ境界及面積

五 普通施業地ト施業制限地(地上權及地役權ノ承役地、砂防法ニ依ル砂防設備地、各種保安林、
部分林等)トノ境界及面積

第十七條 面積ハ町ヲ單位トシ歩位マテ示スヘシ

第十八條 面積計算ヲ終リタルトキハ第一號樣式ニ依リ森林面積薄ヲ調製スヘシ

第十九條 第十六條ノ測量ヲ終リタルトキハ境界圖ニ依リ基本圖ヲ調製スヘシ

第二十條 基本圖ヲ分圖ト爲ス場合ニ於テハ適宜ノ縮尺ニ依リ別ニ全事業區ヲ通覽シ得ヘキ縮圖ヲ

調製スヘシ

第三章 森林調査

第二十一條 森林調査ノ事項左ノ如シ

一 地況ノ調査

二 林況ノ調査

三 將來施業見込ノ調査

四 參考事項ノ調査

前項ノ調査成績ハ第二號樣式ノ森林調査簿及施業案説明書ニ記載スヘシ

第一節 地況ノ調査

第二十二條 地況ハ氣候、地勢、土地及地位ニ付其ノ概要ヲ調査スヘシ但シ地位ハ小班毎ニ調査ス
ルヲ要ス

第二十三條 地位ハ五級ニ分チ最上級ヲ一トシ最下級ヲ五トシ氣候及土地ノ狀態略同一ナル地方ヲ
通シテ之ヲ定ム可シ但シ場合ニ依リ上中下ノ三級ニ分ツコトヲ得

前項ノ地位ハ一事業區内ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ得

第二十四條 局部地勢ニ關シ比鄰ノ狀況、方位及傾斜ヲ調査シタル場合ニ方テハ傾斜ハ平坦(五度
未滿)、緩斜(二十度未滿)、急斜(三十五度未滿)、峻嶮(四十五度未滿)、絶峻(四十五度以上)ノ五種
ニ區別スヘシ

土壤ノ性質ニ就テ調査シタルトキハ其ノ深淺ハ淺、中、深三種ニ、結合ハ堅軟、鬆ノ三種ニ、濕
氣ハ乾、潤、濕ノ三種ニ區別スヘシ

第二節 林況ノ調査

第二十五條 林況ハ各小班ニ付樹種、作業種、疎密度、林齡、齡級、成立、材積、平均生長量及林位ヲ調査スヘシ

第二十六條 一小班ニシテ二樹種以上ヨリ林分ヲ組成スル場合ニ於テ之カ混淆部合ヲ示スニハ十分率ヲ以テスヘシ

中休ニ在リテハ上木、下木ニ付各別ニ其ノ混淆部合ヲ示スヘシ
第二十七條 作業種ハ左ノ六種ニ分ツ

- 一 皆伐喬林作業
- 二 前更喬林作業
- 三 擇伐喬林作業
- 四 矮林作業
- 五 中林作業
- 六 竹林作業

第二十八條 疎密度ハ十分率ヲ用ヒ又ハ單ニ疎、中、密ノ三ニ分チテ之ヲ示スヘシ

高齡樹及中林ノ上木ハ一町歩ニ對スル本數、竹林ハ一畝歩ニ對スル本數ヲ示スヘシ

第二十九條 疎密度十分ノ三未滿ナルモノハ之ヲ散生地トシ全部立木ナキモノ又ハ立木アルモ之カ爲メ新植面積ノ減セサルモノハ之ヲ未立木地トス

第三十條 林齡ハ主林木ニ付其ノ平均齡ヲ示スヘシ但シ樹齡ニ著シク差異アルトキハ單ニ其ノ範圍ヲ示スヘシ

第三十一條 中林ニ在リテハ上木ト下木、前更喬林ノ更新期間ニ屬スル林分ニ在リテハ老木ト幼木トノ林齡ハ之ヲ各別ニ調査スヘシ

擇伐喬林及竹林ノ年齡ニ在リテハ其ノ範圍ヲ示スヘシ

第三十二條 一齡級ハ喬林ニ在リテハ二十年、矮林及中林ニ在リテハ五年トス

擇伐喬林、中林ノ上木及竹林ニ在リテハ齡級ヲ分ツコトヲ要セス

齡級ハ羅馬數字ヲ以テ示シ最幼級ヲ一トス

第三十三條 前更喬林ノ更新期間ニ屬スル林分ノ老木ト幼木トノ齡級ハ之ヲ各別ニ調査スヘシ

第三十四條 森林ノ成立ニ關シテハ更新及手入ノ方法、生育及被害ノ狀況並作業上ノ沿革等ニ付其ノ概要ヲ調査スヘシ

第三十五條 材積ハ左ノ方法ニ依リ調査スヘシ但シ既往ノ伐採材積又ハ測樹ノ成績明確ニシテ直ニ之ヲ採用シ又ハ之ニ依リテ推算スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ本條ノ調査ヲ省略スルコトヲ得

一 喬林又ハ中林ノ上木ニシテ第一施業期ニ伐採スヘキ林木ハ毎木調査但シ林相稍ヤ均一ナルモノニ在リテハ標準地調査

二 喬林又ハ中林ノ上木ニシテ第二施業期以後ニ伐採スヘキ林木、矮林、中林ノ下木及竹林ニ在リテハ適宜ノ方法

第三十六條 一標準地ノ面積ハ一段歩以上トス但シ竹林ニ在リテハ一畝歩以上トス

第三十七條 標準地ノ材積ハ左ノ方法ニ基キ第三號様式ニ依リ調査スヘシ

- 一 立木ノ直徑ハ胸高(地上四尺)ニ於テ測定スヘシ但シ四捨五入ヲ以テ寸位ニ止ムヘシ
- 二 標準地ノ總材積ハ全標準木ノ胸高圓面積ヲ以テ標準地全立木ノ胸高圓面積ヲ除シ之ニ全標準木ノ材積ヲ乘スヘシ

薪炭材產出ヲ目的トスル矮林ニ在リテハ標準地内一部ノ立木ヲ皆伐シテ層積トナシ材積ヲ測定スルコトヲ得

- 第三十八條 竹林ニ於ケル標準地ノ材積ハ左ノ方法ニ基キ第四號様式ニ依リ調査スヘシ
- 一 各本ニ付胸高周圍ヲ測定スヘシ但シ四捨五入ヲ以テ寸位ニ止ムヘシ
 - 二 一寸毎ニ周圍級ヲ設ケ各級ノ本數ヲ調査スヘシ
- 第三十九條 標準木ノ材積ハ左ノ方法ニ基キ第五號様式ニ依リ調査スヘシ
- 一 標準木ヲ根際ニテ伐採シ之ヲ一間若ハ二間毎ノ距離ニ區分シ各部ノ中央直徑ニ依リテ其材積ヲ算出スヘシ但シ直徑ハ樹皮ヲモ包含スルモノトス
 - 二 梢頭部及伐採點以下ノ幹部ハ別ニ其ノ材積ヲ算出シテ之ヲ前項ノ材積ニ加フヘシ
 - 三 用材タルヘキ樹木ノ枝條ニシテ測定ノ必要アリト認メタルモノ及薪炭材タルヘキ樹木ハ適宜ノ方法ニ依リ其ノ材積ヲ求ムヘシ
- 第四十條 傾斜地ニ於ケル立木ノ胸高ヲ定ムルニハ上方ヨリ測定スヘシ
- 第四十一條 樹種ノ混淆セルモノニ在リテハ各樹種ニ付材積ヲ調査スヘシ但シ施業上其ノ必要ナキトキハ各樹種ノ材積ヲ合算スルコトヲ得
- 第四十二條 中林ニ在リテハ上木ト下木トニ付前更喬林ノ更新期間ニ屬スル林分ニ在リテハ老木ト幼木トニ付各別ニ其ノ材積ヲ調査スヘシ
- 第四十三條 材積ノ單位ハ尺ノ用ヒ竹林ニ在リテハ束ヲ用フ
- 單位未滿ノ少數ハ四捨五入スヘシ
 - 竹林ノ束數ハ左ノ標準ニ依ルヘシ
- 胸高周圍二寸 一束ノ本數七十本
 - 胸高周圍三寸 一束ノ本數三十本
 - 胸高周圍四寸 一束ノ本數十二本

- 胸高周圍五寸 一束ノ本數八本
 - 胸高周圍六寸 一束ノ本數六本
 - 胸高周圍七寸 一束ノ本數四本
 - 胸高周圍八寸 一束ノ本數二本
 - 胸高周圍九寸 一束ノ本數一本五分
 - 胸高周圍一尺 一束ノ本數一本
 - 胸高周圍一尺一寸 一束ノ本數八分
 - 胸高周圍一尺二寸 一束ノ本數七分
 - 胸高周圍一尺三寸 一束ノ本數五分
- 第四十四條 平均生長量ハ現在一町歩ノ材積ヲ林齡ニテ除シ小數二位マテ示スヘシ
- 竹林ノ平均生長量ハ一畝歩ニ對スル毎年度新竹ノ發生束數トス但シ四捨五入ヲ以テ束位ニ止ムヘシ
- 第四十五條 作業級ノ法正蓄積ヲ算定シ得ル場合ニ於テハ之ヲ其ノ現在材積ト比較シテ過不足ヲ檢スヘシ
- 第四十六條 林位ヲ定ムル場合ニ於テハ第二十三條ノ規定ヲ適用ス
- 第四十七條 林況調査ヲ終リタルトキハ其ノ成績ニ依リ林相圖ヲ調製スヘシ
- 第三節 將來施業見込ノ調査
- 第四十八條 將來施業ノ見込ニ付テハ地況及林況調査ニ基キ小班毎ニ左ニ掲クル事項ノ概要ヲ調査スヘシ
- 一 斫伐ニ關スルコト

- 二 手入保護ニ關スルコト
 - 三 播植ニ關スルコト
 - 四 其ノ他施業上必要ナルコト
- 本條調査ノ結果ニ基キ一事業區ニ對スル將來施業ノ方針ヲ定ムヘシ

第四節 參考事項ノ調査

第四十九條 參考事項ハ左ニ掲クル事項ニ付必要ナリト認ムルモノヲ調査スヘシ

- 一 森林行政ニ關スルコト
- 二 森林保護ニ關スルコト
- 三 森林經濟ニ關スルコト
- 四 森林施業ニ關スルコト
- 五 既往ノ收支ニ關スルコト
- 六 施業制限ニ關スルコト
- 七 其ノ他參考上必要ナルコト

第四章 收穫豫定

第五十條 收穫豫定ノ事項左ノ如シ

- 一 作業級及伐採列區ノ設置
- 二 輪伐齡、回歸年、更新期及整理期ノ確定
- 三 施業期編入
- 四 伐採量ノ算定
- 五 伐採順序ノ確定

六 施業基案ノ調製

七 初期斫伐案ノ調製

第一節 作業級及伐採區ノ設置

第五十一條 一事業區中同一ノ作業種及同一ノ輪伐齡ニ依リテ施業シ獨立ノ伐採順序ヲ設クルコトヲ得ヘキ森林ヲ集合シテ作業級ヲ設クヘシ但シ施業制限地ニ在リテハ其ノ種類ヲ異ニスル毎ニ作業級ヲ設クヘシ

第五十二條 一作業級ノ面積ハ連年作業ヲ施シ得ヘキ大サ以上タルコトヲ要ス但シ一事業區中獨立ノ作業級ヲ設置スルニ足ラサル小面積ノモノト雖別箇ノ作業種ヲ設クヘキ特別ノ事由アルトキハ隔年作業ヲ營ムコトヲ得

第五十三條 作業級ノ順序ハ左ニ掲クル作業種ノ順序ニ依リ之ヲ定メ同一作業種中ニ數箇ノ作業級アル場合ニ於テハ輪伐齡ノ長キモノヨリ順次記號(イロハ)ヲ附スヘシ

- 第一 皆伐喬林作業
- 第二 前更喬林作業
- 第三 擇伐喬林作業
- 第四 矮林作業
- 第五 中林作業
- 第六 竹林作業

凡テ隔年作業ニ依ルモノハ各作業種中ノ最尾ニ置クヘシ
前項ノ順序ハ普通施業地ト施業制限地トニ區別シ施業制限地ニ在リテハ更ニ其ノ種類毎ニ區別スヘシ

第五十四條 一 作業級中ニ於テ左ニ掲クル事項ヲ目的トシ若干ノ伐採列區ヲ設クヘシ

一 齡級配置ヲ整理シ將來ノ伐採順序ヲ規正スルコト

二 伐採ノ緩急ヲ計ルコト

三 一箇所ニ於ケル伐採面積ノ過大ヲ避クルコト

四 木材需要供給ノ關係ヲ適合セシムルコト

五 風害、蟲害及火災ヲ豫防スルコト

第五十五條 伐採列區ノ番號ハ一事業區ヲ通シ伐採方向ニ從ヒ羅馬數字ヲ用ヒテ之ヲ附スヘシ

第二節 輪伐齡、回歸年、更新期及整理期ノ確定

第五十六條 輪伐齡ハ利用ヲ保續シ國ノ需要ニ適スル材種ヲ多量ニ生産シ且最多ノ純益ヲ得ルノ目的ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第五十七條 喬林ノ輪伐齡ハ十(又ハ五)ノ倍數トシ矮林及中林下木ノ輪伐齡ハ五ノ倍數トスヘシ

第五十八條 中林上木ノ輪伐改メハ下木輪伐齡ノ倍數トスヘシ

第五十九條 擇伐喬林ノ回歸年ハ其ノ輪伐齡ノ整分トスヘシ

第六十條 前更喬林ノ更新期ハ二十年以內トスヘシ

第六十一條 林相ノ改良ヲ要スル森林ニ在リテハ特ニ整理期ヲ定ムヘシ

前項ノ整理期ヲ定ムル場合ニ在リテハ其ノ整理後收穫ノ中斷セサルコトヲカムヘシ

第三節 施業期編入

第六十二條 一施業期ハ十年トス

第六十三條 施業期ノ番號ハ第一期ヨリ順次ニ羅馬數字ヲ以テ之ヲ附スヘシ

第六十四條 左ノ各號ニ該當スルモノハ可成第一施業期ニ編入スヘシ

一 既ニ輪伐齡ニ達シタルモノ及今後第一施業期間ニ輪伐齡ニ達スヘキモノ

二 林相及齡級配置ヲ整理スル爲メ伐採スヘキモノ

三 區劃線及防火線設置、防風豫備其ノ他施業上已ムコトヲ得ス伐採スヘキモノ

第六十五條 伐採順序ヲ整理スル爲メ第一施業期間内ニ伐採シ直ニ植栽シタルトキハ之ヲ第一輪伐期間ニ編入スヘシ

第四節 伐採量ノ算定

第六十六條 伐採量ヲ定ムルニハ主トシテ面積ヲ標準トシ各施業期ニ略均一ノ伐採面積ヲ分配スヘシ

第六十七條 一施業期ニ屬スル面積ノ標準ハ普通年伐面積(總面積ヲ輪伐齡若ハ整理期ニテ除シタル商)ノ十倍トシ輪伐齡若ハ整理期ノ終ニ於テ五年ノ端數ヲ生スル場合ニ限り年伐面積ノ五倍トス

第六十八條 一施業期ニ屬スル面積ノ標準ハ普通年伐面積(總面積ヲ輪伐齡若ハ整理期ニテ除シタル商)ノ十倍トシ輪伐齡若ハ整理期ノ終ニ於テ五年ノ端數ヲ生スル場合ニ限り年伐面積ノ五倍トス

擇伐喬林ニ在リテハ立木地合計面積ヲ回歸年ニテ除シタル商ノ十倍トス

第六十八條 各施業期ニ編入セル合計面積カ前條ノ標準面積ニ比シ著シキ過不足アルトキハ適當ノ

林分ヲ後施業期ニ繰下ケ又ハ前施業期ニ繰上ケ標準面積ニ近カラシムヘシ但シ老級木多キ場合ニ

於テハ標準面積ノ百分ノ二十ヨリ多カラサル面積ヲ増加シ幼級木多キ場合ニ於テハ同一部合ノ面積ヲ減少スルコトヲ得

第六十九條 第一施業期ノ伐採量ハ主伐ト間伐トニ區別スヘシ

第七十條 第一施業期ニ於テハ現在林齡ニ五年ヲ加ヘタルモノ、第二施業期ニ於テハ十五年(輪

伐齡十五年ノ森林ニ在リテハ十二年半)ヲ加ヘタルモノヲ以テ平均伐期齡トシ主伐材積ヲ算定ス

ヘシ但シ擇伐喬林及中林ノ上木ニ在テリハ現在材積ヲ以テ主伐材積ト見做スコトヲ得

第七十一條 更新ヲ目的スル場合ニ於ケル伐採ヨリ生スル收穫並防風豫備ノ爲メニ行フ離伐、區劃線、防火線、林道、潰地ニ組替及開墾等ノ爲メニ行フ伐採ヨリ生スル收穫ヲ主伐收穫トス

第七十二條 手入及保護等ヲ目的トシ更新ヲ要セサル場合ニ於テ爲ス伐採ヨリ生スル收穫ヲ間伐收穫トス

第七十三條 間伐ニ在リテハ其ノ伐採區域ノ全面積及材積ヲ算出スヘシ

第七十四條 第一施業期ニ於テ伐採スヘキ散生地ニアリテハ其ノ面積ノ加入ヲ要セス

第五節 伐採順序ノ確定

第七十五條 各伐採列區ニ於テハ矮林及中林ハ十年以内喬林ハ二十年以内ノ隔年作業ヲ行フモノトス

第七十六條 各伐採列區内ニ於ケル伐採順序ハ第五十四條ノ規定ニ依ルノ外造林及運材ノ便ヲ計リ可成暴風方向ニ反對シテ之ヲ定ムヘシ

第七十七條 豫定區域ノ立木伐採ノ爲メ其ノ隣接區域ノ立木ニ風害ヲ及ホスノ虞アリト思料スルトキハ豫メ適宜ノ廣サニ離伐ヲ行フモノトス

第六節 施業基案ノ調製

第七十八條 施業基案ハ一事業區毎ニ第五十一條乃至第七十七條ノ調査ニ基キ第六號様式ヲ用ヒ之ヲ調製スヘシ但シ竹林ニ在リテハ之ヲ調製スルコトヲ要セス

第七十九條 一事業區ニシテ未立木地又ハ散生地多ク全面積ヲ通シ主伐ヲ行フ能ハサルモノニ在リテハ施業基案ヲ調製スルコトヲ要セス

第七節 初期斫伐案ノ調製

第八十條 初期斫伐案ハ施業基案ニ基キ施業上ノ緩急ト木材市場ノ情況トヲ計リ第一施業期間ニ

於ケル連年伐採箇所、面積及材積ヲ定メ第七號様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ但シ竹林ニ在リテハ之ヲ調製スルコトヲ要セス

第八十一條 年伐面積ハ可成施業基案第一施業期處定ノ十分一額ニ等シカラシムヘシ但シ施業又ハ市場ノ情況其ノ他ノ都合ニヨリ百分ノ二十以内ニ於テ之ヲ増減スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第一施業期ノ滿了スルマテニ漸次其ノ増減ヲ平均スヘシ

第八十二條 竹林ニ於ケル毎年ノ伐採量ハ法正蓄積ヲ推算シ之ヲ輪伐齡ニテ除シタル商ヲ標準トシ現在林相及新竹發生ノ模様ヲ參酌シテ定メ之ヲ施業案説明書ニ記載シテ事業豫定案編成ノ資ニ供スヘシ

第五章 造林豫定

第八十三條 初期造林案ハ初期斫伐案ニ基キ森林調査ノ成績ヲ參酌シ一事業區毎ニ第一施業期ニ於ケル毎年ノ造林箇所ヲ定メ第八號様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ但シ施業基案ヲ調製セサル散生地又ハ未立木地ニ在リテハ森林調査ノ成績ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第八十四條 森林經營上必要ナルトキハ防火線、林道、砂防植栽又ハ排水工事ニ付大体ノ設計ヲ爲スヘシ

第六章 施業案説明書ノ調製

第八十五條 施業案説明書ハ一事業區毎ニ左ノ各項ニ付記述シテ之ヲ調製スヘシ

第一 總論

第二 地況、林況及參考事項ノ概要

第三 森林區劃

一 事業區ノ總面積、林班數、林班ノ各面積並區劃設計ノ理由

- 二 林班ト伐採列區トノ關係
 - 三 小班ノ數及其ノ平均面積
 - 四 森林調査ノ方法
 - 五 將來ノ施業方針
 - 六 收穫豫定ノ方法及收穫量
 - 七 造林豫定ノ方法、造林面積及造林費概定額
 - 八 將來ノ收支見込
 - 九 施業案實行ニ關スル意見
 - 十 施業案編成ノ功程及經費
 - 十一 其ノ他必要ナル事項
- 施業案説明書ニハ森林ノ位置ヲ明ニシ且行政區劃及地形ヲ略知シ得ヘキ地圖ヲ添付スヘシ
- 第七章 施業案ノ檢訂
- 第八十六條 施業案ノ檢訂ハ十年毎ニ之ヲ行フモノトス但シ特別ノ事由アルトキハ臨時之ヲ行フコトヲ得
- 第八十七條 檢訂期ニ際シテハ斫伐照査簿及造林照査簿ニヨリ施業案實行ノ程度及其ノ適否ヲ檢シ異動記載簿又施業沿革史ヲ參酌シテ森林面積簿、森林調査簿、基本圖及林相圖ヲ訂正スヘシ前項ノ結果ニ依リ施業基案、初期斫伐案及初期造林案ヲ新ニ調製シ施業案説明書ヲ訂正追補スヘシ
- 第八十八條 斫伐照査簿ハ第九號様式ニ依リ之ヲ調製シ初期斫伐案實行ノ結果ヲ記入スヘシ初期斫伐案ノ實行ニ關シテハ第八十一條ノ範圍内ニ於テ處定面積ヲ増減スルコトヲ得、既定箇所

- ニ不實行ヲ生シタル場合ニ於テハ可成之ヲ次年度ニ繰越スヘシ
 - 第八十九條 造林照査簿ハ第十號様式ニ依リ之ヲ調製シ初期造林案實行ノ結果ヲ記入スヘシ
 - 第九十條 異動記載簿ハ第十一號様式ニ依リ之ヲ調製シ面積及林況ノ異動ヲ記入スヘシ
 - 第九十一條 施業沿革史ハ一事業區毎ニ之ヲ備ヘ口取ヲ設ケ施業案實行ノ結果並施業案説明書記載ノ事項ニ關シ訂正又ハ追補ヲ要スル事項其ノ他施業案ノ檢訂上必要ナル事項ヲ詳記シ且其ノ意見ヲ附スヘシ
- 第八章 雜則
- 第九十二條 事業區内ニ編入スルヲ便利ナリト認ムル保安林ノ施業案ハ明治三十三年十月本省訓令第三十七號保安林取扱心得、部分林ノ施業案ハ當該部分林設定契約ノ條件ニ基キ本規程ニ依リ之ヲ編成スヘシ
- 第九十三條 初期斫伐案並初期造林案ニ關係ノ林分ハ適宜ノ方法ニヨリテ特ニ其ノ境界ヲ判明ナラシムヘシ
- 第九十四條 圖面ハ別ニ定ムル所ノ森林圖式ニ依リ之ヲ調製スヘシ
(各號様式略ス)
- 未定地脫落地國有林野へ編入ノ件 明治三十五年一月二十九日林第二二五號ヲ以テ大臣ヨリ府縣知事及大林區署長へ通達
- 地租改正既濟地方ニ於ケル未定地脫落地ノ内森林原野ニ係ルモノハ國有土地森林原野下戻法ニ據リ該申請期間内ニ申請ヲ爲サレハ當然國ノ所有ニ歸着セルモノト推定セラルルニ由リ町村大字ノ區域ニ異動ヲ生セサル分ハ從來ノ如ク地方應ヨリ引繼ノ手續ヲ須タス所轄大林區署ニ於テ直チニ地方

廳へ協議シ國有林野ニ編入スル方相互ノ利便ナルヲ以テ其邊内務省へ商議及ヒタルニ同省ニ於テモ更ニ異存ナシトノ事ニ付自今ハ右ニ據リ取扱フヘシ此段通達ス

○林區署官制 明治三十年六月 勅令第一八六號

第一條 大林區署ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一 國有林野ノ保管、利用、處分、測量及境界査定ニ關スル事項

二 造林及伐木事業ニ關スル事項

三 施業案編製並土地及林野買上ニ關スル事項

四 部分林ニ關スル事項

五 國有林野及立木竹ノ下戻ニ關スル事項

第二條 大林區署ニ左ノ職員ヲ置ク

林 務 官

林 務 官 補

營 林 主 事

書 記

營 林 主 事 補

森 林 監 守

第三條 各大林區署長ハ一人林務官ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮ヲ承ケ署中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條 林務官ハ委任トシ各大林區署ヲ通シテ專任三十二人ヲ以テ定員トス大林區署ニ分屬シ署務ニ從事ス

第五條 林務官補ハ判任トシ各大林區署ヲ通シテ專任七十八人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ署務ニ從事ス

第六條 營林主事ハ判任トシ各大林區署ヲ通シテ專任三百二十五人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ營林事務及森林調査ニ從事ス

第七條 書記ハ判任トシ各大林區署ヲ通シテ專任百三十五人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條 營林主事補ハ判任トシ各大林區署ヲ通シテ七百八人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ森林ノ保護ニ從事シ營林事務及森林調査ヲ分擔ス

第九條 森林監守ハ判任トシ各大林區署ヲ通シテ六百五十八人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ森林ノ保護ニ從事ス

第十條 大林區署ノ事務ヲ分掌スル爲メ管轄内須要ノ地ニ小林區署ヲ置ク各小林區署長ハ一人營林主事ヲ以テ之ニ充テ大林區署長ノ指揮ヲ承ケ署務ヲ掌理ス

第十一條 削除

第十二條 大林區署ノ名稱、位置及其ノ管轄區域ハ別表ニ依ル

第十三條 小林區署ノ名稱、位置及其ノ管轄區域ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル

附 則

本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

(別表)

林區署官制

三十三

三十三

三十三

三十三

三十三

三十三

三十三

三十三

三十三

三十三

三十三

三十三

三十三

三十三

三十三

三十三

三十三

大林區署名稱位置管轄區域表

名	稱	位	置	管	轄	區	域
青森	大林區署	陸奥國	青森	青森縣			
秋田	大林區署	羽後國	秋田	秋田縣			
巖手	大林區署	陸中國	盛岡	巖手縣			
宮城	大林區署	陸前國	仙臺	宮城縣	山形縣		
福島	大林區署	岩代國	福島	福島縣			
東京	大林區署	武藏國	東京	東京府	栃木縣	茨城縣	群馬縣
長野	大林區署	信濃國	長野	新潟縣	長野縣		
石川	大林區署	加賀國	金澤	石川縣	富山縣	福井縣	岐阜縣
大阪	大林區署	攝津國	大阪	大阪府	京都府	滋賀縣	三重縣
岡山	大林區署	備前國	岡山	岡山縣	兵庫縣	鳥取縣	
廣島	大林區署	安藝國	廣島	廣島縣	島根縣	山口縣	
愛媛	大林區署	伊豫國	松山	愛媛縣	香川縣		

第三十三號勅令
第四〇七號

以テ愛媛大林區署區域中徳島縣ヲ高知大林區署ノ管轄トスルコトニ改正

高知	大林區署	土佐國	高知	高知縣	徳島縣		
福岡	大林區署	筑前國	福岡	福岡縣	佐賀縣	長崎縣	
熊本	大林區署	肥後國	熊本	熊本縣	大分縣		
鹿兒島	大林區署	薩摩國	鹿兒島	鹿兒島縣	宮崎縣		

○林區署事務章程 明治三十三年十月二日 勅令第三六號

第一章 大林區署

- 第一條 林大區署長ハ官制ノ定ムル所ニ從ヒ法律命令ノ執行及主管事務ノ整理ニ付其ノ責ニ任ス
- 第二條 大林區署ニ林務課、林業課、庶務課及主計課ヲ置ク大林區署長ニ於テ特別ノ分課ヲ爲サントスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第三條 林務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 國有林野及產物ノ保管、委託、貸下並處分ニ關スル事項
 - 二 民有ノ土地、森林、原野及產物ノ買上並交換ニ關スル事項
 - 三 部分林ニ關スル事項
 - 四 國有林野ノ編入及組換ニ關スル事項
 - 五 國有林野ノ存廢區分ニ關スル事項
 - 六 不要存置國有林野ノ處分調査ニ關スル事項

- 七 小林區署及保護區ノ存廢並其ノ位置區域ニ關スル事項
 - 八 林產物品ニ關スル事項
 - 九 國有林野ノ被害ニ關スル事項
 - 十 國有林野ノ臺帳ニ關スル事項
 - 十一 國有林野及立木竹ノ下戻ニ關スル事項
- 第四條 林業課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 毎年度事業豫定案ニ關スル事項
 - 二 國有林野ノ測量及境界査定ニ關スル事項
 - 三 國有林野ノ施業案ニ關スル事項
 - 四 保安林調査ニ關スル事項
 - 五 造林及伐木事業ニ關スル事項
 - 六 林業ニ關スル講習事項
 - 七 林業ノ試験ニ關スル事項
- 第五條 庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 署長印及署印ノ保管ニ關スル事項
 - 二 機密ニ關スル事項
 - 三 職員ニ關スル事項
 - 四 公文書類ノ接受、發送、淨寫、編纂及保管ニ關スル事項
 - 五 統計ニ關スル事項
 - 六 圖書ノ刊行及保管ニ關スル事項

第三十五年訓令
第四號ヲ以テ
第七條中改正

- 七 當宿直ニ關スル事項
 - 八 各課文書ノ點查ニ關スル事項
 - 九 他課ノ主管ニ屬セサル事項
- 第六條 主計課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 大林區署所屬歲入歲出ノ豫算、決算、出納其ノ他會計ニ關スル事項
 - 二 用地、建物及物品ニ關スル事項
 - 三 廳舎及給仕小使ノ取締ニ關スル事項
- 第七條 大林區署長ハ職員ニ關スル左記各號ニ就テハ之ヲ專行スルコトヲ得
- 一 管内ヲ旅行シ又ハ部下ノ官吏ニ管内ノ旅行ヲ命スルコト
 - 二 部下ノ官吏ニ歸省、看護、墓參、轉地療養願ヲ許可シ及除服出仕ヲ命スルコト
 - 三 月俸十五圓又ハ日給五十錢ヲ超エサル雇員ノ採用解職ノコト
 - 四 課長及課員ノ分擔命免ノコト
 - 五 小林區署長ヲ命免シ及小林區署員ノ在勤ヲ命免スルコト
- 第八條 大林區署長ハ特別ノ規程アルモノ及左記各號ノ外其ノ主管ニ係ル事項ニ就テハ之ヲ專決スルコトヲ得
- 一 毎年度所伐事業豫定案確定並變更ノコト
但シ類別各項内金額ノ流用及造林費又ハ官行事業費ノ剩餘金ヲ以テ各其ノ事業ヲ施行スルモノハ此ノ限ニアラス
 - 二 國有林野ノ存廢區分ノコト
 - 三 面積一町步ヲ超エ若ハ見積價格金三百圓ヲ超ユル不要存置國有林野ノ隨意契約ニ依ル賣拂ノ

- 四 既定事業豫定案以外ノ主產物處分ノコト
但シ公用又ハ公益事業ニ係ル見積價格金五百圓ヲ超エサルモノハ此ノ限ニアラス
- 五 本條第三號以外ニ係ル國有林野ノ賣拂、交換、讓與又ハ他ノ官有地ニ組換ノコト
但シ道路、河川、堤塘、溝渠、溜池ノ敷地ニ組換又ハ公共ノ用ニ供スル墓地、火葬場、汚穢物埋却場及斃牛馬捨場ノ新設又ハ取擴ノ爲國有原野面積一町步以下ノ賣拂ハ此ノ限ニアラス
- 六 土地、森林、原野又ハ立木竹質上ノコト
- 七 社寺保管林又ハ市町村委託林ノ設定及解除ノコト
- 八 賣拂ノ豫約アル國有林野ノ繼年期及事業方法變更ノコト
- 九 部分林ノ設定及解除ノコト
- 十 國有林野無料貸渡ノコト
但シ繼年期及官廳又ハ公共用ニ供スル場合ニシテ面積五町步ヲ超エサルモノハ此ノ限ニアラス
- 十一 國有林野ノ面積十町步ヲ超ユルモノ、年期貸渡若ハ十箇年ヲ超ユル年期貸渡ノコト
但シ繼年期ノ場合及面積十町步ヲ超エサル公用又ハ公益事業用若ハ植樹、家屋敷地ハ此ノ限ニアラス
- 十二 生產物年期賣拂ノコト
但シ立竹ニシテ年期五箇年ヲ超エサルトキハ此ノ限ニアラス
- 十三 小林區署及保護區ノ廢置變更並小林區署ノ位置變更ノコト

- 十四 但シ同一市町村内ニ於ケル位置變更ハ此ノ限ニアラス
決定セシ國有林野ノ境界改定ノコト
 - 十五 訴訟提起ノコト
但シ公訴附帶ノ私訴又ハ公訴ノ判決確定ニ起因スル民事及未納金ニ關スル訴訟其ノ他緊急ノ場合ニ於ケル訴訟ハ此ノ限ニアラス
 - 十六 一 廉金額五百圓以上ノ支出ヲ要スル隨意契約締結ノコト
 - 十七 謝金二百圓ヲ超ユル辯護士雇入ノコト
 - 十八 一箇金額百圓ヲ超ユル不用物件賣拂ノコト
 - 十九 金額五十圓ヲ超ユル手當又ハ謝金ヲ要スル事務囑託ノコト
 - 二十 賞與、療治料及死傷手當給與ノコト
 - 二十一 經伺ノ上締結シタル契約ノ變更及解除ノコト
但シ契約ノ目的及金額ニ異動ナキ變更ハ此ノ限ニアラス
- 第九條 大林區署長ハ左記ノ場合ニ於テ前條第四號ノ例ニ依ラス之ヲ處分スルコトヲ得
但シ第二號以下產物ノ特賣又ハ讓與ニシテ金額五百圓ヲ超ユルモノハ此ノ限ニアラス
- 一 見積價格金百圓ヲ超エサル主產物
 - 二 竹及部分木
 - 三 燒木、枯木、損木、轉倒木、危險木、障礙木、盜伐木、誤伐木、根株、末木、枝條、林產物品及棄損木
 - 四 造林事業施行上斫伐ヲ要スル立木
 - 五 試驗又ハ林況調査ノ爲斫伐ヲ要スル立木

- 六 檢證ノ爲斫伐ヲ要スル立木
- 七 境界調査又ハ測量ノ爲斫伐ヲ要スル立木
- 八 林野ヲ他ノ官有地ニ組換ニ付斫伐ヲ要スル立木
- 九 林業付帯ノ爲斫伐ヲ要スル立木
- 十 水火災ノ防禦又ハ軍事用ノ爲斫伐ヲ要スル立木
- 十一 受託者又ハ保管者ニ委託又ハ保管ニ係ル林野ノ主産物ヲ採收セシムルコト
- 第十條 大林區署長ハ第七條第四號第五號ノ課長及小林區署長ノ命免第八條第十三號但書ノ位置變更、處務ニ關スル規程ヲ制定シ若ハ改正ヲナシタルトキ及重大ナル林野ノ被害事項ハ其ノ都度報告スヘシ

第二章 小林區署

- 第十一條 小林區署長ハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 林野ノ斫伐造林及利用ニ關スル事項
 - 二 林野ノ保護ニ關スル事項
 - 三 林野ノ調査ニ關スル事項
- 第十二條 小林區署長ハ臨時緊急ノ場合ニ於テ大林區署長ニ報告ノ上管外ニ出張シ又ハ署員ヲ出張セシムルコトヲ得
- 第十三條 但大林區署管外ニ出張シ又ハ出張セシメタルトキハ大林區署長ノ追認ヲ受クヘシ
- 第十四條 小林區署長ハ署員ノ勤惰及其身上ニ關シ大林區署長ニ報告スヘシ
- 第十五條 小林區署長ハ大林區署長ノ指揮ヲ受ケ事業豫定案ヲ編製シ及之ヲ執行スヘシ
- 第十六條 小林區署長豫定事業内ノ産物ヲ公賣セントスルトキハ之ヲ廣告スヘシ

但シ季節アル副産物ニ係ルモノ、外公賣廣告十日其旨ヲ大林區署ニ報告スヘシ
 第十六條 左ノ各號ニ該當スルモノハ小林區署長限リ處分スルコトヲ得
 但シ處分後五日以内ニ大林區署ニ報告スヘシ

- 一 水火災ノ防禦又ハ軍事用ノ爲木竹斫伐ノコト
 - 二 境界調査、森林測量、陸地測量部測量及道路鐵道新設測量ノ支障並其敷地上ノ木竹斫伐ノコト
 - 三 電線電柱ノ支障木斫伐ノコト
 - 四 檢證ノ爲木竹斫伐ノコト
 - 五 障害木竹危險木竹斫伐ノコト
 - 六 物件搬出延期ノコト
 - 七 林産物買受人又ハ其雇人ニシテ契約ニ違背シタル場合ニ於テ入林若ハ物件搬出ヲ停止スルコト
- 但シ經伺ノ暇ナキトキニ限ル
- 八 公賣物件ノ轉賣讓與ヲ認可スルコト
 - 九 拂受人借地人名義換認可ノコト
 - 十 一時貸地ノコト
 - 十一 豫算内林野地五箇年以内繼年期貸渡ノコト
 - 十二 部分林手入ノコト
 - 十三 豫算内ノ副産物特賣ノコト
 - 十四 金額十圓ヲ超エサル豫算外副産物特賣ノコト

第十七條 特別ノ規定アル場合ヲ除キ凡テ願書届等ハ小林區署ニ受理スヘシ
 第十八條 書式ノ例規ニ違背シタルモノ及管轄違ニ係ルモノハ小林區署長限リ却下スルコトヲ得
 第三章 附則
 第十九條 本令ハ明治三十三年十月十日ヨリ之ヲ施行ス
 第二十條 林區署長職務章程ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

鑛山

○鑛業條例第七十四條ニ依ル鑛業稅賦課ノ標準價格ノ
 件 明治三十四年十二月二十三日
 告示第一五九號

明治二十三年(九月)法律第八十七號鑛業條例第七十四條ニ據リ鑛業稅賦課ノ標準トスル鑛業製產物
 ノ價格ヲ左ノ通改定ス

- 但左ニ掲ケサル鑛業製產物ハ總テ販賣代價ニ據ル
- 一金 一匁ニ付 五・〇〇 一安質母尼 同 一七・三〇
 - 一銀 同 〇・一四 一硫化安質母尼 同 九・七七
 - 一銅 百斤ニ付 三六・七九 一石炭及石油
- 石炭

産地	塊	石炭粉	切込	萬斤	無煙炭	扇付	石
福岡縣遠賀郡	一七・二五	二一・〇八	一四・七七				一七・三〇
同 鞍手郡	二二・八二	一四・九〇	一九・〇三				一七・三〇
同 嘉穂郡	二二・〇〇	一五・二四	一七・五九				一六・六二
同 田川郡	二七・二五	一四・六八	二〇・七五				一五・四九

鑛業條例第七十四條ニ依ル鑛業稅賦課ノ標準價格ノ件

同 粕屋郡	三・二五	一・二六	一六・二八		
同 三池郡三池	三〇・三三	一四・九三	三三・〇〇		
佐賀縣東松浦郡	一九・〇九	五・九二	二一・八二		
同 杵島郡	一八・三九	五・九三			
同 小城郡	一七・三九	五・五三	八・七八		
長崎縣高島郡 西彼杵郡	三六・一五	二九・七〇	三三・二七		
同 松島	一五・〇〇	五・〇〇	一〇・〇〇		
同 北松浦郡	一三・三三	六・七四	七・八九		
山口縣厚狹郡	二二・六	五・一七	八・六五		
和歌山縣東牟婁郡 三重縣南牟婁郡				一八・五六	
茨城縣多賀郡	二六・三五		三三・二七		
福島縣石城郡 雙葉郡	三三・五〇	一四・八九			
北海道空知郡 夕張郡	三六・四四	二二・六四	三六・九二		
同 釧路國	二〇・二四				

石油

新潟縣中蒲原郡	〇・九二	同 刈羽郡	二・二三	同 中頸城郡	四・七三
同 三島郡尼瀨町	六・三七	同 古志郡	二・六		

○鑛山監督署官制 明治二十九年八月十二日 勅令第二八二號

第一條 鑛山監督署ハ農商大務臣ノ管轄ニ屬シ鑛山監督ニ關スル事務ヲ掌ル
 第二條 鑛山監督署ニ左ノ職員ヲ置ク

鑛山監督官
 鑛山監督官補

書記

第三十四年勅令
 第四〇號ヲ以テ
 第四條中人員改正

第三十五年勅令
 第一〇四號ヲ以テ
 第五條第六條中改正

第三條 鑛山監督署長ハ每署一人監督官ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ署中全般ノ事務ヲ掌理ス
 第四條 鑛山監督官ハ奏任トシ各鑛山監督署ヲ通シテ專任廿四人ヲ以テ定員トス鑛山監督署ニ分屬シテ事務ニ從事ス
 第五條 鑛山監督官補ハ判任トシ各鑛山監督署ヲ通シテ專任百十人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事ス
 第六條 書記ハ判任トシ各鑛山監督署ヲ通シテ專任十六人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
 第七條 鑛山監督署ノ名稱、位置及其管轄區域ハ別表ニ依ル

(別表)

鑛山監督署名稱位置區域管轄區域表

名	稱	位	置	管	轄	區	域
東京鑛山監督署	武藏國東京	(麴町區道三町三番地)		東京府	神奈川縣	埼玉縣	
				富山縣	群馬縣	新潟縣	
				岐阜縣	茨城縣	千葉縣	
				愛知縣	靜岡縣	栃木縣	
				長野縣	山梨縣		
仙臺鑛山監督署	陸前國仙臺	(仙臺市柳町通三十九番ノ二)		宮城縣	巖手縣	青森縣	
				山形縣	秋田縣	福島縣	
大阪鑛山監督署	攝津國大阪	(大阪市東區上本町一丁目二番地)		京都府	大阪府	廣島縣	
				兵庫縣	奈良縣	三重縣	
				石川縣	滋賀縣	和歌山縣	
				福井縣	高知縣	德島縣	
				鳥取縣	香川縣	岡山縣	
				愛媛縣	島根縣		
福岡鑛山監督署	筑前國福岡	(福岡市土手ノ町六番地)		長崎縣	大分縣	山口縣	
				福岡縣	熊本縣	佐賀縣	
				鹿兒島縣	宮崎縣	沖繩縣	

第三十四年勅令
第四〇號ヲ以テ
改正

第三十五年訓令
第五號ヲ以テ
第三十一號中改正
第三十二號中改正
第三十三號中改正
第三十四號中改正

札幌鑛山監督署	石狩國札幌 (札幌區北三條西七丁目一 番地)	北海道
---------	------------------------------	-----

○鑛山監督署長權限 明治廿五年四月五日 訓令第八號

- 第一條 鑛山監督署長ハ官制ノ定ムル所ニ從ヒ法律命令ノ執行及主管事務ノ管理ニ付凡テ其責ニ任ス
- 第二條 鑛山監督署長ハ管内ヲ巡視シ及部下ノ官吏ニ管内ノ巡廻出張ヲ命スルコトヲ得
- 第三條 鑛山監督署長ハ部下官吏ノ歸省看護參轉地療養願ヲ許可シ及ヒ除服出任ヲ命スルコトヲ得
- 第四條 鑛山監督署長ハ月俸十五圓又ハ日給五十錢以下ノ僱員ノ採用解免ハ之ヲ專行スルコトヲ得
- 第五條 鑛山監督署長事故アルトキハ部下ノ官吏ニ代理ヲ命シ又ハ主管事務ノ幾分ヲ委任シ自己ノ名義ヲ以テ之ヲ處辨セシムルコトヲ得
- 第六條 農商務大臣ニ經伺ヲ要スヘキ事項ハ總テ鑛山局長ヲ經由スヘシ

特許

○特許法 明治三十二年三月一日
法律第三六號

第一條 工業上ノ物品及方法ニ關シ最先ノ發明ヲ爲シタル者若ハ其ノ承繼人ハ此ノ法律ニ依リ特許ヲ受クルコトヲ得

物品ノ發明ニ係ル特許ハ特許ヲ受ケタル者ニ限り其ノ發明ノ物品ヲ製作、使用、販賣若ハ擴布スルノ權利ヲ有セシム

方法ノ發明ニ係ル特許ハ特許ヲ受ケタル者ニ限り之ヲ使用若ハ擴布スルノ權利ヲ有セシム但其ノ特許ノ效力ハ同一方法ニ依リ製作セラレタル物品ニ及フモノトス

第二條 左ニ掲ケル發明ハ特許ヲ受クルコトヲ得ス

一 飲食物、嗜好物

二 醫藥又ハ其ノ調合法

三 秩序又ハ風俗ヲ紊ルノ虞アルモノ

四 特許出願前公ニ知ラレ又ハ公ニ用キラレタルモノ但シ試験ノ爲ニ二年以内公ニ知ラレタルモノハ此ノ限ニアラス

第三條 特許ノ年限ハ十五年トシ原簿登錄ノ日ヨリ起算ス

第四條 特許ハ制限ヲ付シ若ハ付セスシテ讓渡シ、共有ト爲シ又ハ質權ノ目的ト爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ特許局ニ請求シ其ノ登錄ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五條 特許局ノ官吏ハ在職中特許ヲ有スルコトヲ得ス但シ相續ニ因リ之ヲ取得シ又ハ在職前ヨリ之ヲ有スルトキハ此ノ限ニアラス

第六條 特許ニ關シ出願若ハ請求ヲ爲サントスル者又ハ特許證主ニシテ帝國内ニ住所ヲ有セサルトキハ帝國内ニ住所ヲ有スル者ニ就キ代理人ヲ定ムヘシ

前項代理人ハ此ノ法律及之ニ基キテ發スル命令ノ定ムル所ニ依リ特許局ニ對シテ爲スヘキ手續又ハ特許ニ關スル民事訴訟及告訴ニ付本人ヲ代表スルモノトス

第七條 特許局長ハ特許ニ關スル代理人ヲ適當ナラスト認ムルトキハ其ノ改任ヲ命スルコトヲ得

第八條 特許ニ關スル代理ヲ常業トスル者ハ特許局長ニ願出登錄ヲ受クヘシ

代理業者ノ登錄ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 前條ニ依リ登錄ヲ受ケタル代理業者ニシテ其ノ業務ニ關シ犯罪又ハ不正ノ行爲アリタルトキハ特許局長ハ其ノ代理業ヲ停止又ハ禁止スルコトヲ得

第十條 特許ニ關シ出願又ハ請求ヲ爲シタル者此ノ法律若ハ之ニ基キテ發スル命令ノ定ムル期間内又ハ此ノ法律若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ特許局長若ハ審判長ノ定ムル期間内ニ成規又ハ指定ノ手續ヲ爲サ、ルトキハ其ノ出願又ハ請求ハ無効トス

第十一條 特許ヲ受ケントスル者ハ一發明毎ニ發明ノ明細書及必要ノ圖面ヲ添ヘ特許局長ニ出願スヘシ

特許局長ハ出願者ニ對シ必要ト認ムルトキハ雛形若ハ見本ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第十二條 特許ヲ出願シタルトキハ特許局審査官其ノ發明ヲ審査ス

第十三條 審査官ニ於テ特許ヲ與フヘキモノト査定シタルトキハ特許局長ハ特許原簿ニ登錄シ特許證ヲ下付ス

特許證ニハ特許局長之ニ署名シ明細書及必要ノ圖面ヲ添付ス
第十四條 工業所有權保護同盟條約國ニ於テ發明ノ特許ヲ出願シタル者條約ニ定メタル期間内ニ同
一發明ニ付特許ヲ出願シタルトキハ其ノ出願ハ最初出願ノ日ニ於テ之ヲ爲シタルト同一ノ效力ヲ
有ス

第十五條 政府若ハ府縣ノ開設シタル博覽會若ハ共進會ニ出品スル者ニシテ他日其ノ物品ニ付發明
ノ特許ヲ出願セントスルトキハ出品前ニ於テ其ノ旨ヲ特許局長ニ届出ヘシ
前項ノ場合ニ於テハ博覽會若ハ共進會ニ於テ其ノ物品ヲ受領セシ日ヨリ六箇月以内ニ特許ヲ出願
シタル者ニ限リ最初届出ノ日ニ於テ其ノ出願ヲ爲シタルト同一ノ效力ヲ有ス
工業所有權保護同盟條約國ニ於テ萬國博覽會ノ開設アルニ當リ其ノ國ニ於テ出品ニ對シ與ヘタル
特許出願ノ期間ハ帝國內ニ於テモ有效トス

第十六條 公益ノ爲普及ヲ要スルモノ又ハ軍事上必要ナルモノ若ハ秘密ヲ要スルモノニ係ル發明ニ
シテ特許局長ニ於テ必要ト認メタルトキ又ハ主務官廳ヨリ請求アリタルトキハ特許局長ハ特許ニ
制限ヲ付シ若ハ特許ヲ與ヘス又ハ既ニ與ヘタル特許ヲ制限シ若ハ之ヲ取消スコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ政府ハ相當ノ報酬ヲ特許出願者又ハ特許證主ニ與フヘキモノトス

第十七條 他人ノ特許發明ヲ利用シテ爲シタル發明ニ付特許ヲ出願シタル者特許ノ査定ヲ得タルト
キハ原特許證主ニ協議シ其ノ發明ヲ使用スルノ承諾ヲ受クヘシ
發明者前項ノ承諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ具シ特許局長ニ申告スヘシ特許局長ニ於
テ正當ノ理由アリト認ムルトキハ其ノ利用發明ニ對シ特許ヲ與フルコトヲ得但シ原特許證主ニ對
シ特許局長ノ相當ト認ムル報酬ヲ仕拂フニ非サレハ其ノ特許ヲ實施スルコトヲ得ス

第十八條 前二條ノ報酬額ニ對シ不服アル者ハ裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ第十六條ノ場合ニ於
テハ之カ爲處分ヲ停止セス
第十九條 特許證主ハ自己ノ特許發明ヲ利用シテ爲シタル發明ニ對シ追加特許ヲ受クルコトヲ得
追加特許ハ原特許ニ從ヒ移轉若ハ消滅スルモノトス
第二十條 特許ヲ受ケタル發明ニシテ左ノ場合ニ該當スルモノアルトキハ其ノ特許ヲ無効トス
一 第一條及第二條ニ違反シタルモノ
二 發明ノ實施ニ必要ナル事項ヲ故意ニ明細書ニ記載セザリシモノ
三 發明ノ實施ニ必要ナラザル事項ヲ故意ニ明細書ニ記載セシモノ
第二十一條 審査官ニ於テ特許ヲ與フヘカラスト査定シタルトキハ特許局長ハ其ノ査定書ヲ出願人
ニ送付スヘシ
第二十二條 審査官ニ於テ特許出願ノ發明カ他人ノ特許出願中ノ發明又ハ他人ノ特許發明ト抵觸ス
ト査定シタルトキハ特許局長ハ其ノ査定書ヲ關係人ニ送付スヘシ
第二十三條 前二條ノ査定ニ不服アル者ハ査定書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ特許局ニ不服理由書ヲ
差出シ再審査ヲ請求スルコトヲ得
再審査ヲ請求スル者アルトキハ特許局長ハ前査定ニ干與セサル審査官ヲシテ更ニ之ヲ審査セシム
ヘシ
審査官其ノ不服理由ヲ不當ト査定シタルトキハ特許局長ハ其ノ査定書ヲ不服者ニ送付スヘシ
第二十四條 發明抵觸ノ査定確定シタルトキハ特許局長ハ關係人ヨリ發明ニ關スル始末書ヲ徵シ審
査官ヲシテ發明完成ノ前後ヲ審査セシメ其ノ査定書ヲ關係人ニ送付スヘシ
第二十五條 前條ニ依リ既ニ與ヘタル特許ヲ取消シ出願ノ發明ニ特許ヲ與ルトキハ其ノ特許年限ハ
前特許登錄ノ日ヨリ起算ス

第二十六條 特許證主其ノ明細書若ハ圖面ノ不完全ナルコトヲ發見シタルトキハ改訂明細書若ハ圖面ヲ添ヘ特許證ノ改訂ヲ出願スルコトヲ得一箇ノ特許證ヲ分割シテ二箇以上ト爲スノ必要アルコトヲ發見シタルトキ亦同シ但シ發明ノ要部ヲ變更スルモノハ此ノ限ニアラス

第二十七條 前條ノ出願アリタルトキハ審査官之ヲ審査ス

前項ノ場合ニ於テ審査官ノ査定ニ不服アル者ハ第二十三條ニ依リ再審査ヲ請求スルコトヲ得

第二十八條 第二十三條及第二十七條ノ再査定ニ不服アル者ハ査定書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ特許局ニ審査ヲ請求スルコトヲ得

第二十四條 ノ査定ニ不服アル者亦前項ニ同シ

第二十九條 二箇以上ノ特許發明互ニ撞著シ又ハ特許發明ト特許ヲ受ケサル物品若ハ方法ト撞著スルコトヲ發見シタルトキハ利害關係人ハ權利ヲ確認スル爲メ特許局ニ審査ヲ請求スルコトヲ得

第三十條 特許ヲ受ケタル發明第二十條ニ該當スルコトヲ發見シタル者ハ其ノ特許ヲ無効トスル爲メ特許局ニ審査ヲ請求スルコトヲ得

第三十一條 特許局ノ審査、審判及報酬額ノ決定ニ關シ必要アルトキハ特許局ハ當事者ノ申立ニ因リ證據調ヲ爲シ又ハ所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地ノ區裁判所ニ證據調ヲ囑託スルコトヲ得

前項證據調ニ關シテハ民事訴訟法第二編第一章第五節乃至第十一節ノ規定ヲ準用ス

第三十二條 特許局ニ於テ審判スヘキ事件ハ審判官三人若ハ五人ヲ以テ之ヲ審判ス其ノ三人若ハ五人中ノ一人ヲ審判長トス

審判ノ審決ニハ理由ヲ付スルコトヲ要ス

第三十三條 審判ハ正副二通ノ審判請求書ヲ以テ之ヲ請求スヘシ審判請求書ニハ理由ヲ付スルコトヲ要ス

特許局ニ於テ審判請求書ヲ受理シタルトキハ其ノ副本ヲ被請求人ニ送付シ相當ノ期間ヲ指定シテ正副二通ノ答辯書ヲ差出サシムヘシ

特許局ハ必要ト認ムル場合ニ於テ期限ヲ付シテ更ニ請求人、被請求人ヨリ辯駁書、答辯書ヲ差出サシムルコトヲ得

審判長ハ職權又ハ當事者雙方ノ申立ニ因リ口頭審判ヲ爲スコトヲ得

口頭審判ハ公開スルモノトス

第三十四條 請求人若ハ被請求人成規又ハ指定ノ期間内ニ答辯書若ハ辯駁書ヲ差出サ、ルトキ又ハ辯論期日ニ出頭セサルトキハ審判長ハ相手方ノ意見ヲ聽キ審判ヲ終結スルコトヲ得

第三十五條 第二十八條第二項第二十九條及第三十條ノ請求ニ因ル審決ニ對シ不服アル者ハ其ノ審決カ法律ヲ適用セス又ハ不當ニ適用シタルコトヲ理由トスルトキニ限り審決書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ大審院ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ訴及裁判ニ付テハ民事訴訟ノ上告及其ノ裁判ニ關スル規定ヲ準用ス

第三十六條 大審院ニ於テ出訴ノ理由アリト認ムルトキハ原審決ヲ破毀シ更ニ審判ヲ爲サシムル爲メ事件ヲ特許局ニ差戻スヘシ

大審院ニ於テ裁判ヲ爲スニ當リ法律ノ點ニ付表シタル意見ハ其ノ事件ニ關シ特許局ヲ羈束スルモノトス

第三十七條 第二十八條第二項第二十九條及第三十條ノ請求ニ因ル審判ニ關スル費用ノ負擔及其ノ費用額ハ審判長之ヲ決定ス

大審院ニ於テ費用ノ負擔ヲ言渡シタル場合ニ於ケル費用額ニ於テモ亦同シ

前二項ノ費用ニ關シテハ民事訴訟法第七十二條乃至第八十二條第八十六條及民事訴訟費用法ヲ準

用ス

第三十八條 特許ヲ受ケタル發明ニシテ左ノ場合ニ該當スルモノアルトキハ特許局長ニ於テ其ノ特許ヲ取消スコトヲ得

一 特許證主正當ノ事故ナクシテ特許證ノ日付ヨリ三年ヲ經ルモ帝國内ニ於テ其ノ發明ヲ實施公行セサル場合又ハ三年以上其ノ實施公行ヲ中止シタル場合ニ於テ第三者ヨリ相當ノ條件ヲ付シテ其ノ讓受若ハ使用ヲ請求スルモ之ヲ拒絕シタルトキ

二 特許證主特許料納付期限後六十日ヲ經過スルモ仍其ノ納付ヲ怠リタルトキ
三 特許證主正當ノ事故ナクシテ六箇月以上第六條ノ代理人ヲ置カサルトキ

第三十九條 特許證主ハ特許料トシテ各特許ニ付毎年金十圓ヲ納ムヘシ
前項特許料ハ三年毎ニ金五圓ヲ増スモノトス

特許證主追加特許ヲ受ケタルトキハ追加特許料トシテ一時ニ金二十圓ヲ納ムヘシ
第四十條 特許料ハ毎年一年分ヲ特許證ノ日付ニ應當スル日ニ於テ前納スヘシ第一年ニ係ルモノ及追加特許料ハ特許査定書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ之ヲ納ムヘシ

前納セシ特許料ハ之ヲ還付セス但シ一時ニ二年分以上ノ特許料ヲ前納シタル場合ニ於テハ未タ其ノ納付期限ニ至ラサルモノニ限り之ヲ還付ス

第四十一條 特許證主ハ其ノ特許品ニ特許ノ標記ヲ付スヘシ

第四十二條 特許局ハ特許公報ヲ發行シテ特許發明ノ明細書、圖面特許證ノ改訂、特許ノ異動其ノ他特許ニ關スル必要ノ事項ヲ公示スヘシ但シ秘密ヲ要スルモノハ此ノ限ニアラス

第四十三條 特許ニ關スル書類ノ謄本、圖面ノ複製又ハ特許原簿ノ一覽ヲ要スル者ハ特許局ニ請求スルコトヲ得但シ秘密ヲ要スルモノハ此ノ限ニアラス

特許法

第四十四條 證人又ハ鑑定人ニシテ特許局又ハ囑託ヲ受ケタル裁判所ニ對シ詐僞又ハ詐僞ノ鑑定ヲ爲シタルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

賭博其ノ他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ偽證又ハ詐僞ノ鑑定ヲ爲サシメタル者ハ罰前項ニ同シ
前二項ノ罪ヲ犯シタル者其ノ事件ノ査定、審決若ハ決定ニ至ラサル前特許局若ハ囑託ヲ受ケタル裁判所ニ自首シタルトキハ本刑ヲ免ス

第四十五條 他人ノ特許品ヲ偽造シタル者又ハ情ヲ知リテ偽造特許品ヲ使用シ若ハ販賣シタル者又ハ他人ノ特許方法ヲ竊用シタル者又ハ情ヲ知リ其ノ竊用シテ製造シタル物品ヲ使用若ハ販賣シタル者ハ十五日以上三年以下ノ重禁錮又ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス
他人ノ特許ヲ侵害スヘキ物品ナルコトヲ知り之ヲ外國ヨリ輸入シタル者又ハ情ヲ知リテ其ノ輸入シタル物品ヲ使用シ若ハ販賣シタル者ハ罰前項ニ同シ

第四十六條 前條ノ場合ニ於テ沒收シタル物件ハ之ヲ特許證主ニ給付ス

第四十七條 詐僞ノ所爲ヲ以テ特許ヲ受ケタル者又ハ特許ヲ受ケサル物品ニ特許標記ヲ付シ若ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者又ハ情ヲ知リ其ノ物品ヲ販賣シタル者ハ十五日以上一年以下ノ重禁錮又ハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

特許ヲ受ケサル物品ヲ販賣スル爲廣告、看板、引札等ニ於テ特許品タルニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者ハ罰前項ニ同シ

第四十八條 第四十五條ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス

第四十九條 特許證主特許標記ヲ付スルコトヲ怠リタルトキハ其ノ特許品タルコトヲ知リテ其ノ權利ヲ侵害シタル者ニ對シテノミ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得

第五十條 特許證主其ノ特許品ノ要部ヲ分離シテ販賣シタルトキハ其ノ販賣シタル部分ニ對シ告訴

又ハ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

第五十一條 此ノ法律ニ定メタル書類ノ送付ハ書留郵便又ハ特許局ノ使丁ヲ以テ之ヲ爲ス此ノ場合ニ於テ郵便配達人及特許局ノ使丁ハ民事訴訟法ノ送達吏ト準視ス

附則

第五十二條 此ノ法律ハ明治三十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五十三條 明治二十一年勅令第八十四號特許條例ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

專賣特許條例及特許條例ニ依テ受ケタル專賣特許若ハ特許ハ其ノ年限間此ノ法律ニ依テ受ケタル特許ト同一ノ效アルモノトス

特許ニ關スル出願又ハ請求ニシテ此ノ法律施行ノ日マテニ處分ヲ終ラサルモノハ此ノ法律ニ依リタル出願又ハ請求ト看做シ處分スヘシ

○萬國工業所有權保護同盟條約

明治三十二年七月十二日加入公布
同年同月十五日ヨリ效力發生

白耳義國皇帝陛下、伯刺西爾國皇帝陛下、西班牙國皇帝陛下、佛蘭西共和國大統領、瓜地馬拉共和國大統領、伊太利國皇帝陛下、和蘭國皇帝陛下、葡萄牙國皇帝陛下、三薩瓦共和國大統領、塞爾維亞國皇帝陛下、及瑞西聯邦政府ハ均シク共同一致シテ各内國人ノ工業及商業ニ對シ完全ニシテ有效ナル保護ヲ保證シ且ツ發明者ノ權利及誠實ナル商業ノ取引ニ擔保ヲ與ヘムコトヲ欲シ之カ爲ニ一ノ條約ヲ締結スルコトニ決定シ左ノ者ヲ各其ノ全權委員ニ任命セリ(全權委員ノ名ハ之ヲ略ス)

因テ各全權委員ハ互ニ其委任狀ヲ示シ良好妥當ナルヲ認メ左ノ條約ヲ協定セリ
第一條 白耳義、伯刺西爾、西班牙、佛蘭西、瓜地馬拉、伊太利、和蘭、葡萄牙、三薩瓦、塞爾維

亞及瑞西國ノ諸政府ハ工業所有權保護ノ爲メ茲ニ同盟ヲ組織ス

第二條 各締盟國ノ臣民或ハ人民ハ他ノ同盟國內ニ於テ發明特許、工業的意匠或ハ雛形若ハ製造標或ハ商標及商號ニ關シ其ノ國ノ法律カ内國人ニ對シ現ニ許與シ或ハ將來許與スヘキ一切ノ利益ヲ享有スヘシ故ニ該臣民或ハ人民ハ各國ノ法律カ内國人ヲシテ遵由セシムル所ノ手續及條件ヲ遵守スルニ於テハ内國人ト同一ノ保護ヲ受ケ其ノ權利ノ侵害ニ對シテモ亦同一ナル訴權ヲ有スヘシ

第三條 同盟ニ加入セサル國ノ臣民或ハ人民ニシテ同盟中ノ一國ノ版圖内ニ住所ヲ有シ或ハ現實且眞誠ナル工業的若ハ商業的營業所ヲ有スル者ハ締盟國ノ臣民或ハ人民ニ準スヘキモノトス

第四條 締盟國中ノ一國ニ於テ合式ニ發明ノ特許出願、工業的意匠或ハ雛形若ハ製造標或ハ商標ノ登錄出願ヲ爲シタル者ハ他ノ締盟國ニ於テ出願ヲ爲スニ方リ第三者ノ權利ヲ保留シテ下ニ定ムル期間ハ優先權ヲ有スヘシ

故ニ右期間満了前ニ他ノ締盟國ニ於テ爲シタル出願ハ其ノ中間ニ於テ遂行セラレタル事實殊ニ他ノ出願アリタルコト、其ノ發明ヲ公ニシ或ハ實施シタルコト、意匠或ハ雛形ノ模本ヲ發賣シタルコト、若ハ標章(製造標或ハ商標)ヲ使用シタルコトニ因リ無効トナルコトナシ

上ニ記載セル優先權ノ期間ハ發明ノ特許ニ在リテハ十二箇月、工業的意匠或ハ雛形若ハ製造標或ハ商標ニ在リテハ四箇月トス

第四條ノ二 第二條及第三條ノ規定ニ據リ本條約ノ利益ヲ享受スル者カ各締盟國ニ出願シテ得タル特許ト同一ノ發明ニ對シ他ノ締盟國或ハ締盟國外ノ國ニ於テ得タル特許トハ互ニ獨立ノモノタルヘシ

前項ノ規定ハ其ノ實施ノ時ニ方リ存在スル特許ニ適用セラレヘシ
新ニ加入スル國アル場合ニ於テハ其ノ加入ノ時ニ方リ加入國又ハ締盟國ニ存在スル特許ニ付テモ

三十三年十二月十四日ノ修正
約ニヨリ三月十四日ノ修正
日批准三月十四日ノ修正
第四條ヲ改正
追加三十五年
九月十四日
實施以下全

亦同シ

第五條 特許證主カ他ノ同盟國ニ於テ製造シタル物品ヲ特許ヲ得タル國ニ輸入スルモ之カ爲ニ特許ノ效力ヲ失フコトナシ

然レトモ特許證主ハ其ノ特許品ヲ輸入スル國ノ法律ニ從ヒテ其ノ特許ヲ實施スヘキ義務アルモノトス

第六條 總テ本國ニ於テ合式ニ出願ヲ爲シタル製造標或ハ商標ハ他ノ同盟國ニ於テモ其ノ儘出願ヲ許容シ且ツ保護ヲ與フヘシ

出願人ノ主タル營業所ノ所在國ヲ以テ其ノ本國ト看做スヘシ

右ノ主タル營業所カ同盟國內ニ存在セサルトキハ出願人ノ屬スル國ヲ以テ本國ト看做スヘシ
製造標或ハ商標ノ登録ヲ出願シタル物件ニシテ風俗若ハ公安ニ害アルモノト認メラレタルトキハ其ノ出願ヲ拒絕スルコトヲ得ヘシ

第七條 製造標或ハ商標ヲ附スヘキ製産物ノ性質如何ハ如何ナル場合ニ於テモ標章出願ノ妨害トナルコトナシ

第八條 商號ハ製造標或ハ商標ノ一部ヲ爲スト否トニ拘ハラズ出願ヲ要スルコトナクシテ各同盟國內ニ於テ保護セラルヘシ

第九條 不正ナル製造標或ハ商標或ハ商號ヲ附ケタル製産物ハ其ノ標章或ハ商號カ法律上ノ保護ヲ受クヘキ同盟國內ニ輸入ノ際之ヲ差押フルコトヲ得ヘシ

右ノ差押ハ檢事若ハ利害關係人ノ請求ニ因リ各同盟國ノ法律ニ從ヒ之ヲ執行スヘシ
法令ニ依リ輸入ノ際差押ヲ許ササル國ニ於テハ輸入禁止ヲ以テ輸入差押ニ代フルコトヲ得ヘシ
通過ノ場合ニ於テハ當該官廳ハ差押ヲ爲スノ義務ナキモノトス

全上ヲ以テ第九條第一〇條第一條改正
第一條第一〇條第一條改正
第一條第一〇條第一條改正
第一條第一〇條第一條改正
第一條第一〇條第一條改正

第十條 前條ノ規定ハ製产地ノ表示トシテ虛偽ニ一定ノ地名ヲ附セシ總テノ製産物ニ適用スヘシ但

此ノ表示ニ虛構ノ商號ヲ附加シ若ハ詐欺ノ意思ヲ以テ借用シタル商號ヲ附加シタルトキニ限ル
右製産物ノ生産、製造或ハ商業ニ従事スル生産者、製造者或ハ商人ニシテ産地トシテ詐稱セラレタル土地若ハ該地所在ノ地方ニ住居スル者ハ總テ之ヲ利害關係人ト看做ス

第十條ノ二 本條約ノ利益ヲ享受スル者(第二條、第三條)ハ同盟各國ニ於テ不正ノ競争ニ關シ其ノ内國人ニ附與スルト同様ノ保護ヲ享受スヘシ

第十一條 締盟國ハ互ニ締盟國中ノ一國ノ版圖内ニ開設セル官設或ハ官許ノ萬國博覽會ニ出品スル製産物ニ對シ各其ノ國ノ法令ニ遵ヒ特許的發明、工業的意匠或ハ雖形並製造標或ハ商標ニ假保護ヲ與フヘシ

第十二條 各締盟國ハ互ニ工業所有權ニ關スル特別ナル事務所ヲ開設シ又發明特許、工業的意匠或ハ雖形若ハ製造標或ハ商標ヲ公衆ニ知ラシムル爲メ中央陳列所ヲ設置スルコトヲ約諾ス

第十三條 「萬國工業所有權保護同盟事務局」ナル名稱ヲ附シテ一ノ萬國事務局ヲ設立スヘシ
右事務局ハ瑞西聯邦中央政府ノ下ニ置カレ其ノ監督ヲ受ケテ事務ヲ處理スヘシ而シテ之ニ要スル費用ハ各締盟國政府ニ於テ之ヲ分擔スヘシ又右事務局ノ職制ハ同盟國協議ノ上之ヲ定ムヘシ

第十四條 本條約ハ同盟制度ヲ完全ナラシムヘキ改良ヲ加ヘムカ爲メ時時改正ヲ施スヘシ
右ノ目的ヲ達スル爲メ前記締盟國ノ委員ハ逐次締盟國ノ一ニ會シテ會議ヲ開クヘシ

第十五條 各締盟國ハ本條約ノ規定ニ牴觸セサル限ハ各國間互ニ工業所有權ノ保護ニ關スル特殊ノ取極ヲ爲スノ權利ヲ保留スルモノトス

第十六條 本條約ニ加入セサル國ト雖モ其ノ請求ニ依リ加入スルコトヲ許スヘシ右ノ加入ハ外交上ノ手續ニ由リ瑞西聯邦政府ニ申込ムヘシ而シテ該政府ヨリ更ニ之ヲ他ノ締盟國ニ通知スヘシ

全上ヲ以テ第一條第一〇條第一條改正
第一條第一〇條第一條改正
第一條第一〇條第一條改正
第一條第一〇條第一條改正
第一條第一〇條第一條改正

新ニ加入スル國ハ當然本條約ノ全部ニ贊同シタルモノトシ本條約ニ規定スル一切ノ利益ヲ享受スヘシ而シテ該加入ハ瑞西政府カ他ノ締盟國ニ對シテ爲シタル通知ノ發送ヨリ一箇月ヲ經タル後ニ其ノ效果ヲ生スヘシ但加入國ニ於テ其ノ以後ノ日付ヲ指定シタルトキハ此ノ限ニアラス

第十七條 本條約ニ揭クル所ノ相互的契約ノ履行ハ之ヲ要スル限ハ締盟國ノ中ニ就キ自國ノ憲法所定ノ手續及規定ヲ履行スルノ必要アルモノハ之ニ遵由スヘシ且ツ可成速ニ其ノ手續ヲ爲スノ義務アルモノトス

第十八條 本條約ハ批准交換後一箇月ヲ經テ實施セラルヘキモノトス而シテ本條約ハ無期限ニ有效タルヘク若シ之ヲ拋棄スルトキハ拋棄ノ日ヨリ一箇年ヲ經テ效力ヲ失フモノトス

右ノ拋棄ハ加入申込ヲ受理スルノ權アル政府ニ通知スヘシ拋棄ハ其ノ之ヲ爲シタル國ニ對シテノミ有效ナルモノニシテ他ノ締盟國間ニ於テハ依然本條約ヲ繼續スルモノトス

第十九條 本條約ハ之ヲ批准シ其ノ批准ハ遲クモ一箇年以内ニ巴里ニ於テ交換スヘシ右證據トシテ各全權委員ハ之ニ記名調印スルモノナリ

議定書

工業所有權保護ノ目的ヲ以テ本日本耳義、伯刺西爾、西班牙、佛蘭西、瓜地馬拉、伊太利、和蘭、葡萄牙、三薩瓦、塞爾維亞及瑞西國ノ各政府間ニ締結シタル條約ニ調印スルニ方リ下ニ記名セル各全權委員ハ左ノ事項ヲ協定セリ

第一 「工業所有權」ナル語ハ其ノ最モ廣キ意味ニ解スヘシ即チ純粹ナル工業的製產物ノミナラス農業的製產物(各種ノ葡萄酒、穀類)及商業上取引セラル、鑛產物(鑛泉)ニモ亦之ヲ適用スルモノトス

第二 「發明特許」ナル名稱ノ中ニハ締盟國ノ國法ニ依リ許與サレタル諸種ノ工業的特許即チ輸入特許、改良特許等ヲ包含ス

第三 本條約第二條末段ノ規定ハ何等ノ點ニ於テモ各締盟國ニ於ケル訴訟手續及裁判所ノ權限ニ關スル法律ヲ侵害セサルモノトス

第三ノ二 特許證主ハ當該國ニ於テ其ノ出願ノ日ヨリ少クモ三年ヲ經過シ且ノ不實施ノ事由ヲ疏明セサル場合ノ外何レノ國ニ於テモ不作爲ノ事由ニ依リ失權スルコトナシ

第四 本條約第六條第一項ハ如何ナル製造標或ハ商標ト雖モ之ヲ組成スル所ノ徽章カ其ノ本國ノ法律ニ照シテ適法ニシテ且ツ本國ニ於テ合式ニ出願ヲ爲シタルモノニ係ルトキハ他ノ締盟國ニ於テハ假令其ノ徽章カ該國ノ法律ニ照シテ適法ナラサルモ之ヲ理由トシテ其ノ保護ヲ拒ムコトヲ得スト云フ意味ニ解釋スヘキモノトス但各締盟國ノ法律ハ標章ノ形ニノミ關スル此例外ヲ除キ及本條約中他ノ條項ノ規定ヲ保留シテ之ヲ適用スヘキモノトス

尙誤解ヲ避ケムカ爲メ公共ノ紋章及勳章ノ使用ハ本條約第六條末段ノ意味ニ隨ヒ公ノ秩序ニ背反スルモノト看做ヲ得ルコトヲ茲ニ約諾ス

第五 第十二條ニ記載シタル工業所有權ニ關スル特別事務所ノ構成中ニハ可成各國ニ於テ定期刊行ノ公報ヲ刊行スヘキコトヲモ包含ス

第六 本條約第十三條ニ依リ設置サレタル萬國事務局ノ共同經費ハ如何ナル場合ニ於テモ毎年各締盟國ノ平均負擔額ヲシテ貳千法ニ當ル總額ヲ超過セシムルコトヲ得ス

右ノ費用總額ニ對シ各國ノ釀出割合ヲ定ムル爲メ締盟國並ニ將來同盟ニ加入スヘキ國ヲ六等ニ區分シ各等ノ釀出スヘキ部數ノ比例ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 第一等 二十五部
- 第二等 二十部
- 第三等 十五部

全上ヲ以テ第
三ノ二追加

- 第四等 十部
- 第五等 五部
- 第六等 三部

右ノ系數ニ各等ノ國數ヲ乘シテ得タル積ノ和ハ部ノ總數ヲ示シ之ヲ以テ費用總額ヲ除スレハ費用ノ部數ヲ得ルナリ

費用分擔ノ爲メ締盟國ヲ類別スルコト左ノ如シ

- 第一等 佛蘭西國 伊太利國
- 第二等 西班牙國 白耳義國 伯刺西爾國 葡萄牙國 瑞西國
- 第三等 和蘭國 塞爾維亞國
- 第四等 瓜地馬拉國 三薩瓦國
- 第五等
- 第六等

瑞西聯邦政府ハ萬國事務局ノ支出ヲ監督シ必要ナル立替ヲ爲シ且ツ毎年出納ヲ計算シテ他ノ締盟國政府ニ報告スヘシ

萬國事務局ハ工業所有權ノ保護ニ關スル一切ノ報告ヲ蒐集シテ一般ノ統計ヲ調製シ之ヲ各國政府ニ配付スヘシ萬國事務局ハ同盟公共ノ利益ニ關スル事項ヲ講究スヘシ而シテ又諸政府ヨリ受領シタル書類ヲ參照シテ同盟ノ目的ニ關スル諸問題ヲ佛蘭西語ニテ記載シタル定期刊行ノ雜誌ヲ編纂

スヘシ

右雜誌並ニ萬國事務局ニ於テ刊行スル他ノ一切ノ書類ハ前ニ記載セル費用分擔額ニ比例セル部數ヲ同盟國政府ニ分配スヘシ

右部數外ニ雜誌若ハ書類ヲ請求スルトキハ其ノ前記政府タルト會社或ハ個人タルトヲ問ハズ別ニ代價ヲ支拂フヘキモノトス

萬國事務局ハ常ニ工業所有權ニ關スル萬國事務局問題ニ付同盟國ノ爲ニ其ノ要スル所ノ特殊報告ヲ供スルコトヲ怠ラサルヘシ

次回ノ會議ヲ開クヘキ國ノ政府ハ萬國事務局ノ協力ヲ得テ該會議ノ準備ヲ爲スヘシ

萬國事務局長ハ會議ニ列席シテ討論ニ加入スト雖モ議決ノ數ニ入ラス又同局長ハ其ノ所管事務ニ付毎年報告書ヲ作り之ヲ同盟國ニ報告スヘシ

佛蘭西語ヲ以テ萬國事務局ノ公用語トス

第七 本議定書ハ本日締結セル本條約ト同時ニ批准セララルヘキモノニシテ右條約ノ一部ヲ爲スモノトシ且ツ之ト同一ノ效力及期限ヲ有スルモノトス

右證據トシテ下ニ記名セル全權委員ハ本議定書ヲ調製スルモノナリ

千八百八十三年三月二十日巴里ニ於テ之ヲ作ル(全權委員氏名略ス)

水産

○漁業法施行規則 明治三十五年五月十七日 省令第七號

第一章 總則

第一條 本則ニ於テ定置漁業ト稱スルハ漁業ヲ定置シテ爲ス漁業ヲ謂ヒ、區劃漁業ト稱スルハ水面ヲ區劃シテ爲ス漁業ヲ謂ヒ、特別漁業ト稱スルハ漁業法第三條第二項ニ依リ主務大臣ニ於テ免許ヲ必要ト認ムル漁業ヲ謂ヒ、專用漁業ト稱スルハ定置漁業、區劃漁業及特別漁業ニ非スシテ水面ヲ專用シテ爲ス漁業ヲ謂フ

第二條 定置漁業ノ種類左ノ如シ

- 一 敷網及垣網又ハ敷網ヲ土俵若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ(臺網類漁業)
- 二 落網、上網及垣網ヲ土俵若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ(落網類漁業)
- 三 側網及垣網ヲ碇、土俵若ハ支柱等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ(枅網類漁業)
- 四 曲網及垣網又ハ刺網ヲ一定ノ水面ニ敷設スルモノ(建網類漁業)
- 五 垣網ヲ土俵若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ(出網類漁業)
- 六 囊網又ハ立回網ヲ支柱若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ建設若ハ敷設スルモノ(張網類漁業)
- 七 一定ノ水面ニ支柱ヲ以テ簀若ハ網ヲ建設シ又ハ竹、木、石堤等ヲ建設シテ陷穽ノ裝置若ハ魚堰ヲ設クルモノ(飢築類漁業)

第三條 區劃漁業ノ種類左ノ如シ

- 一 一定ノ區域内ニ於テ瓦、石、竹、木等ヲ沈設シ又ハ築ヲ建設シテ爲ス養殖業(第一種)

- 二 土、石、竹、木等ノ圍障ニ依リ限界セラレタル一定ノ區域内ニ於テ爲ス養殖業(第二種)
- 三 前二號ノ外一定ノ區域内ニ於テ爲ス養殖業(第三種)

第四條 特別漁業ノ種類左ノ如シ

- 一 一定ノ網場又ハ捕獲場ヲ有スル鯨漁業(第一種)
- 二 一定ノ追込場ヲ有スル海豚漁業(第二種)
- 三 一定ノ曳揚場ヲ有スル地曳網、地漕網漁業(第三種)
- 四 一定ノ曳寄場ヲ有スル船曳網漁業(第四種)
- 五 一定ノ網場ヲ有スル囊待網漁業(第五種)
- 六 一定ノ網場ヲ有スル敷網漁業(第六種)
- 七 一定ノ水面ニ於テ飼付ヲ爲ス漁業(第七種)
- 八 一定ノ水面ニ漬場ヲ設クル鱈漁業(第八種)
- 九 一定ノ水面ニ築磯ヲ設クル漁業(第九種)

第五條 前三條ニ該當スル漁業ノ名稱ハ別ニ之ヲ告示ス

第六條 本則ニ於テ漁場ト稱スルハ定置漁業ニ在リテハ漁具ヲ建設シ又ハ敷設スル區域ヲ謂ヒ、區劃漁業ニ在リテハ區劃スル區域ヲ謂ヒ、專用漁業ニ在リテハ專用スル區域ヲ謂ヒ、特別漁業中第一種ノ漁業ニ在リテハ網場又ハ捕獲場ノ區域ヲ謂ヒ、第二種ノ漁業ニ在リテハ追込場ノ區域ヲ謂ヒ、第三種及第四種ノ漁業ニ在リテハ網ノ使用區域ヲ謂ヒ、第五種及第六種ノ漁業ニ在リテハ網場ノ區域ヲ謂ヒ、第七種ノ漁業ニ在リテハ飼付ヲ爲ス區域ヲ謂ヒ、第八種ノ漁業ニ在リテハ漬場ノ區域ヲ謂ヒ、第九種ノ漁業ニ在リテハ築磯ノ區域ヲ謂フ

第七條 同一漁場ニ於テハ同一時期ニ於テ同一名稱ノ漁業ヲ免許セス但シ第三種乃至第六種ノ特別

漁業ニ付テハ此限ニ在ラス

第八條 前條ノ外水産動物ノ蕃殖保護其ノ他公益ニ害アリト認ムル漁業又ハ免許ヲ受ケタル漁業ト相容レスト認ムル漁業ハ之ヲ免許セス

第九條 市、町、村、町村組合及市町村内ノ獨立シタル區ハ從來ノ慣行アルニ非レハ漁業免許ヲ受クルコトヲ得ス

第十條 同一漁場ニ於テ二以上ノ漁業免許アリタルトキハ關係漁業權者ハ命令書ノ定ムル所ニ依リ交互ニ其ノ權利ヲ制限セラルルモノトス

第十一條 漁業權者ハ其ノ漁場内ニ於ケル他人ノ漁業直接ニ自己ノ漁業ニ妨害アルニ非サレハ其ノ漁業ヲ拒ムコトヲ得ス

第十二條 他人ノ專用漁場ニ入漁スルノ權利ヲ有スル者ハ漁業權者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ其ノ權利ヲ處分スルコトヲ得ス但シ別段ノ慣行又ハ契約アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 前條ノ規定ハ漁業權ノ貸付ヲ受ケタル者ニ之ヲ準用ス

第十四條 漁業ニ關スル出願、申請及届出ハ漁場ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ爲スヘシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ農商務大臣ニ之ヲ爲スヘシ

一 專用漁業ニ關スルトキ
二 二以上ノ地方長官ノ管轄ニ屬スル漁場ニ於ケル漁業ニ關スルトキ
三 漁場ヲ管轄スル地方長官明確ナラサル漁業ニ關スルトキ

前項第二號又ハ第三號ニ該當スル場合ニ於テハ主務大臣ハ管轄地方長官ヲ指定スルコトヲ得

第十五條 農商務大臣ニ出願、申請又ハ届出ヲ爲サルトキハ漁場ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スヘシ但シ漁場ヲ管轄スル地方長官明確ナラサルトキハ住所地ノ地方長官ヲ經由スヘシ

第十六條 漁業ニ關スル行政行為ニ付テハ關係地方長官ハ交互ニ補助スルモノトス

第十七條 漁業ニ關スル出願、申請及届出ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
書面ハ專用漁業ニ在リテハ漁場毎ニ其ノ他ノ漁業ニ在リテハ漁業ノ名稱及漁場毎ニ一通ヲ作り差出人ノ住所及差出ノ年月日ヲ記載シ差出人ノ記名捺印スヘシ

第十八條 二人以上共同シテ漁業ニ關スル權利ヲ享有行使シ又ハ漁業ニ關シ出願若ハ申請ヲ爲ストキハ内一人ヲ選定シテ代表者ト爲シ之ヲ行政官廳ニ届出テ又ハ出願若ハ申請ノ書面ニ記載スヘシ

代表者ノ變更アリタルトキ亦同シ

代表者ハ行政官廳ニ對シ共同シテ漁業ニ關スル權利ヲ享有行使スル者又ハ共同出願者若ハ共同申請者ヲ代表ス

代表者ノ變更ハ第一項ノ手續ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ行政官廳ニ對抗スルコトヲ得ス

第十九條 行政官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ漁業ニ關シ出願、申請若ハ届出ヲ爲シタル者又ハ漁業權者、入漁者若ハ漁業權ノ借主ニ對シ漁業ニ關スル目論見書其ノ他ノ書類ノ提出、訂正又ハ補充ヲ命スルコトヲ得

前項ノ命令ヲ受ケタル者ハ指定シタル期間内ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十條 住所又ハ居所ノ不分明其ノ他ノ事由ニ依リ書類ノ送付ヲ爲スコト能ハサルトキハ行政官廳ハ慣行ノ公布式ニ依リ其ノ事由及書類ノ要領ヲ公告スヘシ此ノ場合ニ於テハ公告ノ終リタル日ヨリ起算シテ三十日ヲ經過シタルトキハ其ノ末日ニ於テ書類ノ送付アリタルモノト看做ス

第二章 漁業免許

第二十一條 漁業免許ヲ受ケムトスル者ハ願書ニ漁場圖正副二通ヲ添附シ行政官廳ニ出願スヘシ
從來ノ慣行ニ因リ漁業免許ノ出願ヲ爲ストキハ前項ノ外其ノ慣行ノ事實ヲ證スヘキ書面ヲ添附ス

ヘシ

第二十二條 漁業免許ヲ受ケムトスル漁場ノ敷地カ他人ノ所有ニ係ルトキハ前條第一項ノ外所有者又ハ關係人ノ承諾ヲ證スヘキ書面ヲ添附スヘシ

前項ノ規定ハ從來ノ慣行ニ因ル出願ニハ之ヲ適用セス

第二十三條 漁業免許ノ願書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 専用漁業ニ在リテハ漁具ノ種類又ハ漁業ノ方法其ノ他ノ漁業ニ在リテハ漁業ノ種類及名稱
- 二 漁獲物ノ種類
- 三 漁業時期
- 四 免許期間

第二十四條 漁場圖ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 漁場ノ位置

二 定置漁業ニ在リテハ漁具建設又ハ敷設ノ形狀及間敷、區劃漁業ニ在リテハ漁場ノ區域及面積

其ノ他ノ漁業ニ在リテハ漁場ノ區域

第二十五條 從來ノ慣行又ハ契約ニ因リ共有ノ性質ヲ有スル入會ヲ爲シタル者カ從來ノ慣行ニ因リ専用漁業ノ免許ヲ受ケムトスルトキハ入會漁業者連印シテ出願スシ但シ連印ヲ爲ササル者アルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ願書ニ添附スヘシ

第二十六條 從來ノ慣行又ハ契約ニ因リ他人ノ専用漁場ニ入漁シタル者ハ入會其ノ他何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラズ専用漁業ノ免許ニ因リテ其ノ權利及義務ニ變更ヲ生スルコトナシ但シ入漁者ニ於テ本則施行後一箇年以内ニ免許漁業原簿ノ登録ノ申請ヲ爲ササルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 前條ノ入漁者又ハ本則施行後ノ契約ニ因リ他人ノ専用漁場ニ入漁スル者ハ専用漁業權

者ノ變更又ハ専用漁業免許期間ノ更新ニ因リテ其ノ權利及義務ニ變更ヲ生スルコトナシ但シ本則施行後ノ契約ニ因ル入漁者ニ於テ免許漁業原簿ノ登録ヲ受ケサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十八條 漁業免許ヲ與フルトキハ免許狀ニ漁場圖ノ副本ヲ添附シ之ヲ下付スヘシ

免許狀ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 免許番號
- 二 免許年月日
- 三 漁業權者又ハ代表者ノ氏名若ハ名稱及住所
- 四 漁場ノ位置
- 五 漁業ノ種類及名稱
- 六 漁獲物ノ種類
- 七 漁業時期
- 八 免許期間
- 九 免許ニ條件又ハ制限ヲ附シタルトキハ其ノ條件又ハ制限ノ事項
- 十 免許ヲ與ヘタル官廳名

第二十九條 前條第二項第六號及第七號ニ掲ケタル事項又ハ漁場ノ區域ヲ變更セムトスルトキハ願書ニ免許狀ヲ添附シ變更ノ免許ヲ行政官廳ニ出願スヘシ但シ漁場ノ區域ヲ變更セムトスルトキハ前項ノ出願ヲ免許スルトキハ更ニ免許狀ヲ下付スヘシ但シ漁場ノ區域ノ變更ヲ免許スルトキハ之ニ漁場圖ノ副本ヲ添附スヘシ

第三十條 從來ノ慣行ニ因ル専用漁業權者ハ前條ノ規定ニ依リ變更ノ免許ヲ出願スルコトヲ得

第三十一條 第二十八條第二項第三號ニ掲ケタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ申請書ニ免許狀ヲ添附シ三十日以内ニ免許狀ノ訂正ヲ行政官廳ニ申請スヘシ

第三十二條 免許期間更新ノ免許ヲ得ムトスルトキハ更新期間及事由ヲ具シ願書ニ免許狀ヲ添附シ免許期間満了ノ日ヨリ三箇月前ニ行政官廳ニ申請スヘシ

前項ノ出願ヲ免許スルトキハ更ニ免許狀ヲ下付スヘシ

第三十三條 漁業權ノ相續、讓渡若ハ共有アリタルトキハ相續人又ハ當事者雙方ハ申請書ニ其ノ事由ヲ證スヘキ書面及免許狀ヲ滿附シ三十日以内ニ免許狀ノ書換ヲ行政官廳ニ申請スヘシ

前項ノ規定ハ代表者ニ變更アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十四條 免許狀ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ事由ヲ具シ行政官廳ニ再下付ヲ申請スヘシ

第三十五條 漁業權消滅シタルトキハ三十日以内ニ行政官廳ニ免許狀ヲ返納スヘシ

漁業權ノ拋棄ニ因ル消滅ハ免許狀ヲ返納スルニ非サレハ之ヲ以テ行政官廳ニ對抗スルコトヲ得ス

第三十六條 地先水面専用漁業權ノ處分ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ事由ヲ具シ行政官廳ニ申請スヘシ

第三十七條 漁業休業ノ認可ヲ受ケムトスル者ハ免許ヲ受ケタル日、休業ノ日又ハ認可期限満了ノ日ヨリ六箇月以内ニ事由ヲ具シ行政官廳ニ申請スヘシ

前項ノ認可ヲ受ケタル者漁業ニ着手シ又ハ再ヒ漁業ニ從事シタルトキハ其ノ旨ヲ届出ツヘシ此ノ届出ヲ爲ササルトキハ休業シタルモノト看做ス

第三章 漁業權登録

第三十八條 行政官廳ハ免許漁業原簿ヲ備ヘ左ノ事項ヲ登録スヘシ

- 一 漁業免許ヲ與ヘタルトキハ第二十八條第二項第一號乃至第九號ニ掲ケタル事項
- 二 變更ノ免許ヲ與ヘタルトキハ其ノ事項及年月日
- 三 免許狀ノ訂正ヲ許可シタルトキハ其ノ事項及年月日
- 四 免許狀ノ書換ヲ許可シタルトキハ相續又ハ讓渡ニ關シテハ其ノ事由、年月日及相續人若ハ讓受人又ハ其ノ代表者ノ氏名若ハ名稱及住所、共有又ハ代表者ノ變更ニ關シテハ其ノ事由、年月日及代表者ノ氏名若ハ名稱及住所
- 五 漁業權ノ貸付ニ關シテハ其ノ事由、年月日、期間及借主又ハ其ノ代表者ノ氏名若ハ名稱及住所
- 六 入漁ニ關シテハ入漁者ノ權利義務及入漁者又ハ其ノ代表者ノ氏名若ハ名稱及住所
- 七 免許期間更新ノ免許ヲ與ヘタルトキハ其ノ年月日及期間
- 八 休業ノ認可ヲ與ヘタルトキハ其ノ事由、年月日及休業期間
- 九 漁業權ヲ制限又ハ停止シタルトキハ其ノ事由及年月日
- 十 漁業權ノ消滅ニ關シテハ其ノ事由及年月日
- 十一 漁業權又ハ入漁者若ハ借主ノ權利ノ差押、假差押又ハ假處分ニ關シテハ其ノ事由及年月日

前項第五號及第六號ニ掲ケタル事項ハ申請ニ因リ之ヲ登録スルモノトス

第三十九條 行政官廳ハ免許漁業共同人名簿ヲ備ヘ漁業權共有者、共同入漁者及共同借主ノ氏名若ハ名稱及住所、持分ノ定アリタルトキハ其ノ持分並之ニ關スル相續、讓渡、貸付、變更、差押、假差押、假處分ノ登録ヲ爲スヘシ

免許漁業共同人名簿ハ免許漁業原簿ノ一部トス

第四十條 第二十八條第一項第四號、第五號及第十一號ノ規定ハ前條第一項ノ相續、讓渡、貸付、差押、假差押、假處分ノ登録ニ之ヲ準用ス

持分ノ變更ニ關シテハ其ノ事由及年月日ヲ登録スヘシ

前條第一項ノ相續、讓渡、貸付若ハ變更ノ登録ハ申請ニ因リ之ヲ爲スモノトス

第四十一條 行政官廳ハ免許ヲ與ヘタル漁業ノ漁場圖正本ヲ編綴シテ之ヲ備ヘ置クヘシ

前項ノ漁場圖ハ免許漁業原簿ノ一部トス

第四十二條 他人ノ專用漁場ニ入漁スル權利ヲ有スル者登録ヲ受ケムトスルトキハ當事者雙方連印シテ之ヲ申請スヘシ但シ連印ヲ得ルコト能ハサルトキハ事由ヲ具シテ之ヲ申請スヘシ

第二十六條ノ入漁者前項ノ登録ヲ申請スルトキハ申請書ニ其ノ權利ヲ證スヘキ書面ヲ添附スヘシ

第四十三條 登録シタル入漁者ノ權利義務ニ變更ヲ生シタルトキハ事由ヲ具シ三十日以内ニ變更ノ登録ヲ申請スヘシ

前條ノ規定ハ前項ノ申請ニ之ヲ準用ス

第四十四條 漁業權又ハ漁業權共有者ノ持分ノ貸付アリタルトキハ當事者雙方ハ其ノ事由ヲ證スヘキ書面ヲ添ヘ三十日以内ニ登録ヲ申請スヘシ

第四十五條 漁業權ノ差押、假差押又ハ假處分ノ命令アリタルトキハ其ノ申請ヲ爲シタル者ハ之ヲ證スヘキ書面ヲ添ヘ十五日以内ニ行政官廳ニ届出ヘシ其取消ノ命令アリタルトキ亦同シ

第四十六條 登録シタル入漁者及借主ノ權利並漁業權共有者、登録シタル共同入漁者及共同借主ノ持分ニ相續、讓渡若ハ共有アリタルトキハ相續人又ハ當事者雙方ハ其ノ事由ヲ證スヘキ書面ヲ添ヘ三十日以内ニ登録ヲ申請スヘシ

前條ノ規定ハ前項ノ權利及持分ニ之ヲ準用ス

第四十七條 漁業權共有者、登録シタル共同入漁者及共同借主ノ氏名若ハ名稱又ハ住所ニ變更アリタルトキハ其ノ變更アリタル者ハ之ヲ證スヘキ書面ヲ添ヘ三十日以内ニ變更ノ登録ヲ申請スヘシ

前項ノ規定ハ民法第二百五十五條及第二百六十四條ノ規定ニ依リ其ノ持分ニ變更ヲ生シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十八條 前五條ノ外當事者ノ申請ニ因リテ登録シタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ其ノ事項ヲ消滅シタルトキハ當事者ハ之ヲ證スヘキ書面ヲ添ヘ三十日以内ニ變更又ハ消滅ノ登録ヲ申請スヘシ但シ代表者ノ變更ハ此ノ限ニ在ラス

第四十九條 行政官廳ニ於テ第三十八條第一項第一號、第二號及第四號乃至第十一號ニ掲ケタル事項ヲ登録シタルトキハ慣行ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第五十條 漁業權者其ノ他ノ利害關係者ハ免許漁業原簿ノ閱覽又ハ其ノ謄本若ハ抄本ノ下付ヲ行政官廳ニ申請スルコトヲ得

第四章 蕃殖保護及漁業取締

第五十一條 水産動物ヲ疲憊若ハ斃死セシムヘキ有毒物又ハ爆發物ヲ使用シテ水産動物ヲ採捕スルコトヲ得ス但シ捕鯨ノ爲メ爆發物ヲ使用スルハ此ノ限ニ在ラス

第五十二條 前條ノ規定其ノ他漁業法第十三條ニ依ル命令ハ官署又ハ公署ニ於テ調査又ハ試験ノ爲水産動物ノ採捕又ハ蕃殖ヲ爲ス場合ニハ之ヲ適用セス

第五十三條 漁業法第十三條ニ依ル命令ハ蕃殖、學術研究其ノ他特別ノ理由ニ因リ行政官廳ノ許可ヲ受ケ水産動物ノ採捕ヲ爲ス場合ニハ之ヲ適用セス

第五十四條 遡河魚類ノ通路ヲ遮斷シテ漁業ヲ爲ストキハ地方長官ノ定ムル所ニ依リ魚道ヲ開通スヘシ

第五十五條 定置漁業及特別漁業ニ關シテハ行政官廳ハ漁場取締ノ爲命令ヲ以テ保護區域ヲ設クルコトヲ得

保護區域内ニ於テ漁業ノ妨害トナルヘキ行爲ノ禁止又ハ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

地方長官前二項ノ命令ヲ發スルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五十六條 左ニ掲ケタル漁業ハ其ノ漁業ヲ爲ス水面ヲ管轄スル地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 藻手繰網漁業
- 二 藻打瀬網漁業
- 三 藻曳網漁業
- 四 潜水器漁業
- 五 空釣繩漁業

前項漁業ノ地方名稱ハ地方長官之ヲ告示スヘシ

地方長官第一項ノ漁業ヲ許可シタルトキハ鑑札ヲ下付スヘシ

第五十七條 前條ノ漁業者漁業ヲ爲ストキハ鑑札ヲ携帯スヘシ

第五十八條 漁場ノ標識ヲ建設スル爲他人ノ土地ニ立入り又ハ之ヲ使用セムトスル者ハ事由ヲ具シ

其ノ土地ヲ管轄スル島司又ハ郡長ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ土地カ島司又ハ郡長ノ管轄ニ屬セサルトキハ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ漁場標識ノ建設ヲ命セラレタル場合ニハ之ヲ適用セス

第五十九條 漁場ノ標識ヲ建設スル爲他人ノ土地ニ立入り又ハ之ヲ使用スル者ハ其ノ認可書又ハ命令書ヲ携帯スヘシ

第六十條 漁場標識ヲ建設シタルトキハ其ノ漁場標識タルコトヲ明示スヘシ

第六十一條 地方長官禁漁區ヲ設ケタルトキハ適當ノ場所ニ其ノ標示ヲ爲スヘシ

第五章 裁決

第六十二條 漁業法第二十五條第一項ニ依リ爭議ノ裁決ヲ受ケムトスル者ハ免許ヲ與ヘタル行政官

廳ニ申請スヘシ但シ關係者ニ免許ヲ與ヘタル行政官廳異ナルトキハ農商務大臣ニ申請スヘシ

第六十三條 前條ノ裁決ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 申請者及爭議ノ相手方ノ氏名若ハ名稱及住所
- 二 申請ノ目的及理由
- 三 立證

第六十四條 二爭議ノ裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附スヘシ裁決ノ申請ヲ却下スルトキ亦同シ

第六章 罰則

第六十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第三十三條第一項、第五十一條、第五十四條又ハ第五十六條ノ規定ニ違背シタルトキ
- 二 第四十四條又ハ第四十六條ニ依リ漁業權ノ貸付又ハ漁業權共有者ノ持分ノ相續、讓渡、共有若ハ貸付ノ登錄ヲ申請セサルトキ
- 三 第四十五條又ハ第四十六條ニ依リ漁業權、登錄シタル入漁者若ハ借主ノ權利又ハ漁業權共有者登錄シタル共同入漁者若ハ共同借主ノ持分ノ差押、假差押又ハ假處分ニ關スル届出ヲ爲サ

サルトキ

- 四 禁漁区内ニ於テ其ノ禁止シタル水産動植物ヲ採捕シタルトキ
- 五 禁漁区ノ標示ヲ移轉シ又ハ毀壞シタルトキ
- 第六十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ科料ニ處ス
 - 一 第三十一條、第三十三條第二項、第三十五條第一項又ハ第五十七條ノ規定ニ違背シタルトキ
 - 二 前條第二號ノ場合ヲ除クノ外本則ノ規定ニ依リ登録スヘキ事項ノ登録ノ申請ヲ怠リタルトキ

附則

- 第六十七條 本則ハ漁業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 第六十八條 本則施行前ニ於テ漁業ニ關シ地方長官ノ發シタル命令ノ規定ニシテ漁業法又ハ本則ノ規定ニ牴觸セサルモノハ漁業法又ハ本則ニ依リ發シタルモノト看做ス
- 第六十九條 漁業法第三十三條ニ該當スル者ハ本則施行ノ日ヨリ六箇月以内ニ行政官廳ニ免許期間ノ指定ヲ申請スヘシ
- 前項ノ申請ヲ爲ササル者ハ廢業シタルモノト看做ス
- 第七十條 第二十一條第一項、第二十三條、第二十四條、第二十八條、第三十八條、第三十九條及第四十一條ノ規定ハ前條ノ申請ノ場合ニ之ヲ準用ス
- 第七十一條 獨立シタル區ヲ爲ササル濱、浦、漁村又ハ漁業者ノ部落ニシテ從來ノ慣行ニ因リ漁業免許ヲ受ケムトスルトキハ漁業組合ヲ組織シテ本則施行ノ日ヨリ一箇年以内ニ出願スヘシ
- 第七十二條 本則施行前ヨリ行政官廳ノ許可ヲ受ケ第五十六條第一項ノ漁業ヲ爲ス者ハ本則ニ依リ

許可ヲ受ケタルモノト看做ス但シ鑑札ノ下付ヲ受ケサルモノハ本則施行ノ日ヨリ一箇年以内ニ管轄地方長官ニ鑑札ノ下付ヲ申請スヘシ此ノ場合ニ於テハ鑑札ノ下付ヲ受ケル迄ノ間鑑札ヲ携帯セシテ漁業ヲ爲スコトヲ得

- 第七十三條 本則施行前ヨリ第五十六條第一項ノ漁業ヲ爲ス者ニシテ前條ノ規定ニ該當セサルモノハ本則施行ノ日ヨリ一箇年以内ニ管轄地方長官ニ許可ヲ出願シタルトキハ許可ノ處分ヲ受ケル迄ノ間仍從前ノ例ニ依リ漁業ヲ爲スコトヲ得
- 第七十四條 地方長官ハ本則ニ規定スルモノノ外農商務大臣ノ認可ヲ得テ漁業ニ關スル出願、申請又ハ届出ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得
- 第七十五條 本則中市、町、村、町村組合及市町村内ノ區ニ關スル規定ハ北海道ニ於テハ區、町、村及區町村内ノ部沖繩縣ニ於テハ區、間切、島、間切島組合及區間切島内ノ部ニ之ヲ適用ス

○漁業組合格則 明治三十五年五月十七日
省令第八號

第一章 總則

- 第一條 本則ニ於テ漁業組合ト稱スルハ漁業法第十八條ニ依リ設置スル組合ヲ謂フ
- 第二條 組合ノ名稱ニハ其ノ地區ノ名稱及漁業組合ナル文字ヲ附スヘシ
- 第三條 漁業組合ニ非スシテ其ノ名稱中ニ漁業組合ナル文字ヲ附スルコトヲ得ス
- 第四條 組合ノ地區ハ互ニ重複スルコトヲ得ス
- 第五條 組合ハ理事其ノ他ノ代理人カ其ノ職務ヲ行フニ付他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責任ス

第五條 本則ノ規定ニ依リ地方長官ニ屬スル職權ノ一部ハ農商務大臣ノ認可ヲ得テ下級行政官廳ニ之ヲ委任スルコトヲ得

第二章 組合ノ設置

第六條 組合ヲ設置セムトスルトキハ地區内ニ住所ヲ有スル漁業者五名以上發起人ト爲リ其ノ地區内ニ住所ヲ有スル漁業者三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ規約ヲ議定シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

特別ノ事由ニ因リ前項ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキハ地方長官ノ認可ヲ得テ創立總會ヲ開クコトヲ得

第七條 發起人前條第一項ノ同意ヲ求メムトスルトキハ左ノ事項ヲ地區内ニ住所ヲ有スル漁業者ニ通知スヘシ

一 地區

二 享有行使セムトスル漁業權

三 同意表示ノ方法及期間

第八條 第六條第一項ノ同意又ハ同條第二項ノ認可アリタルトキハ發起人ハ規約並初年度ニ於ケル經費ノ豫算及賦課徵收法ニ關スル議案ヲ作り遲滞ナク創立總會ヲ招集スヘシ

第九條 發起人創立總會ヲ招集スルニハ少クトモ一週間前ニ會議ノ目的、日時及場所並規約案備附ノ場所及閱覽ノ時間ヲ組合員タルヘキ者ニ通知スヘシ

第十條 規約ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 目的
二 名稱、地區及事務所ノ位置

三 組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定

四 役員ニ關スル規定

五 會議ニ關スル規定

六 會計ニ關スル規定

七 漁業權ノ享有行使及之ニ對スル組合員ノ漁業ニ關スル規定

八 違約者處分ニ關スル規定

九 組合員ノ遭難救恤ニ關スル事項ヲ定メタルトキハ之ニ關スル規定

十 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

第十一條 規約ハ組合員タルヘキ者三分ノ二以上ノ同意アルニ非サレハ之ヲ議決スルコトヲ得ス

第十二條 創立總會ニ於テハ組合員タルヘキ者ハ他ノ組合員タルヘキ者ニ委任シテ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得

前項ノ受任者ハ委任狀ヲ發起人ニ差出スヘシ

第十三條 創立總會ヲ終リタルトキハ發起人ハ組合設置ノ認可申請書ヲ地方長官ニ差出スヘシ

前項ノ申請書ニハ規約、初年度ニ於ケル經費ノ豫算及賦課徵收法、第六條ニ定メタル同意アリタルコトヲ證スル書類及創立總會ノ決議録ノ謄本ヲ添附スヘシ

第十四條 組合ノ設置ヲ認可シタルトキハ地方長官ハ其ノ名稱、地區及事務所ノ位置ヲ公告スヘシ之ニ變更ヲ生シタルトキ亦同シ

第三章 組合ノ管理

第十五條 組合ニハ理事及監事ヲ置クヘシ

理事及監事ハ總會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任ス但シ初回ノ理事及監事ハ創立總會ニ於テ組合員

タルヘキ者ノ中ヨリ之ヲ選任スヘシ
 理事及監事ノ選任ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ
 第十六條 理事ノ任期ハ三箇年トシ監事ノ任期ハ一箇年トス但シ規約ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 理事及監事ハ何時ニテモ總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得

第十八條 理事ハ組合ノ事務ニ付組合ヲ代表ス但シ組合ト利益相反スル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス理事數人アル場合ニ於テハ組合ノ事務ハ其ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス但シ規約ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十九條 理事ハ總會ノ決議ニ依ルニ非サレハ左ニ掲ケタル行爲ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 經費ノ豫算及賦課徴收法ヲ定ムルコト
 - 二 漁業權又ハ不動産ニ關スル權利ノ得喪、變更ヲ目的トスル行爲ヲ爲スコト
 - 三 基金ノ利用方法ヲ定メ又ハ其ノ支出ヲ爲スコト
 - 四 豫算外ノ支出ヲ爲シ又ハ負債ヲ起スコト
 - 五 組合員ニ非サル者ニ漁業權ヲ貸付シ又ハ之ト入漁ノ契約ヲ爲スコト
 - 六 組合員ヲ除名スルコト
 - 七 訴訟行爲又ハ和解ヲ爲スコト
 - 八 基金ヲ預入ルヘキ銀行ヲ定ムルコト
- 第二十條 理事ハ經費ノ決算、財産目錄、事業報告書並基金ノ積立及剩餘金ノ分配ニ關スル議案ヲ調製シ監事ノ意見書ト共ニ之ヲ通常總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ
 前項ノ承認ヲ得タルトキハ理事ハ遲滯ナク之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第二十一條 理事ハ規約、前年度ニ於ケル經費ノ決算、其ノ年度ニ於ケル經費ノ豫算、組合員名簿及總會ノ決議録ヲ事務所ニ備ヘ置クヘシ

組合員ハ前項ニ掲ケタル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第二十二條 監事ハ理事又ハ事務員ト相兼スルコトヲ得ス

第二十三條 監事ハ組合ノ財産及事務執行ノ狀況ヲ監査ス

第二十四條 監事財産ノ狀況又ハ事務ノ執行ニ付不整ノ廉アルコトヲ發見シタルトキハ遲滯ナク之ヲ總會又ハ監督官廳ニ報告スヘシ

監事ハ前項ノ報告ヲ爲ス爲必要アルトキハ總會ヲ召集スルコトヲ得

第二十五條 理事其ノ職務ヲ行フコト能ハサルトキ又ハ理事ノ缺ケタルトキハ監事其ノ職務ヲ行フ但シ其ノ期間ハ三箇月以上ニ亘ルコトヲ得ス

第二十六條 前條ノ規定ニ依リ理事ノ職務ヲ行フ者ナキトキハ地方長官ハ組合員中ヨリ假理事ヲ選任シ理事ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第二十七條 理事ハ毎年度少クトモ一回通常總會ヲ開クヘシ

第二十八條 理事ハ必要アリト認ムルトキハ臨時總會ヲ召集スルコトヲ得

組合員ノ五分ノ一以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ請求ヲ爲シタルトキハ理事ハ臨時總會ヲ召集スヘシ但シ此ノ定數ハ規約ヲ以テ之ヲ減スルコトヲ得

第二十九條 總會ヲ召集スルニハ少クトモ會日ノ三日前ニ各組合員ニ對シテ其ノ通知ヲ發スヘシ
 前項ノ通知ニハ會議ノ目的及事項ヲ記載スヘシ

總會ニ於テハ前二項ニ依リテ通知ヲ爲シタル事項ニ付テノ決議ヲ爲スコトヲ得但シ規約ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十條 組合員ハ各一箇ノ議決權ヲ有ス

第三十一條 組合ト或組合員トノ關係ニ付決議ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ組合員ハ議決權ヲ有セス

第三十二條 總會ノ決議ハ規約ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外出席シタル組合員ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第三十三條 左ノ決議ハ組合員三分ノ二以上出席シ其ノ三分ノ二以上ノ同意アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

一 規約變更ノ決議

二 解散ノ決議

三 第十七條、第十九條第二號乃至第六號及第五十八條ノ決議

四 訴訟行爲又ハ和解ヲ爲スコトノ決議

前項第一號乃至第三號ノ決議並經費ノ豫算及賦課徵收法ノ決議ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第三十四條 第十二條ノ規定ハ總會ニ之ヲ準用ス

第三十五條 總會カ決議ヲ爲サヌ又ハ爲スコト能ハサルトキハ理事ハ事情ヲ具シテ地方長官ノ指揮ヲ請フヘシ

前項ノ場合ニ於テハ地方長官ハ總會ノ決議ニ代ルヘキ命令ヲ爲スコトヲ得

第三十六條 總會ノ決議法令若ハ規約ニ違背シ又ハ組合員共同ノ利益ヲ害スト認ムルトキハ理事ハ其ノ執行ヲ停止シ地方長官ノ指揮ヲ請フヘシ

第四章 組合ノ會計

第三十七條 組合ニハ收入役ヲ置クヘシ但シ收支寡少ナル組合ニ於テハ地方長官ノ認可ヲ得テ之ヲ

置カサルコトヲ得

收入役ハ總會ニ於テ之ヲ選任シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ初回ノ收入役ハ創立總會ニ於テ之ヲ選任スルコトヲ得

第三十七條及第三十三條ノ規定ハ收入役ノ解任ニ之ヲ準用ス

第三十八條 收入役ハ理事、監事又ハ事務員ト相兼スルコトヲ得ス

第三十九條 收入役其ノ職務ヲ行フコト能ハサルトキ又ハ收入役ノ缺ケタルトキハ理事其ノ職務ヲ行フ但シ其ノ期間ハ三箇月以上ニ亘ルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ依リ收入役ノ職務ヲ行フ者ナキトキハ地方長官ハ假收入役ヲ選任シ收入役ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第四十條 收入役ハ組合ノ出納ヲ掌リ會計ノ事務ヲ整理ス

第四十一條 組合ハ規約ノ定ムル所ニ依リ收入役ヲシテ身元保證金ヲ供セシムルコトヲ得

第四十二條 收入役ハ規約及豫算ニ違ヒタル支出ヲ爲スコトヲ得ス

理事カ規約及豫算ニ違ヒタル支出ヲ命シタルトキハ收入役ハ之ヲ地方長官ニ具申シ其ノ指揮ヲ請フヘシ

第四十三條 組合ノ事業年度ハ一箇年トス

第四十四條 組合ノ經費ノ豫算及決算ハ別ニ定ムル所ノ方式ニ從ヒテ之ヲ調製スヘシ

第四十五條 組合ハ規約ノ定ムル所ニ依リ組合ノ漁業權ニ依リテ特別ノ利益ヲ受クル組合員ヨリ漁業料ヲ徵收スルコトヲ得

第四十六條 組合ノ收入其ノ經費ヲ支辨シテ剩餘アルトキハ剩餘金額十分ノ一以上ヲ基金トシテ之ヲ積立ツヘシ

基金ハ公債若ハ地方債ヲ買得シ又ハ郵便貯金若ハ一定ノ銀行ニ預入ルルノ外他ニ之ヲ利用スルコトヲ得ス但シ地方長官ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十七條 基金ハ天災、地變其ノ他必要止ムヲ得サル場合又ハ組合員ノ共同ノ利益ヲ増進スルコト顯著ナリト認めラルル場合ノ外之ヲ支出スルコトヲ得ス

第五章 組合員ノ加入、脱退及違約處分

第四十八條 組合ノ地區内ニ一箇年以上住所ヲ有スル者ニシテ組合ニ加入セムトスルトキハ組合ハ、

正當ノ理由アルニ非サレハ之ヲ拒ミ又ハ其ノ加入ヲ困難ナル條件ニ繋ラシムルコトヲ得ス

第四十九條 組合員ノ家督相續人カ相續ノ日ヨリ三十日以内ニ加入ノ申込ヲ爲シタルトキハ相續ノ日ヨリ組合員タリシモノト看做ス但シ隱居シタル被相續人カ組合ヲ脱退セサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五十條 組合ハ規約ノ定ムル所ニ依リ規約ニ違背シタル組合員ヲ除名シ又ハ之ニ過怠金ヲ課スルコトヲ得

第五十一條 不當ニ加入ヲ拒マレタル者又ハ不當ニ除名セラレ若ハ過怠金ヲ課セラレタル者ハ地方長官ニ裁決ヲ申請スルコトヲ得

第六章 組合ノ解散及清算

第五十二條 組合ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

一 存立時期ノ滿了其ノ他規約ニ定メタル事由ノ發生

二 組合ノ目的タル漁業權享有行使ノ不能

三 組合員ノ數カ其ノ地區内ニ住所ヲ有スル漁業者ノ三分ノ一未滿ト爲リタルトキ但シ地方長官ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

四 組合員ノ數カ五人未滿ニ減シタルトキ

五 總會ノ決議

前項第一號乃至第四號ノ事由ニ因リ解散シタルトキハ理事ハ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シ地方長官ニ届出ツヘシ

第五十三條 組合ノ解散アリタルトキハ行政官廳ニ於テ之ヲ公告スヘシ

第五十四條 組合ハ解散ノ後ト雖清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ尙ホ存續スルモノト看做ス

第五十五條 組合カ解散シタルトキハ理事其ノ清算人ト爲ル但シ規約ニ別段ノ定アルトキ又ハ總會ニ於テ他人ヲ選任シタルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リテ清算人タル者ナキトキ又ハ清算人缺ケタルトキハ地方長官之ヲ選任ス

第五十六條 清算人ノ選任ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第五十七條 清算人ハ其ノ職務ノ範圍内ニ於テ理事ト同一ノ權利義務ヲ有ス

第五十八條 清算人ハ清算及財産處分ノ方法ヲ定メ總會ノ決議ヲ經ヘシ

第五十九條 組合債務完済後ノ剩餘金ハ公共團體又ハ水産組合ニ寄附スヘシ

第六十條 清算カ結了シタルトキハ清算人ハ遲滞ナク決算報告書ヲ作り總會ノ承認ヲ經タル後之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第七章 組合ノ監督

第六十一條 組合ハ農商務大臣、地方長官及郡長之ヲ監督ス

第六十二條 監督官廳ハ何時ニテモ理事若ハ清算人ヲシテ組合ノ事業若ハ清算事務ニ關スル報告ヲ

爲サシメ又ハ組合ノ事業、清算事務及財産ノ狀況ヲ検査シ其ノ他必要ナル命令ヲ發シ及處分ヲ行フ

郡長前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク之ヲ地方長官ニ報告スヘシ

第六十三條 組合ノ行爲法令又ハ規約ニ違背シ其ノ他公益ヲ害スト認ムルトキハ監督官廳ハ總會ノ決議若ハ組合ノ行爲ノ取消、役員若ハ清算人ノ解任又ハ組合ノ解散ヲ命スルコトヲ得

郡長前項ノ處分ヲ爲サムトスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第六十四條 地方長官設置ノ認可若ハ規約變更ノ認可ヲ與ヘ又ハ解散ヲ命シ若ハ前條第二項ニ依リ解散ノ處分ノ認可ヲ與ヘタルトキハ遲滯ナク之ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第八章 罰則

第六十五條 組合ノ理事、監事又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

一 官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

二 第二十一條ノ書類ヲ備ヘス又ハ其ノ書類ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

三 第十九條又ハ第五十八條ニ違背シタルトキ

第六十六條 組合ノ理事、監事又ハ清算人本則ニ規定シタル届出ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ届出ヲ爲シタルトキハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

第六十七條 本則ハ漁業法施行ノ日ヨリ施行ス

第六十八條 本則ノ規定ニ依リ郡長ノ行フヘキ職務ハ北海道ニ於テハ支廳長、島司ヲ置キタル島嶼

ニ於テハ島司之ヲ行フ

○水産組合規則

明治三十五年五月十七日 省令第九號

第一條 本則ニ於テ水産組合又ハ水産組合聯合會ト稱スルハ漁業法第二十二條ニ依リ設置スル組合又ハ聯合會ヲ謂フ

第二條 組合及聯合會ニハ漁業法及本則ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外重要物産同業組合法施行規則ノ規定ヲ準用ス

第三條 組合又ハ聯合會ノ名稱ニハ其ノ地區ノ名稱及水産組合又ハ水産組合聯合會ナル文字ヲ附スヘシ

水産組合又ハ水産組合聯合會ニ非シテ其ノ名稱中ニ水産組合又ハ水産組合聯合會ナル文字ヲ附スルコトヲ得ス但シ外國領海水産組合法ニ依ル組合又ハ聯合會ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 組合又ハ聯合會ハ漁業權ヲ享有行使スルコトヲ得ス

第五條 組合又ハ聯合會ノ地區一地方長官ノ管轄ニ屬スルトキハ其ノ設置、定款ノ變更、役員ノ選任、經費ノ豫算並徴收法及解散ノ認可ハ地方長官ニ之ヲ申請スヘシ

地方長官前項ノ組合又ハ聯合會ノ設置、定款ノ變更及解散ノ認可ヲ與ヘムトスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ經ヘシ

第六條 前條第一項ノ組合又ハ聯合會ニ在リテハ重要物産同業組合法第十四條及第十五條ノ處分ハ

農商務大臣ノ認可ヲ得テ地方長官之ヲ行フコトヲ得

第七條 第五條第一項ノ組合又ハ聯合會ニ在リテハ經費ノ決算又ハ業務成績ノ報告及定款又ハ業務ノ執行ニ關スル規則ノ届出ハ之ヲ地方長官ニ爲スヘシ
地方長官前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ農商務大臣ニ之ヲ報告スヘシ

附則

第八條 本則ハ漁業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治十九年農商務省令第七號漁業組合準則ハ之ヲ廢止ス

第九條 本則施行以前ニ於テ水産業ノ改良發達及水産動物ノ蕃殖保護其他水産業ニ關シ共同ノ利益ヲ圖ル爲行政官廳ノ認可ヲ經テ設置シタル組合ニシテ漁業法及本則ノ規定ニ牴觸セサルモノハ本則ノ規定ニ依リ定款ヲ變更シ本則施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ其ノ認可ヲ管轄行政官廳ニ申請スヘシ

○漁業組合模範規約

(甲) (何)浦(濱、村)漁業組合規約

第一章 總則

第一條 本組合ハ漁業權ヲ享有及行使シ組合員共同ノ利益ヲ圖ルヲ以テ目的ト爲ス

第二條 本組合ハ(何)浦(濱、村)漁業組合ト稱ス

第三條 本組合ノ事務所ハ(何)縣(何)郡(何)村大字(何)(何)番地ニ置ク

第四條 本組合ノ地區ハ(何)縣(何)郡(何)浦(濱、村)ノ區域ニ依ル

第五條 本組合ニ於テ使用スル印章左ノ如シ

(印章雛形)

第二章 組合員ノ加入及脱退

第六條 本組合ノ地區内ニ住所ヲ有スル漁業者ハ組合員タルコトヲ得

第七條 組合ニ加入セムトスル者ハ其ノ旨ヲ理事ニ申込ムヘシ

理事前項ノ申込ヲ承諾シタルトキハ組合員名簿ニ其ノ氏名ヲ記載シ其ノ旨ヲ申込人ニ通知スヘシ

第八條 組合員脱退セムトスルトキハ其ノ旨ヲ理事ニ申出ツヘシ

第九條 組合員脱退シタルトキハ理事ハ組合員名簿ヨリ其ノ氏名ヲ削除スヘシ

第三章 理事監事及事務員

第十條 本組合ニ理事三名監事二名ヲ置ク

理事ハ組長一名ヲ互選ス

理事及監事ハ一箇年以上本組合ノ地區内ニ住所ヲ有スル組合員中ヨリ之ヲ選舉ス

第十一條 理事ノ任期ハ(何)箇年トシ監事ノ任期ハ(何)箇年トス但シ再選ヲ妨ケス

補缺選舉ニ依リ就任シタル理事又ハ監事ハ前任者ノ任期ヲ繼承ス

理事又ハ監事任期ノ滿了ニ因リ退任シタルトキハ後任者ノ就任ニ至ルマテ尙其ノ職務ヲ行フ

第十二條 組合員ハ正當ノ理由ナクシテ役員ノ當選ヲ辭シ又ハ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第十三條 理事及監事ハ名譽職トス

第十四條 本組合ニ書記若干名及技術員若干名ヲ置キ理事之ヲ任免ス

書記ハ役員ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

技術員ハ役員ノ指揮ヲ承ケ技術ニ關スル事務ニ従事ス

第十五條 規約及事務ノ執行ニ關スル細則ハ理事之ヲ定ム

第四章 會議

第十六條 總會ハ通常總會及臨時ノ二種トス

通常總會ハ毎年一回(何)月之ヲ開ク

臨時總會ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ開ク

一 理事カ必要ト認メタルトキ

二 監事カ漁業組合規則第二十四條ニ依リ必要ト認メタルトキ

三 組合員五分ノ一以上ヨリ會議ノ目的及其ノ招集ノ理由ヲ示シテ請求シタルトキ

第十七條 總會ハ規約變更ノ決議解散ノ決議及漁業組合規則第十九條ニ掲ケタル事項ノ決議ヲ爲ス

場合ヲ除ク外通知事項以外ノ事項ト雖之ヲ議決スルコトヲ得但シ組合員三分ノ二以上ノ出席者アルコトヲ要ス

第十八條 總會ハ組合員ノ三分ノ一以上出席スルニ非サレハ開會スルコトヲ得但シ同一事項ニ付

キ再度招集シタル總會ニ於テハ此限ニ在ラス

第十九條 總會ノ決議ハ出席員ノ過半数ニ依ル可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第二十條 總會ノ議長ハ組長之ニ當タル

組長事故アルトキハ理事ノ一人之ニ代ル但シ總會ニ於テ出席組合員之ヲ互選スルコトヲ得

第二十一條 總會ニ於テハ決議録ヲ作り議長及出席組合員三名以上之ニ記名捺印スルモノトス

第二十二條 總會ノ議事ニ關スル細則ハ總會ニ於テ之ヲ定ム

第五章 會計

第二十三條 本組合ノ會計年度ハ毎年(何)月(何)日ニ始マリ(何)月(何)日ニ終ル

第二十四條 本組合ニ收入役一名ヲ置ク

收入役ハ本組合地區内ニ住所ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス

第二十五條 收入役ノ任期ハ(何)箇年トス但シ再選ヲ妨ケス

第二十六條 收入役ハ身元保證金トシテ總會ニ於テ定メタル金額又ハ有價證券ヲ差出スヘシ

第二十七條 收入役ノ身元保證金ハ總會ニ於テ定メタル方法ニ依リ之ヲ保管ス

第二十八條 收入役ハ有給職トス

收入役ノ給料額ハ總會ニ於テ之ヲ定ム

第二十九條 (何)圓以上ノ現金ハ總會ニ於テ定メタル銀行ニ之ヲ預ケ入ル、モノトス

第三十條 毎年度ノ剩餘金ハ左ノ範圍内ニ於テ總會ノ議決ヲ經テ之ヲ處分ス

一 基金ノ積立 剩餘金ノ百分ノ二十以上

一 遭難救恤資金ノ積立 剩餘金ノ百分ノ五以上

一 組合員分配金 剩餘金ノ百分ノ七十五以下

第六章 漁業權ノ享有行使及漁業方法

第三十一條 本組合ノ享有スル漁業權左ノ如シ

一 地先水面専用漁業權

鳥賊曳網、蝦刺網、鮑、石花菜、搗布漁業

二 定置漁業權

臺網類漁業 大敷網

枴網類漁業 盛網

三 區劃漁業權

第一種漁業 眞珠介養殖業

四 特別漁業權

第三種漁業 鰯地曳網

第三十二條 本組合ノ享有スル漁業權ノ行使方法左ノ如シ

- 一 地先水面専用漁業權ニ依ル漁業ハ組合員各自ニ又ハ共同シテ之ヲ爲スモノトス但シ鮑漁業ニ付テハ期間ヲ定メ組合員ノ入札ニ依リ漁業者ヲ定ムルコトアルヘシ
- 二 大敷網漁業ニ付テハ期間ヲ定メ組合員ノ入札ニ依リ漁業者ヲ定ム但シ場合ニ依リ組合員ニ非サル者ニ漁業權ヲ貸付スルコトアルヘシ

盜網漁業ニ付テハ組合員ノ抽籤ニ依リ漁業者ヲ定ム但シ當籤者ニシテ漁業ヲ爲ササル者アルトキハ當籤者ニ非サル者ニ付キ更ニ抽籤ヲ行ヒ之ニ代ル者ヲ定ム

三 眞珠介養殖業ニ付テハ五箇年以上ニ於テ期間ヲ定メ組合員ノ入札ニ依リ漁業者ヲ定ム

四 鰯地曳網漁業ハ組合員ノ組織スル地曳網組ニ於テ之ヲ爲ス

第三十三條 組合員ニ於テ鰯地曳網組ヲ組織シタルトキハ之ヲ組合ニ届出ツヘシ

第三十四條 本組合ノ享有スル漁業權ニ對スル組合員ノ漁業ノ方法ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一 鳥賊曳網漁業者ハ抽籤ヲ以テ定メタル順序ニ依リ漁業ヲ爲スモノトス
- 二 鰹刺網漁業者ハ漁期ノ初メニ於テ抽籤ヲ以テ漁場ノ順位ヲ定メ毎日輪番交代シテ漁業ヲ爲スモノトス

三 鰯地曳網漁業者ハ各網組ノ抽籤ヲ以テ定メタル順序ニ依リ毎日交代シテ漁業ヲ爲スモノトス

四 石花菜漁業者ハ西ノ濱ノ芝山ニ赤旗ヲ掲ケタル後出漁スルモノトス

第三十五條 本組合ハ總會ノ決議ニ依リ左ノ範圍内ニ於テ定メタル金額ヲ漁業料トシテ徴收スルモノトス

- 一 鰯地曳網漁業 網一統ニ付金(何)圓乃至(何)圓
- 二 壹網漁業 網一統ニ付金(何)圓乃至(何)圓

第七章 組合員ノ遭難救恤

第三十六條 本組合ハ組合員ノ遭難救恤ニ充ツル爲遭難救恤資金ヲ積立ツルモノトス

前項ノ資金ハ總額(何)百圓ニ達スルトキハ其ノ積立ヲ停止スルモノトス

第三十七條 遭難救恤資金ハ總會ノ決議ニ依リ別ニ定メタル規程ニ從ヒ左ノ費途ニ之ヲ支出スルモノトス

- 一 水難其他ノ變災ニ遭遇シ漁具、漁船ヲ喪失毀損シタルトキハ其ノ新調費又ハ修繕費ノ補助
- 二 遭難ニ因リ負傷シ若ハ疾病ニ罹リタル者ノ醫療費ノ補助
- 三 漂流者ノ歸郷旅費ノ補助
- 四 遭難者ノ家族ノ扶助料
- 五 遭難者ヲ救助シタル者ニ對スル賞與金又ハ謝金

第三十八條 前條ノ支出ヲ爲シタルトキハ其ノ事由、金額及受領者ノ氏名ヲ事務所ニ揭示スヘシ

第三十九條 遭難ノ場合ニ於テハ組合員ハ相互ニ救助ヲ爲スヘシ

第四十條 遭難ノ救助ヲ受ケ又ハ救助ヲ爲シタル者ハ遲滞ナク其ノ事實ヲ組合ニ申出ツヘシ

第八章 違約者處分

第四十一條 第三十四條ノ規定ニ違背シタル者ニハ金何圓以下ノ過怠金ヲ課ス

第四十二條 組合ノ經費又ハ漁業料ノ納付ヲ怠リタル者ニハ一日ニ付キ其ノ滯納金額(何分)ノ(何)ノ過怠金ヲ課ス

第九章 解散